

鳥取県立中央病院

業 績 集

第 43 集



2024

卷頭言

鳥取県立中央病院 院長 千酌 浩樹

鳥取県立中央病院は当初（1949年2月）184床、8診療科でスタートしましたが、現在（2025年4月）では518床、34診療科、10センターと、鳥取県東部圏域の基幹病院として発展してきました。現在に至るまで多くの苦難を乗り越えてこられた諸先輩、関係各位に心より敬意と感謝を申し上げます。

当院の理念は『質の高い医療を提供し患者の生命と健康を守ります』です。これを実現するため、高度急性期医療（がん、救急、生殖・不妊、等）の推進、身体に優しい治療（放射線治療、ロボット手術、血管内治療、等）や検査（スペクトラルCT、前立腺生検TRINITY、等）の充実、患者に優しく（待ち時間、言葉遣い、等の患者対応）、働きやすく（モチベーション向上策、ハラスマント対応、等）、地域に必要な病院（地域病院への診療支援、市民講座、等）、などの対策を実行しております。また、2024年度には2台目のダヴィンチ、心臓カテーテル治療（TAVI）の導入いたしました。

さて、当院では、ロボット手術（ダヴィンチ）の適応を泌尿器科、外科、呼吸器・乳腺・内分泌外科、以外に産婦人科にも広げると共に、山陰初の新しいがん放射線治療（放射線同位元素ルタテラ内服）等、より患者に優しい治療を追求しております。また、水頭症外来や助産師外来を好評のうちに始め、2024年4月より感染症・総合内科外来が始まっています。さらに、医療従事者育成のため、院内にシミュレーションセンターを開設設置しました。消化器内視鏡や内視鏡治療、超音波検査等のトレーニングシミュレーター、新生児用の気道管理トレーナー、等も充実しており、医師、研修医、看護師のみならず、院外から多くの医療従事者が研修にきており、これから鳥取県東部圏域における医療研修に大いに役立っているところです。

多くの皆さんのご協力のお陰で、本年度も業績集をホームページに滞りなく公開することが出来ました。われわれ医療人は患者さんに寄り添って思いやりの心を醸成すると共に、常に最新の医学、看護、薬学、検査、放射線、理学療法、臨床工学、心理、等々の学問と実践を追求し、それを患者さんに還元していく役目を担っております。そして、その役目を果たすためにも、この業績集は大いに参考になるのではないかと思っております。

われわれ職員は今後も引き続き一丸となって鳥取県東部圏域の医療の質向上を目指していく所存です。皆様方のご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

鳥取県立中央病院業績集 第43集

目 次

卷頭言

施設認定、個人資格、学会評議員ほか（2024年4月～2025年3月）

1

臨床研修医名簿、コメント

31

誌上発表論文等、研究業績目録（2024年1月～12月）

・感染症・総合内科	33
・消化器内科	33
・心臓内科	34
・緩和ケア内科	38
・血液内科・輸血科	38
・糖尿病・内分泌・代謝内科	43
・脳神経内科	45
・腎臓内科	47
・リウマチ・膠原病内科	48
・小児科	48
・外科	50
・小児外科	54
・脳神経外科	54
・整形外科	55
・心臓血管外科	56
・呼吸器・乳腺・内分泌外科	57
・皮膚科	58
・泌尿器科	58
・産婦人科	60
・放射線科	61
・麻酔科	63
・救急集中治療科	63
・歯科口腔外科	67
・看護局	69
・薬剤部	70
・中央放射線室	71
・中央検査室	72
・臨床工学室	74
・リハビリテーション室	75
・栄養管理室	76

・感染防止対策室	77
・患者支援センター	77
・がん相談支援センター	79
・臨床心理士室	81

臨床統計（2024年1月～12月）

・各診療科統計	83
心臓内科、脳神経内科（脳卒中センター）、小児科、外科／消化器外科、小児外科、脳神経外科、形成外科、耳鼻いんこう科、整形外科、心臓血管外科、呼吸器・乳腺・内分泌外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、放射線科、麻酔科、救急集中治療科、歯科口腔外科、病理診断科	
・各センター・各部門統計	
救命救急センター、周産期母子センター、血液浄化室、薬剤部、中央放射線室、中央検査室、リハビリテーション室、栄養管理室、手術センター、患者支援センター（医事部門）、健診センター	
・病理解剖症例一覧	
・医療安全対策室	
・感染防止対策室	
・外来治療室	
・院内がん登録	

院内研究会・CPC（2024年1月～12月）

・緩和ケア内科	155
・小児科	155
・歯科口腔外科	155
・看護局	156
・感染防止対策室	156
・中央放射線室	159
・中央検査室	160
・栄養管理室	162
・薬剤部	163
・患者支援センター（がん相談支援センター、臨床心理士室）	165
・CPC（臨床病理検討会）	167

業績集規約

192

施 設 認 定
個 人 資 格
学会評議員ほか

(2024年4月～2025年3月)

施設認定（2024年4月～2025年3月）

<認定・指定病院の状況>

日本医療機能評価機構	日本医療機能評価機構認定 3rdG : Ver.2.0
卒後臨床研修評価機構	認定施設
厚生労働省・鳥取県	臨床研修病院（基幹型・協力型） 臨床修練指定病院 歯科研修協力施設 地域がん診療連携拠点病院 エイズ拠点病院 地域周産期母子医療センター 基幹災害拠点病院 原子力災害拠点病院 D M A T 指定医療機関 第二種感染症指定医療機関 地域医療支援病院 肝疾患専門医療機関
日本臓器移植ネットワーク	脳死からの臓器提供病院
日本骨髓バンク	非血縁者間骨髓採取認定採取施設
世界保険機構・国連児童基金	赤ちゃんにやさしい病院（Baby Friendly Hospital）
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会	マンモグラフィ検診施設画像認定
日本臨床衛生検査技師会	精度保証施設認定
国立研究開発法人国立がん研究センター	認定がん相談支援センター
日本脳卒中学会	一次脳卒中センター（PSC）

<学会指定病院の状況>

日本内科学会	認定医制度教育関連病院
日本消化器病学会	専門医制度指導施設
日本消化器内視鏡学会	専門医制度指導施設
日本消化管学会	胃腸科指導施設
日本肝臓学会	認定施設
日本呼吸器学会	認定施設
日本呼吸器内視鏡学会	関連認定施設
日本糖尿病学会	認定教育施設
日本血液学会	認定血液研修施設
日本造血細胞移植学会	非血縁者間造血幹細胞移植認定移植施設
日本循環器学会	認定循環器専門医研修施設

日本不整脈学会・日本心電図学会	認定研修施設
日本心血管インターベンション治療学会	認定研修施設
日本神経学会	専門医制度准教育施設
日本リウマチ学会	教育認定施設
日本脳卒中学会	認定研修教育病院
日本精神神経学会	専門医制度研修施設
日本外科学会	外科専門医制度修練施設
日本消化器外科学会	専門医修練施設
日本食道学会	食道外科専門医認定施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構	基幹施設
関連 11 学会構成ステントグラフト実施基準管理委員会	血管内治療実施施設
関連 10 学会構成ステントグラフト実施管理委員会	ステントグラフト実施施設（腹部・胸部）
呼吸器外科専門医合同委員会	専門医制度認定修練施設
日本乳癌学会	認定医・専門医制度関連施設
日本脳神経外科学会	専門医研修プログラム 研修施設
日本整形外科学会	専門医研修施設
日本形成外科学会	専門医認定施設
日本小児科学会	専門医認定施設 鳥取大学小児科専門研修プログラム連携施設
日本周産期・新生児医学会	周産期（新生児）専門医 指定研修施設 周産期母体・胎児専門医 基幹研修施設
日本小児循環器学会	小児循環器専門医修練施設群
日本小児神経学会	専門医研修関連施設
日本小児外科学会	教育関連施設 B
日本産科婦人科学会	専門医制度専攻医指導施設 婦人科腫瘍登録施設 周産期登録施設 体外受精・胚移植に関する登録施設 ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録施設 顕微授精に関する登録施設 医学的適応による未受精卵子、胚（受精卵）の凍結・保存に関する登録施設 妊娠性温存療法実施医療機関（検体保存機関）
日本産婦人科腫瘍学会	指定修練施設 B
日本生殖医学会	認定研修施設
婦人科悪性腫瘍化学療法研究機構	登録参加施設
日本女性医学学会	認定研修施設

日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構	連携施設
出生前検査認証制度等運営委員会	NIPT を実施する医療機関（基幹施設）
日本泌尿器科学会	拠点教育施設
日本眼科学会	専門医制度研修施設
日本耳鼻咽喉科学会	専門医研修施設
日本医学放射線学会	専門医修練機関
日本IVR学会	専門医修練認定施設
日本麻酔科学会	認定病院
日本臨床腫瘍学会	認定研修施設
日本がん治療認定医療機構	認定研修施設
日本プライマリ・ケア学会	認定医研修施設
日本臨床栄養代謝学会	NST 稼動認定施設 NST 専門療法士認定教育施設
日本病態栄養学会	栄養管理 NST 実施施設 専門医研修認定施設
日本栄養療法推進協議会	NST 稼働施設
日本病理学会	研修認定施設 B
日本臨床細胞学会	認定施設、教育研修認定施設
日本超音波医学会	認定超音波専門医研修施設
日本口腔外科学会	認定研修施設
日本病院総合診療医学会	専門医研修施設
特定非営利活動法人日本臨床検査標準協議会	精度保証施設認定
日本皮膚科学会	専門医研修施設
日本内分泌外科学会専門医制度	認定施設
日本呼吸器外科専門医合同委員会	専門研修連携施設
日本腎臓学会	研修施設
日本透析医学会	教育関連施設
日本高気圧環境・潜水医学会	認定施設
日本救急医学会	救急科専門医プログラム機関医療施設
日本集中治療医学会	専門医研修施設
日本腹部救急医学会	腹部救急認定医・教育医制度認定施設
日本急性血液浄化学会	認定指定施設
日本航空医療学会	指定施設
日本胃癌学会	認定施設 A

個人資格（2024年4月～2025年3月）

感染症・総合内科

日本感染症学会	専門医	椋田権吾
ICD 制度協議会	インフェクションコントロールドクター	椋田権吾
日本内科学会	認定医	椋田権吾
	総合内科専門医	椋田権吾
	指導医	椋田権吾
日本病院総合診療医学会	認定病院総合診療医	椋田権吾
総合診療研修	特任指導医	椋田権吾
日本渡航医学会	認定医療職	椋田権吾

緩和ケア内科

日本内科学会	認定医	浦川 賢
	総合内科専門医	浦川 賢
	指導医	浦川 賢
日本緩和医療学会	認定医	浦川 賢

呼吸器内科

日本内科学会	認定医	杉本勇二, 澄川 崇, 上田康仁, 松下瑞穂
	総合内科専門医	澄川 崇, 上田康仁, 松下瑞穂
	指導医	杉本勇二, 澄川 崇, 上田康仁, 松下瑞穂
日本呼吸器学会	専門医	杉本勇二, 澄川 崇, 上田康仁, 松下瑞穂
	指導医	杉本勇二, 上田康仁
日本呼吸器内視鏡学会	気管支鏡専門医	澄川 崇
ICD 制度協議会	日本感染症学会推薦 ICD 認定医	杉本勇二
	日本呼吸器学会推薦 ICD 認定医	上田康仁
日本臨床腫瘍学会	がん薬物療法専門医	澄川 崇, 上田康仁
	指導医	上田康仁
日本がん治療認定医機構	認定医	上田康仁
肺がん CT 検診認定機構	認定医	上田康仁

消化器内科

日本内科学会	認定医	田中 究, 柳谷淳志, 前田和範, 岡田智之, 岩本 拓, 濱本 航
	総合内科専門医	柳谷淳志, 前田和範
	指導医	田中 究, 柳谷淳志, 前田和範

日本消化器病学会	専門医	田中 究, 柳谷淳志, 前田和範, 岩本 拓, 岡田智之, 濱本 航
	指導医	柳谷淳志, 前田和範
日本消化器内視鏡学会	専門医	田中 究, 柳谷淳志, 前田和範, 岩本 拓, 岡田智之
	指導医	田中 究, 柳谷淳志, 前田和範
日本消化管学会	胃腸科専門医	柳谷淳志
	指導医	柳谷淳志
日本肝臓学会	専門医	田中 究, 柳谷淳志, 前田和範
	指導医	柳谷淳志, 前田和範
日本がん治療認定医機構	認定医	田中 究, 柳谷淳志

血液内科

日本内科学会	認定内科医	田中孝幸, 小村裕美, 橋本由徳
	総合内科専門医	田中孝幸, 小村裕美, 橋本由徳
	指導医	田中孝幸, 小村裕美, 橋本由徳
日本血液学会	専門医	田中孝幸, 小村裕美, 藤本信乃, 橋本由徳
	指導医	田中孝幸, 橋本由徳
日本造血・細胞療法学会	移植認定医	田中孝幸, 橋本由徳
鳥取大学医学部	臨床教授	田中孝幸, 橋本由徳

糖尿病・内分泌・代謝内科

日本内科学会	認定医	檜崎晃史, 村尾知良
	総合内科専門医	檜崎晃史, 村尾知良
	指導医	檜崎晃史, 村尾知良
日本糖尿病学会	専門医	檜崎晃史, 村尾知良
	指導医	檜崎晃史
JADEC (日本糖尿病協会)	認定医	檜崎晃史, 村尾知良
日本病態栄養学会	専門医	檜崎晃史
	指導医	檜崎晃史
	NST コーディネーター	檜崎晃史
日本スポーツ協会	公認スポーツドクター	檜崎晃史
日本プライマリ・ケア連合学会	認定医	村尾知良
	指導医	村尾知良
鳥取大学医学部附属病院	診療連携教授	檜崎晃史

脳神経内科

日本内科学会	認定医	下田 学, 竹内裕彦, 種田健太
	総合内科専門医	下田 学
	指導医	下田 学
日本神経学会	専門医	下田 学
	指導医	下田 学
日本脳卒中学会	専門医	下田 学
鳥取県	身体障害者指定医	下田 学

腎臓内科

日本内科学会	認定医	宗村千潮, 審意翔太朗
	内科専門医	小川将也
	総合内科専門医	宗村千潮
	指導医	宗村千潮, 審意翔太朗
日本消化器病学会	専門医	審意翔太朗
日本腎臓学会	専門医	宗村千潮, 審意翔太朗, 小川将也
	指導医	宗村千潮, 審意翔太朗
日本透析医学会	専門医	宗村千潮, 審意翔太朗, 小川将也
日本ヘリコバクター学会	H. pylori (ピロリ菌) 感染症認定医	審意翔太朗

リウマチ・膠原病内科

日本内科学会	認定医	長谷川泰之
	総合内科専門医	長谷川泰之
	指導医	長谷川泰之
日本呼吸器学会	専門医	長谷川泰之
日本アレルギー学会	専門医	長谷川泰之
日本リウマチ学会	専門医	長谷川泰之
	指導医	長谷川泰之

精神科

厚生労働省	精神腫瘍学基本教育指導者	辻谷直哉
-------	--------------	------

心臓内科

日本内科学会	認定医	吉田泰之, 那須博司, 小倉一能, 赤坂俊彦, 高見亜衣子
	専門医	西出庸平
	総合内科専門医	那須博司, 小倉一能, 赤坂俊彦, 高見亜衣子

	指導医	吉田泰之, 那須博司, 小倉一能, 赤坂俊彦
	中国地区評議員	吉田泰之, 那須博司
日本循環器学会	認定循環器専門医	那須博司, 小倉一能, 赤坂俊彦, 高見亜衣子
日本心血管インターベンション治療学会	名誉専門医	吉田泰之
	専門医	那須博司, 赤坂俊彦
	指導医	那須博司
	認定医	樋口 遼
日本不整脈学会	認定専門医	小倉一能, 高見亜衣子
日本糖尿病学会	糖尿病専門医	吉田泰之
日本救急医学会	専門医	樋口 遼
日本経カテーテル心臓弁症治療学会	TAVR 実施医 (SAPIEN)	赤坂俊彦
日本周術期経食道心エコー認定委員会 (JB-POT)	認定医	小倉一能, 赤坂俊彦
日本心不全学会	心不全緩和ケアトレーニング修了	赤坂俊彦, 西出庸平
日本医師会	産業医	吉田泰之
若年心疾患生活習慣病対策協議会	理事	吉田泰之
日本航空医療学会	指導医	樋口 遼

小児科

日本小児科学会	専門医	宇都宮靖, 田村明子, 戸川雅美, 堂本友恒, 倉信裕樹, 田中 登, 萩元慎二, 前垣義弘, 宇山 祥, 赤星 駿
	指導医	宇都宮靖, 田村明子, 堂本友恒, 倉信裕樹, 萩元慎二
日本腎臓学会	腎臓専門医	宇都宮靖
日本周産期・新生児医学会	専門医	田村明子, 堂本友恒, 田中 登, 萩元慎二
	指導医	田村明子, 堂本友恒
日本小児循環器学会	専門医	倉信裕樹, 田中 登
日本小児神経学会	小児神経専門医	戸川雅美, 前垣義弘
日本小児感染症学会	認定医	宇都宮靖
ICD 協議会	インフェクションコントロールドクター	宇都宮靖

外科

日本外科学会	指導医	廣岡保明, 建部 茂, 尾崎知博
	外科専門医	廣岡保明, 建部 茂, 蘆田啓吾, 尾崎知博, 和田大和, 津田亜由美
	外科認定医	建部 茂, 蘆田啓吾, 尾崎知博

日本消化器外科学会	指導医	廣岡保明, 建部 茂, 蘆田啓吾, 尾崎知博
	消化器外科専門医	廣岡保明, 建部 茂, 蘆田啓吾, 尾崎知博, 和田大和, 津田亜由美
	消化器がん外科治療認定医	廣岡保明, 建部 茂, 蘆田啓吾, 尾崎知博
日本内視鏡外科学会	技術認定 (消化器・一般外科)	建部 茂(食道), 蘆田啓吾(大腸), 尾崎知博(胃)
	ロボット支援手術認定プロクター	建部 茂, 蘆田啓吾, 尾崎知博
日本食道学会	食道外科専門医	建部 茂
	食道外科認定医	建部 茂, 尾崎知博
日本がん治療認定医機構	暫定教育医	建部 茂
	がん治療認定医	建部 茂
日本臨床栄養代謝学会	認定医	尾崎知博
	指導医	尾崎知博
ダビンチサージカルシステム	認定	建部 茂, 蘆田啓吾, 尾崎知博, 津田亜由美
日本乳癌学会	専門医	廣岡保明
日本腹部救急医学会	認定医	和田大和
日本臨床細胞学会	専門医	廣岡保明
日本ロボット外科学会	専門医	尾崎知博
日本救急医学会	専門医	和田大和
日本航空医療学会	認定指導医	和田大和
鳥取大学医学部	臨床教授	建部 茂
鳥取大学医学部附属病院	連携診療教授	建部 茂
日本集中治療医学会	専門医	和田大和
厚生労働省	統括 DMAT	和田大和
	日本 DMAT 隊員	和田大和

小児外科

日本外科学会	専門医	黒田征加
日本小児外科学会	専門医	黒田征加
日本周産期・新生児医学会	認定外科医	黒田征加

整形外科

日本整形外科学会	専門医	村田雅明, 村岡智也, 山下尚寛, 上村篤史, 奥野誠之
	認定脊椎脊髄病医	村田雅明
	認定スポーツ医	村岡智也, 山下尚寛, 上村篤史
	認定リウマチ医	上村篤史

	認定リハビリテーション医	上村篤史
日本脊椎脊髄病学会	脊椎脊髄外科指導医	村田雅明
	専門医	村田雅明
日本スポーツ協会	公認スポーツドクター	村岡智也
日本医師会	認定産業医	村田雅明
日本骨粗鬆症学会	認定医	上村篤史
日本人工関節学会	認定医	上村篤史

形成外科

日本形成外科学会	専門医	坂井 香
	小児形成外科分野指導医	坂井 香
日本創傷外科学会	専門医	坂井 香
日本熱傷学会	熱傷専門医	坂井 香
American Burn Association (アメリカ熱傷学会)	ABLS Provider Course 認定	坂井 香
日本がん治療認定医機構	がん治療認定医	坂井 香

脳神経外科

日本脳神経外科学会	専門医	田渕貞治, 長尾裕一郎
	指導医	田渕貞治
日本脳卒中の外科学会	技術指導医	田渕貞治
日本脳卒中学会	専門医	田渕貞治
	指導医	田渕貞治
日本神経内視鏡学会	技術認定医	田渕貞治
日本脳神経血管内治療学会	専門医	長尾裕一郎
日本医師会	認定産業医	田渕貞治
鳥取大学医学部	臨床教授	田渕貞治

心臓血管外科

日本外科学会	指導医	宮坂成人, 佐伯宗弘
	外科専門医	宮坂成人, 佐伯宗弘, 仁井陸冬, 池田陽祐, 森本健一
	認定医	宮坂成人, 佐伯宗弘
日本胸部外科学会	認定医	宮坂成人
日本心臓血管外科専門医	心臓血管外科専門医	宮坂成人, 佐伯宗弘, 仁井陸冬, 池田陽祐
認定機構	修練指導者	宮坂成人, 佐伯宗弘
日本低侵襲心臓手術学会	低侵襲心臓手術認定医	宮坂成人

経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会	TAVI 実施医	佐伯宗弘
	TAVI 指導医	佐伯宗弘
日本ステントグラフト実施基準管理委員会	腹部ステントグラフト実施医	宮坂成人, 仁井陸冬, 佐伯宗弘, 池田陽祐, 森本健一, 吉川侑希
	指導医	宮坂成人, 仁井陸冬, 佐伯宗弘, 池田陽祐, 森本健一
日本ステントグラフト実施基準管理委員会	胸部ステントグラフト実施医	佐伯宗弘, 仁井陸冬, 池田陽祐, 森本健一
	指導医	佐伯宗弘, 仁井陸冬
浅大腿動脈ステントグラフト実施基準委員会	浅大腿動脈ステントグラフト実施医	佐伯宗弘
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会	検診マンモグラフィ読影認定医師	宮坂成人
下肢静脈瘤血管内焼灼術実施・管理委員会	下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施医	仁井陸冬, 池田陽祐, 森本健一, 吉川侑希
	指導医	仁井陸冬, 池田陽祐
日本心臓血管外科学会	評議員	佐伯宗弘
日本血管外科学会	血管内治療認定医	佐伯宗弘, 仁井陸冬, 池田陽祐
鳥取大学医学部	臨床教授	宮坂成人
鳥取大学医学部附属病院	連携診療准教授	宮坂成人

呼吸器・乳腺・内分泌外科

日本外科学会	指導医	前田啓之
	外科専門医	前田啓之, 城所嘉輝, 門永太一
	認定医	前田啓之
日本胸部外科学会	認定医	前田啓之
日本呼吸器外科専門医認定機構	呼吸器外科専門医	前田啓之, 城所嘉輝
日本呼吸器外科学会	胸腔鏡安全技術認定医	前田啓之
	ロボット支援手術プロクター	城所嘉輝
ダヴィンチサーボカルシステム	認定	前田啓之, 城所嘉輝
日本内分泌外科学会	内分泌外科専門医	前田啓之
日本甲状腺学会	日本甲状腺学会専門医	前田啓之
日本乳癌学会	認定医	前田啓之, 門永太一
日本がん治療認定医機構	がん治療認定医	前田啓之, 城所嘉輝, 門永太一
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会	検診マンモグラフィ読影認定医師	前田啓之, 城所嘉輝, 門永太一
厚生労働省	麻酔科標榜許可医	前田啓之
日本医療情報学会	医療情報技師	前田啓之

鳥取大学医学部	臨床教授	前田啓之
	臨床准教授	城所嘉輝, 門永太一
鳥取大学医学部附属病院	連携診療准教授	前田啓之
日本医療リンパドレナージ協会	リンパ浮腫医師対象理論 講習会終了	門永太一

泌尿器科

日本泌尿器科学会	指導医	村岡邦康
	専門医	川本文弥
日本専門医機構	泌尿器科専門医	村岡邦康
日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会	泌尿器腹腔鏡技術認定医	村岡邦康, 川本文弥
	ロボット支援手術認定プロクター(膀胱・前立腺)	村岡邦康
日本内視鏡外科学会	技術認定医	村岡邦康, 川本文弥
日本排尿機能学会	専門医	川本文弥
日本臨床倫理学会	臨床倫理認定士	村岡邦康
日本がん治療認定医機構	がん治療認定医	村岡邦康
日本内科学会	認定内科医	川本文弥
日本医師会	認定産業医	川本文弥
ICD 協議会	認定 ICD	川本文弥
ダビンチサージカルシステム	認定	村岡邦康, 川本文弥
厚生労働省	臨床修練指導医	村岡邦康, 川本文弥
鳥取県	難病指定医(泌尿器科)	村岡邦康
鳥取大学医学部	附属病院連携診療教授	村岡邦康

産婦人科

日本産科婦人科学会	専門医	高橋弘幸, 竹中泰子, 野中道子, 上垣 崇, 工藤明子, 山根恵美子
	指導医	高橋弘幸, 竹中泰子, 野中道子, 上垣 崇, 工藤明子, 山根恵美子
日本専門医機構	産婦人科領域 専門医	高橋弘幸, 竹中泰子, 野中道子, 上垣 崇, 工藤明子, 山根美恵子, 圓井孝志
日本産婦人科医会	鳥取県 理事	高橋弘幸
	母と子のメンタルヘルスケア研修会(入門編) 指導者	高橋弘幸
	母と子のメンタルヘルスケア研修会(入門編) 修了	山根美恵子, 圓井孝志
日本周産期・新生児医学会	周産期専門医(母体・胎児) 専門医	高橋弘幸

	周産期（母体・胎児）指導医	高橋弘幸
	新生児蘇生Aコース・インストラクター	高橋弘幸
	新生児蘇生Aコース修了	竹中泰子, 山根恵美子, 圓井孝志
日本母体救命システム普及協議会	ベーシックコース・インストラクター	上垣 崇
無痛分娩関係学会・団体連絡協議会	カテゴリーA修了	高橋弘幸
日本超音波医学会	超音波専門医・指導医	高橋弘幸
日本人類遺伝学会・日本遺伝カウンセリング学会	臨床遺伝専門医（生殖医療・遺伝性腫瘍）	高橋弘幸
日本婦人科腫瘍学会	婦人科腫瘍専門医	野中道子, 工藤明子
日本がん治療認定医機構	がん治療認定医	工藤明子, 山根美恵子
日本臨床細胞学会	細胞診専門医	野中道子, 工藤明子
ダビンチサージカルシステム	認定医	野中道子, 工藤明子
	助手	上垣 崇
日本生殖医学会	生殖医療専門医	上垣 崇, 山根美恵子
日本産科婦人科内視鏡学会	技術認定医	工藤明子
日本内視鏡外科学会	技術認定医(産科婦人科)	工藤明子
厚生労働省	臨床修練指導医	高橋弘幸, 竹中泰子, 野中道子, 上垣 崇, 工藤明子, 山根美恵子
厚生労働省医政局	災害時小児・周産期リエゾン	高橋弘幸, 竹中泰子, 上垣 崇, 山根恵美子, 圓井孝志
鳥取県	DMAT隊員	高橋弘幸
	周産期医療協議会委員	高橋弘幸
鳥取県医師会	母体保護法指定医師	高橋弘幸, 竹中泰子, 野中道子, 上垣 崇
鳥取県健康対策協議会	母体保護法指定医師審査委員会委員	高橋弘幸
	母子保健対策専門委員	高橋弘幸
	子宮がん対策専門委員	高橋弘幸
日本女性医学学会	女性ヘルスケア暫定指導医	高橋弘幸
日本母性内科学会	母性内科診療プロバイダー	高橋弘幸
日本女性心身医学	更年期指導士	高橋弘幸
日本母乳の会	BFH認定継続評価委員	高橋弘幸
女性アスリート健康支援委員会	講習会受講医師	高橋弘幸
日本臨床倫理学会	臨床倫理認定士(基礎編)	高橋弘幸

日本医療メディエーター協会	医療メディエーターB	高橋弘幸
日本医療安全学会	高度医療安全推進者	高橋弘幸
	ピアソポーター	高橋弘幸
国際医療リスクマネジメント学会	医療安全コンサルタント	高橋弘幸
	医療安全トレーナー	高橋弘幸
	医療安全認定情報処理管理者	高橋弘幸
	アドミニストレーター	高橋弘幸
医療安全心理・行動学会	医療安全心理・行動コンサルタント	高橋弘幸
	医療安全活動指導員	高橋弘幸
日本医療安全推進学会	医療安全高度専門家	高橋弘幸
鳥取大学医学部附属病院	臨床教授	高橋弘幸
	連携診療教授	高橋弘幸
岡山大学医学部	臨床教授	高橋弘幸

眼科

日本眼科学会	専門医	伊藤久太朗, 谷口行恵
	PDT 認定医	伊藤久太朗
	視覚障害者用補装具適合判定医	谷口行恵

耳鼻いんこう科

日本耳鼻咽喉科学会	専門医	松田英賢
-----------	-----	------

放射線科

日本医学放射線学会	放射線診断専門医	松末英司, 井上千恵, 松本顕佑
	放射線治療専門医	中村一彦, 谷野朋彦
	指導医	中村一彦, 松末英司, 井上千恵, 谷野朋彦, 松本顕佑
日本核医学会	核医学専門医	松末英司, 井上千恵
	PET 核医学認定医	松末英司, 井上千恵
日本IVR学会	専門医	中村一彦, 松本顕佑
日本がん治療認定医機構	認定医	中村一彦
厚生労働省	日本DMAT隊員	中村一彦
原子力規制庁	原子力災害医療派遣チーム隊員	中村一彦
鳥取大学医学部	臨床教授	中村一彦
鳥取大学医学部附属病院	連携診療教授	中村一彦

麻酔科

日本麻酔科学会	認定医	坂本成司
	指導医	坂本成司, 高橋俊作
日本専門医機構	麻酔科専門医	坂本成司, 高橋俊作, 森下央崇
厚生労働省	麻酔科標榜許可医	坂本成司, 高橋俊作, 森下央崇, 乘本志考, 細田 健
ICD 制度協議会	インフェクションコントロールドクター	坂本成司
日本医学シミュレーション学会	CVC インストラクター	高橋俊作
鳥取大学医学部附属病院	連携診療教授	坂本成司
日本周術期経食道心エコー (JB-POT) 認定委員会	認定医	細田 健

救急集中治療科・小児集中治療科

日本救急医学会	救急科専門医	小林誠人, 後藤 保
	指導医	小林誠人
日本集中治療医学会	専門医	小林誠人, 後藤 保
日本外科学会	指導医・専門医	小林誠人
日本外傷学会	外傷専門医	小林誠人
麻酔科標榜医		小林誠人
日本航空医療学会	認定指導者	小林誠人, 後藤 保
日本腹部救急医学会	腹部救急教育医	小林誠人
日本急性血液净化学会	認定指導者	小林誠人
日本 Acute Care Surgery 学会	認定外科医	小林誠人
社会医学系専門医協会	指導医・専門医	小林誠人
厚生労働省	統括 DMAT	小林誠人, 後藤 保
	DMAT 隊員	小林誠人, 後藤 保
	臨床研修指導医	小林誠人, 後藤 保
日本小児科学会	専門医・認定指導医	後藤 保
PFCCS	インストラクター	後藤 保

災害科

日本救急医学会	救急科専門医	岡田 稔
日本高気圧潜水医学会	高気圧医学専門医	岡田 稔
厚生労働省	統括 DMAT 隊員	岡田 稔
	日本 DMAT インストラクター	岡田 稔

米国災害支援財団 (NDLSF)	NDLS インストラクター	岡田 稔
鳥取県	鳥取県災害医療コーディネーター	岡田 稔

病理診断科

日本病理学会	専門医	徳安祐輔, 小田晋輔
	指導医	徳安祐輔, 小田晋輔
日本臨床細胞学会	細胞診専門医	徳安祐輔, 小田晋輔
	指導医	徳安祐輔
厚生労働省	死体解剖資格認定	徳安祐輔, 小田晋輔

歯科口腔外科

日本口腔外科学会	指導医	木谷憲典
	専門医	木谷憲典
	認定医	大淵幸与
日本がん治療認定医機構	がん治療認定医（歯科口腔外科）指導医	木谷憲典
厚生労働省	歯科医師臨床研修歯科指導医	木谷憲典, 大淵幸与

看護局

文部科学省・厚生労働省	保健師	田中幸世, 福田真弓, 波多野暁子, 酒本みすぎ, 中西敦子, 岡田奈津子, 安場光穂, 牧野由佳里, 田中有美, 野々口由恵, 漆原加奈子, 岸田幸子, 岩崎絵美子, 南條夏実, 栄本浩紀, 国本麻未, 高田直美, 竹中逸美, 北野雅子, 中野未奈子, 奥田景子, 川元真穂, 山田恵美, 中居順子, 中尾純子, 米上慶子, 伊井野彩子, 米村祐希, 房安直美, 岡本里美, 山根英里子, 花原有花, 沖 智佳, 安田裕美, 小木愛美, 石川真代, 田中理沙, 齊鹿麻美, 小林雅子, 山部貴之, 篠 知佳, 清水寛子, 稲田友紀, 小谷仁美, 光浪 緑, 小川真紗子, 宮脇寛子, 吉田 源, 福岡柚佳, 濵谷つぐみ, 村上 恵, 迫田可奈, 小原翔子, 見田知咲, 羽田早希, 中川さつき, 栄本聰子, 足立茉里奈, 岸田 綾, 吉村千春, 森田萌美, 中島知香, 徳安麻弥, 多田あかり, 浜田早耶, 小倉聖子, 萩原知子, 大川実佑, 前田真亞子, 中原早貴, 田中千絵, 土井史絵, 濱本美穂, 高垣麿緒, 澤 鈴彩, 岸本莉奈, 徳田 瞳, 篠祐太朗, 寺田絵美, 西村若菜, 石上沙羅, 尾崎貴駿, 村上真里江
	養護教諭一級	富山綾子, 牧野由佳里, 安場光穂, 川元真穂, 田中 瞳

	養護教諭二級	高田直美, 中野未奈子, 安田裕美, 寺田絵美, 尾崎貴駿, 小倉聖子, 齊鹿麻美, 山部貴之, 西村若奈, 前田真亜子, 石上沙羅
	看護教員	萩原陽子, 浦林多恵, 山田大智, 西村民江
	臨地実習指導者	戸田委津枝, 西山あゆみ, 川本照子, 谷口香澄, 杉岡憲子, 福谷真理子, 藤原しのぶ, 坂口純子, 宮崎美也子, 波多野暁子, 吉田一恵, 中西敦子, 細田奈緒美, 高田敦子, 宮本真理子, 北山ヒトミ, 井手野悦代, 坂西紀子, 岡田奈津子, 松島みゆき, 岸野亜希, 池田美智代, 谷口幸恵, 近藤三知代, 山下博子, 林 恵子, 政田智子, 神谷理栄, 成瀬絵梨, 林 宏美
	介護支援専門員	森下さゆり, 谷口幸恵, 西村由香里
	精神保健福祉士	沖 智佳
厚生労働省	特定行為研修修了者	糸谷恵子, 山根太地, 前田貴斗, 下山英津子, 木下敦子, 河崎 司, 山根有佳子, 中原和恵, 福田浩也, 青木遥奈
	救急救命士	竹田純平
日本看護協会	がん看護専門看護師	池田 牧
	母性看護専門看護師	伊井野彩子
	感染管理認定看護師	北野雅子, 栄本浩紀
	救急看護認定看護師	山根太地
	不妊症看護認定看護師	橋本万住子
	皮膚・排泄ケア認定看護師	磯江真美, 下山英津子, 中原和恵
	クリティカルケア認定看護師	糸谷恵子, 前田貴斗, 河崎 司
	新生児集中ケア認定看護師	玉木絢子, 川元真穂
	緩和ケア認定看護師	濱野由紀子
	がん化学療法看護認定看護師	中山優樹
	がん薬物療法認定看護師	木下敦子
	乳がん看護認定看護師	樹下和江
	手術看護認定看護師	安場光穂
	がん放射線療法看護認定看護師	橋本瑞樹
日本 ACLS 協会	認定看護管理者	西山あゆみ, 田中幸世, 波多野暁子
	小児プライマリケア認定看護師	山根有佳子
	BLS インストラクター	倉信侑子
	BLS リードインストラクター	清水寛子
	PALS インストラクター	清水寛子

	PALS リードインストラクター	倉信侑子	
	PEARS リードインストラクター	清水寛子	
	PEARS コースディレクター	倉信侑子	
日本急性期ケア協会	急性期ケア専門士	木村優美	
日本集中治療医学会	集中治療認定看護師	竹内友里, 青木遥奈, 岡 悠人, 木下あかり, 木村優美	
京都グリーフケア協会	グリーフサポーター	倉信侑子	
鳥取県・労働基準局	受胎調節実施指導員	田中幸世, 小坂明子, 野々口由恵, 竹中逸美, 橋本万住子, 高田直美, 山根英里子, 中野未奈子, 黒田紗希, 安田裕美, 米村祐希, 羽村奈津美, 田中志帆, 田中愛莉, 篠 知佳, 浦林未奈子, 長野 峰, 伊藤朝香, 福田香美, 福田桃未, 松田美穂, 福岡柚佳, 岩藤 彩, 岡田美加, 足立茉里奈, 浦上 成, 田中未侑, 表 有香, 坂本しおり, 中原早貴, 森本梨湖, 安達美里, 大川実佑, 前田真亜子, 羽田早希, 林 優衣, 高垣磨緒	
	第1種衛生管理者	田中幸世, 安場光穂, 牧野由佳里, 川元真穂, 齊鹿麻美, 前田真亜子, 山根いずみ	
	鳥取県糖尿病療養指導士	内海美子, 西村由香里	
日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士	川部華栄, 石破宏樹, 原田さつき, 安藤あゆみ, 中倉 結	
三学会合同	呼吸療法認定士	糸谷恵子, 藤原瑞穂, 川北恵美, 古林弘美, 田中 瞳, 河崎 司, 前田貴斗, 青木遥奈, 井手野悦代, 福谷真理子, 安部和泉, 清水寛子, 平田香菜枝, 国本誠二, 村口豊育, 沖 智佳, 谷口温香, 村上 恵, 山下博子, 山部貴之, 中村恵美, 岩崎絵美子, 濵谷つぐみ	
臨床心臓病学教育研究会	循環器専門ナース	糸谷恵子, 中村恵美	
日本IVR学会	IVR認定看護師	岸本佳代子, 福田浩也, 森 琴美, 田中真理子, 岩崎絵美子, 清水寛子, 岡田京子, 太田典次, 奥田景子, 井川千紗都, 佃 彩香, 澤ひとみ	
日本不妊カウンセリング学会	体外受精コーディネーター	橋本万住子	
	不妊カウンセラー	竹中逸美	
日本思春期学会	性教育認定講師	橋本万住子	
日本生殖心理学会	生殖医療相談士	竹中逸美	
四病院団体協議会	感染制御スタッフ	谷口由美, 佐々木美幸, 栄本浩紀, 西村美紀, 野々口由恵	
日本腎臓財団	透析療法従事職員	田中千登世, 小谷仁美, 蔵下直由美	
透析療法合同専門委員会	透析技術認定士	蔵下直由美	
日本救急医学会	ICLS認定インストラクター	山根太地	

日本腎代替療法医療専門職推進協会	腎代替療法専門指導士	藪下直由美
一般社団法人日本腎不全学会	慢性腎臓病療養指導看護師	藪下直由美
日本内視鏡学会	第一種内視鏡検査技師	山本美幸, 三村祐里, 河村祐子
日本運動器看護学会	学会認定運動器看護師	福田純子
日本骨粗鬆症学会	骨粗鬆症マネージャー	福田純子
日本医療メディエーター協会	医療メディエーターB	吉田一恵, 川本照子
全国自治体病院協議会	医療安全管理者養成研修修了者	田中幸世, 西山あゆみ, 川本照子, 山本加奈, 衣笠久美子, 杉岡憲子, 田中千登世, 吉田一恵, 波多野暁子
セコム医療システム株式会社	医療安全管理者養成研修修了者	牧野由佳里, 成瀬絵梨, 坂口純子, 福田真弓, 岩城妃代子, 中西敦子, 坂西紀子, 安部和泉, 宮本真理子, 松島みゆき, 北山ヒトミ, 平田香菜枝, 松田香織, 池田美智代, 林 恵子, 奥田景子
公益社団法人日本看護協会	医療安全管理者養成研修修了者	近藤三知代, 谷口幸恵, 山本有加
JASPERN	NST 専門療法士	森 琴美, 河崎 司, 岩成克浩, 小木愛美
日本麻酔科学会	周術期管理チーム看護師	吉田和博, 藤田明日香
日本不整脈心電学会	心電図検定2級	糸谷恵子, 齊鹿麻美, 沖 智佳, 中瀬あゆみ, 谷本朱美
	植込み型心臓デバイス認定士	林 恵子, 齊鹿麻美, 小林由季, 藤木奈央
	心電図検定3級	林 恵子, 穂田万菜, 穂田里菜
東京商工会議所	福祉住環境コーディネーター2級	谷口幸恵
日本臨床腫瘍学会	がんゲノム医療コーディネーター	樹下和江, 中村悦子
日本造血・免疫細胞療法学会	同種造血細胞移植後フォローアップ(LTFU)	中村悦子, 石田拓也, 木下敦子, 井上真希, 谷本朱美, 中村麻巳子, 石川真代
	造血細胞移植コーディネーター(HCTC)	中村悦子, 谷本朱美
一般社団法人医療安全全国共同行動	医療安全管理者養成研修修了者	浦林多恵
日本ボイラ協会	特定第一種圧力容器取扱い作業主任者	吉田和博
日本作業環境測定協会	特定化学物質作業主任者	濱田靖枝
一般財団法人ライフ・プランニングセンター	リンパ浮腫(座学)	樹下和江, 竹中逸美, 岩崎絵美子, 稲田友紀, 森 馨子
一般社団法人 ICAA 認定	リンパ浮腫専門医療従事者資格	稻田友紀
日本静脈学会	弹性ストッキング・圧迫療法コンダクター	宮坂しおり

大阪商工会議所	メンタルヘルス・マネジメントⅡ種（ラインケアコース）	谷口幸恵
原子力規制庁	原子力災害医療派遣チーム隊員	浦林多恵
厚生労働省	日本 DMAT	佃 彩香, 前田貴斗, 岸本佳代子, 海辺果穂, 河崎 司, 北村隆晃
鳥取県	鳥取 DMAT	佃 彩香, 伊岐萌花, 北村隆晃, 山中貴紀

中央放射線室

日本診療放射線技師会	臨床実習指導教員	小山 亮, 木原康行, 岸本淳一
	医療画像情報精度管理士	小山 亮, 木村晃史, 木原康行
	放射線管理士	木原康行, 前田哲生
	放射線機器管理士	木原康行, 前田哲生
	Ai 認定診療放射線技師	木村晃史
	画像等手術支援認定診療放射線技師	田中康隆
日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師認定機構	日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師	木村晃史
日本乳がん検診精度管理中央機構	検診マンモグラフィ撮影認定技師	川上美穂, 木村由紀子, 永尾結奈, 森谷恵理, 永原奈菜
肺がん CT 健診認定機構	肺がん CT 検定認定技師	田中康隆
日本 X 線 CT 専門技師認定機構	X 線 CT 認定技師	上山忠政, 小山翔太郎, 前田哲生, 田中康隆, 石賀慎基
	X 線 CT 専門技師	岸本淳一
日本磁気共鳴専門技術者認定機構	日本磁気共鳴専門技術者	小山 亮
日本救急撮影技師認定機構	救急撮影認定技師	小山 亮, 上山忠政, 田中康隆
医学物理士認定機構	医学物理士	小谷 怜, 森谷恵理
放射線治療品質管理機構	放射線治療品質管理士	木原康行
日本放射線治療専門放射線技師認定機構	放射線治療専門放射線技師	砂川知広, 木原康行
日本医療情報学会	医療情報技師	赤島啓介
日本作業環境測定協会	第一種作業環境測定士(放射線物質)	中野健児
原子力規制委員会	第一種放射線取扱主任者	澤 和宏, 小谷 怜, 秋山裕之, 福本 晃, 上山忠政, 赤島啓介, 永尾結奈, 前田哲生, 岸本淳一
厚生労働省	鳥取 DMAT 隊員	小谷 怜

中央検査室

日本臨床細胞学会	細胞検査士	前田和俊, 川上智史, 谷上和弥, 福田水貴, 木村仁南
国際細胞学会	国際細胞検査士	前田和俊, 川上智史
日本超音波医学会	超音波検査士（消化器）	五百川尚宏, 山本寿恵, 谷口千里, 谷口 悟, 田中恭子, 前田沙紀
	超音波検査士（循環器）	谷口 悟, 田中恭子, 前田沙紀, 宮脇可奈子
	超音波検査士（体表）	谷口千里, 前田沙紀
	超音波検査士（血管）	前田沙紀
	超音波検査士（健診）	山本寿恵
日本血管外科学会・日本脈管学会・日本静脈学会・日本動脈硬化学会 4学会構成血管診療技師認定機構	血管診療技師	山本寿恵
日本輸血細胞治療学会	認定輸血検査技師	佐々木崇雄
	I & A 視察員	佐々木崇雄
認定血液検査技師制度協議会	認定血液検査技師	加藤千春, 岡本昌典, 川上智史, 前田麻衣子
日本臨床検査医学会・同学院	二級臨床検査士(血液学)	加藤千春, 前田麻衣子, 岡本昌典
	二級臨床検査士（微生物学）	田中さゆり
	二級臨床検査士（循環生理学）	甲斐遙華
	二級臨床検査士（神経生理学）	林 智子, 宮脇可奈子
	緊急臨床検査士	前田和俊, 川上智史, 甲斐遙華, 福田水貴
認定臨床微生物検査技師制度協議会	認定臨床微生物検査技師	田中さゆり
感染制御認定臨床微生物検査技師制度協議会	感染制御認定臨床微生物検査技師	田中さゆり
日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士	谷口千里
日本臨床衛生検査技師会	認定病理検査技師	前田和俊
	認定認知症領域検査技師	前田和俊
日本サイトメトリー技術者認定協議会	認定サイトメトリー技術者	加藤千春
日本脳神経超音波検査学会	脳神経超音波検査士	谷口 悟
日本不整脈心電学会	植込み型心臓不整脈デバイス認定士	小柴 鷹
	認定心電図専門士	小柴 鷹
	心電図検定 2 級	西尾英哲, 柴田美空

日本心血管インターベンション治療学会	心血管インターベンション技師	甲斐遙華, 小柴 鷹
日本卵子学会	生殖補助医療胚培養士	遠藤芙弥, 堀 智恵
厚生労働省	日本 DMAT 隊員	前田和俊
	鳥取 DMAT 隊員	前田和俊, 森原唯稀
	臨地実習指導者	加藤千春
鳥取県労働基準協会	特定化学物質作業主任者	前田和俊, 川上智史, 谷上和弥
	有機溶剤作業責任者	前田和俊, 谷上和弥, 福田水貴, 川上智史
日本産業廃棄物処理振興センター	医療関係特管責任者	福田水貴
鳥取労働局	衛生工学衛生管理者	川上智史
日本バイオ技術教育学会	中級バイオ技術者	小柴 鷹
セコム医療システム株式会社	医療安全管理者養成研修修了者	前田沙紀

臨床工学室

日本臨床工学技士会	専門不整脈治療臨床工学技士	小谷友喜
	認定医療機器管理臨床工学技士	秋本惠理子
	認定血液浄化臨床工学技士	瀧田 渚
日本体外循環技術医学会	体外循環技術認定士	高野 岳, 中村憲明, 山本和毅
日本心血管インターベンション治療学会	心血管インターベンション技師	小谷友喜, 太田 裕, 安部貴大, 藤原一樹, 久野佳苗, 橋本早央里, 金井賢人
三学会合同呼吸療法士認定委員会	呼吸療法認定士	高野 岳, 小谷友喜, 藤原一樹
透析治療法合同専門委員会	透析技術認定士	瀧田 渚, 秋本惠理子
日本臨床高気圧酸素・潜水医学会	臨床高気圧酸素治療装置操作技師	高野 岳
日本不整脈心電学会	植込み型心臓不整脈デバイス認定士	小谷友喜, 太田 裕, 山根香菜美, 金井賢人, 安部貴大, 藤原一樹, 橋本早央里, 久野佳苗
	心電図検定 1 級	金井賢人
厚生労働省	臨床検査技師	中村憲明
	日本 DMAT	高野 岳, 瀧田 渚
鳥取県	鳥取 DMAT	小谷友喜, 中村憲明
日本生体医工学会	臨床 ME 専門認定士	金井賢人
日本消化器内視鏡技師学会	消化器内視鏡技師	福田美咲

リハビリテーション室

三学会合同呼吸療法士認定委員会	呼吸療法認定士	吉田匡江, 竹田賢彦, 川淵敬太, 下田健朗, 山崎晃生, 若達人, 松山直樹, 井上雅人, 山根健太, 出口静香, 北村智之, 井上響平
日本リハビリテーション心臓学会	心臓リハビリテーション指導士	上村桂一, 酒井里佳, 松岡洋祐
日本糖尿病療養指導者認定機構	日本糖尿病療養指導士	酒井里佳
東京商工会議所	福祉住環境コーディネーター2級	上村桂一
厚生労働省	日本DMAT隊員	若達人, 山根健太
	介護支援専門員	若達人, 松山直樹
	臨床実習指導者講習会終了	間庭獎大, 太田徹, 北村智之, 山根健太, 松岡洋祐, 下田建朗
原子力規制庁	原子力災害医療派遣チーム隊員	若達人, 山根健太
日本理学療法士協会	がんのリハビリテーション研修会修了	井田真一, 坂尻信幸, 小林美穂子, 井上綾子, 衣笠真理恵, 安部奈津未, 尾崎麻衣子, 山崎晃生, 松田章弘, 松山直樹, 太田徹, 奥矢恵理子, 北村智之, 澤由紀子, 山根健太, 若達人, 吉田匡江, 中村博, 谷口涼香, 中村武雄
日本摂食嚥下リハビリテーション学会	日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士	松田章弘, 石上明日美, 安部奈津未
LSVT Global	LSVT LOUD	松田章弘, 石上明日美, 中村武雄
日本ACLS	PEARS プロバイダーコース認定	竹田賢彦, 井上雅人, 中村博, 桧山耕平, 吉田匡江
日本褥瘡学会	在宅褥瘡予防・管理師	上村桂一
日本言語聴覚士協会	認定言語聴覚士	松田章弘
日本離床研究会	プレアドバイザー	竹田賢彦
日本理学療法士協会	運動器認定理学療法士	川淵敬太, 間庭獎大, 山根健太
	運動器専門理学療法士	川淵敬太
日本静脈経腸栄養学会	NST 専門療法士	石上明日美
日本骨粗鬆症学会	骨粗鬆症マネージャー	山根健太
東京都健康長寿医療センター研究所	認知症総合アセスメントDASC-21 認定評価者	坂尻信幸, 井上綾子
日本作業療法士協会	AMPS 認定評価者	坂尻信幸, 衣笠真理恵, 中村博

栄養管理室

日本病態栄養学会	病態栄養専門管理栄養士	田中敬子
	病態栄養認定管理栄養士	宮崎典子
日本臨床栄養代謝学会	NST 専門療法士	岸本和恵, 岡本英津子
	臨床栄養代謝専門療法士(がん専門療法士)	岸本和恵

日本摂食嚥下リハビリ学会	認定士	岸本和恵
日本糖尿病療養指導士認定機構	指導士	田中敬子, 宮崎典子
鳥取県糖尿病療養指導士認定機構	指導士	田中絢奈
厚生労働省	日本 DMAT 隊員	宮崎典子
鳥取県	鳥取 DMAT 隊員	宮崎典子
日本病院調理師協会	病院調理師認定	金谷幸子, 奥田博江, 松本理香, 阿部沙織, 徳安美香, 村田菜緒子

医療情報管理室

日本病院会	診療情報管理士	國政清子, 山根頼博, 平野香織, 漆原可奈子
厚生労働省	日本 DMAT 隊員	山根頼博
国立がん研究センター	院内がん登録実務中級者	斎尾智恵里, 田中美帆

薬剤部

日本病院薬剤師会	がん薬物療法認定薬剤師	渡邊俊介
	日病薬病院薬学認定薬剤師	淺井 剛, 湯口朋子, 大江和子, 浦尾千恵, 渡邊俊介, 武田康嗣, 田中玖実, 田中恭平, 水崎実咲
日本薬剤師研修センター	小児薬物療法認定薬剤師	義仲真理
	漢方薬・生薬認定薬剤師	小谷佐知子
	研修認定薬剤師	近藤ちひろ
薬学教育協議会	認定実務実習指導薬剤師	小松珠美, 淺井 剛, 小谷佐知子, 義仲真理
日本栄養治療学会	NST 専門療法士	近藤ちひろ, 秋山恵理, 住川東子, 田中玖実, 中村有香
日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士	淺井 剛, 浦尾千恵, 山根真弥
日本褥瘡学会	認定褥瘡薬剤師	小谷佐知子
日本女性薬剤師会	認定薬剤師	小谷佐知子
厚生労働省	日本 DMAT 隊員	渡邊俊介
日本災害医学会	P h DLS プロバイダー	渡邊俊介, 濱崎拓哉
鳥取県	鳥取 DMAT 隊員	渡邊俊介, 濱崎拓哉
日本アンチ・ドーピング機構	スポーツファーマシスト	浦尾千恵
日本くすりと糖尿病学会	糖尿病薬物療法履修薬剤師	淺井 剛
原子力規制庁	原子力災害医療派遣チーム	渡邊俊介
日本骨粗鬆症学会	骨粗鬆症マネージャー	濱崎拓哉

歯科外来

日本口腔ケア学会	認定資格 4 級	岸本真紀
鳥取県糖尿病療養指導士 認定機構	鳥取県糖尿病療養指導士	岸本真紀
日本歯科衛生士会	災害歯科保健歯科衛生士 コーディネーター	岸本真紀
	認定 糖尿病予防指導	岸本真紀

眼科外来

鳥取県糖尿病療養指導士 認定機構	鳥取県糖尿病療養指導士	秋山千夏
---------------------	-------------	------

患者支援センター

厚生労働省	社会福祉士	森次奈穂美, 磯井和也, 岡本彩織, 竹森絵美, 奥田聖子, 谷口未来, 米本 美, 水谷美月
	精神保健福祉士	森次奈穂美, 磯井和也, 岡本彩織, 竹森絵美, 米本 美
	介護支援専門員	森次奈穂美, 磯井和也, 竹森絵美
東京商工会議所	住環境コーディネーター	磯井和也 (2 級), 岡本彩織 (3 級)
鳥取県	保育士	谷口未来
福岡県	ホームヘルパー	岡本彩織 (2 級)
鳥取県 労働基準局	第 1 種衛生管理者	磯井和也
日本臨床救急学会	入院時重症患者対応 メディエーター	杉岡憲子, 森次奈穂美
鳥取県	医療的ケア児 コーディネーター	湯谷千里, 谷口温香
3 学会合同呼吸療法認定 士認定委員会	呼吸療法認定士	谷口温香
社会福祉法人聴力障害者 情報文化センター	手話通訳士	田中満寿江

がん相談支援センター

日本看護協会	がん看護専門看護師	池田 牧
	緩和ケア認定看護師	濱野由紀子
厚生労働省	保健師	池田 牧
文部科学省・厚生労働省	公認心理士	藤松義人
日本臨床心理士資格認定 協会	臨床心理士	藤松義人
国立がん研究センター	認定がん専門相談員	池田 牧
労働者健康安全機構	両立支援コーディネー ター	池田 牧, 濱野由紀子, 藤松義人

日本臨床腫瘍学会	がんゲノム医療コーディネーター	池田 牧, 藤松義人
----------	-----------------	------------

臨床心理士室

文部科学省・厚生労働省	公認心理師	藤松義人, 圓山由香, 中尾 恵
日本臨床心理士資格認定協会	臨床心理士	藤松義人, 圓山由香
国立がん研究センター	認定がん専門相談員	藤松義人
労働者健康安全機構	両立支援コーディネーター	藤松義人
日本臨床腫瘍学会	がんゲノム医療コーディネーター	藤松義人
日本臨床救急医学会	入院時重症患者対応メディエーター養成講習修了	圓山由香
厚生労働省	介護福祉士	中尾 恵
公益財団法人 健康体力づくり事業財団	健康運動指導士	中尾 恵

学会評議員ほか（2024年4月～2025年3月）

呼吸器内科

日本呼吸器学会	代議員	杉本勇二
---------	-----	------

心臓内科

日本心血管インターベンション治療学会	代議員	那須博司
--------------------	-----	------

消化器内科

日本内科学会	中国支部評議員	田中 究, 柳谷淳志, 前田和範
日本消化器病学会	中国支部評議員	柳谷淳志
日本消化器内視鏡学会	学術評議員	柳谷淳志
	中国支部評議員	田中 究, 柳谷淳志, 前田和範

血液内科

日本内科学会	評議員	小村裕美
	中国支部評議員	田中孝幸
日本血液学会	中国四国地方会評議員	田中孝幸

糖尿病・内分泌・代謝内科

日本病態栄養学会	評議員	檜崎晃史
日本フットケア・足病医学会	評議員	檜崎晃史
日本内科学会中国支部	評議員	檜崎晃史
日本小児思春期糖尿病学会	評議員	檜崎晃史
日本糖尿病妊娠学会	評議員	檜崎晃史

腎臓内科

日本内科学会	中国支部評議員	宗村千潮
中国腎不全研究会	理事	宗村千潮

外科

日本胃癌学会	代議員	尾崎知博
日本臨床細胞学会	名誉会員	廣岡保明
日本臨床外科学会	評議員	廣岡保明
Microwave Surgery 研究会	評議員	廣岡保明
日本乳癌学会中四国地方会	顧問	廣岡保明

中国四国臨床臓器移植研究会	理事	廣岡保明
日本臨床検査医学会中四国支部	理事	廣岡保明
日本超音波医学会中国地方会	運営委員	廣岡保明
鳥取県臨床細胞学会	会長	廣岡保明
鳥取県健康対策協議会	理事	廣岡保明
鳥取大学	名誉教授	廣岡保明
日本内視鏡外科学会	評議員	尾崎知博
日本臨床栄養代謝学会	学術評議員	尾崎知博
日本肝胆脾外科学会	評議員	廣岡保明
山陰医療人材育成支援機構	理事長	廣岡保明

小児外科

日本小児外科学会中四国地方会	世話人	黒田征加
日本小児外科学会近畿地方会	評議員	黒田征加

整形外科

日本脊椎インストゥルメンテーション学会	評議員	村田雅明
中部日本整形外科災害外科学会	評議員	村田雅明

脳神経外科

日本脳循環代謝学会	評議員	田渕貞治
-----------	-----	------

呼吸器・乳腺・内分泌外科

日本肺癌学会中国・四国支部	評議員	前田啓之
---------------	-----	------

泌尿器科

日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会	代議員	村岡邦康
日本排尿機能学会	代議員	村岡邦康, 川本文弥
西日本泌尿器科学会	評議員	村岡邦康

産婦人科

医療安全心理・行動学会	評議員	高橋弘幸
日本産婦人科学会	中国四国 評議員	高橋弘幸
	鳥取県 理事	高橋弘幸
日本医療安全推進学会	代議員	高橋弘幸
日本移植医学会	代議員	上垣 崇

小児科

日本小児科学会	代議員	宇都宮靖, 田村明子
---------	-----	------------

放射線科

日本IVR学会	代議員	中村一彦
---------	-----	------

救急集中治療科・小児集中治療科

日本救急医学会	評議員	小林誠人
日本集中治療医学会	評議員	小林誠人
日本外傷学会	評議員	小林誠人
日本航空医療学会	理事・評議員	小林誠人
日本腹部救急医学会	評議員	小林誠人
日本急性血液净化学会	評議員	小林誠人
日本shock学会	評議員	小林誠人
日本災害医学会	評議員	小林誠人
日本臨床救急医学会	評議員	小林誠人
日本Acute Care Surgery学会	評議員	小林誠人
日本病院前救急診療医学会	評議員	小林誠人
日本救急医学会	近畿地方会幹事	小林誠人
日本集中治療医学会	近畿地方会評議員	小林誠人
日本熱傷学会	近畿地方会世話人	小林誠人
但馬地域メディカルコントロール協議会	顧問	小林誠人
鳥取県メディカルコントロール協議会	委員	小林誠人
京都大学医学部	臨床准教授	小林誠人
日本小児救急医療	代議員	後藤 保

歯科・口腔外科

日本口腔ケア学会	評議員	木谷憲典
日本口腔外科学会	代議員	木谷憲典

中央検査室

心血管インターベンション治療学会	中国四国コメディカル委員	澤田健一郎
------------------	--------------	-------

栄養管理室

日本臨床栄養代謝学会	学術評議員	岸本和恵
------------	-------	------

がん相談支援センター

鳥取ニューマン理論・実践学習会	代表	池田 牧
NPO 法人ニューマン理論・研究・実践研究会	教育理事	池田 牧

臨床心理士室

鳥取県臨床心理士会選挙規程改正検討委員会	委員長	藤松義人
鳥取県臨床心理士会倫理委員会	委員	藤松義人
鳥取県臨床心理士会事務局	委員	圓山由香
第 13 回日本がん相談研究会年次大会	実行委員	藤松義人
日本健康運動指導士会 鳥取県支部	会計理事	中尾 恵
鳥取緩和ケア研究会	事務局	藤松義人
山陰がんゲノム医療研究会	幹事	藤松義人

臨 床 研 修 医 名 簿
コ メ ン ト

令和7年度<2年次>

秋吉 真衣 AKIYOSHI Mai	少しでも多くのことを吸収できるよう日々頑張ります。
井上 貴稀 INOUE Takaki	残り1年の研修もより一層精進してまいりたいと思います。よろしくお願ひします。
宇奈手咲子 UNATE Sakiko	研修医2年目になりました。全力で頑張りますのでご指導をよろしくお願ひいたします。
加納 成優 KANOU Seiyu	心身共に元気で研修を終えられるように日々を過ごします。
北尾見優希 KITAO Miyuki	精一杯頑張りますのでよろしくお願ひいたします。
小畠 樹 KOBATAKE Itsuki	鳥取県の医療に貢献できるように今までこれからも頑張っていきます。
清水 創太 SHIMIZU Souta	何事も体当たりで頑張ります。
中 耕平 NAKA Kouhei	一生懸命頑張りますのでお願ひいたします。
西村 綾華 NISHIMURA Ayaka	研修医生活も折り返し地点にやってきました。初心を忘れず、最後まで全力で頑張りますのでよろしくお願ひいたします。
二子石 想 FUTAGOISHI Sou	残り一年の研修を全力でがんばります。
八尾 健瑠 YAO Takeru	残り数か月の研修ですが、明るく元気に頑張ります！

<1年次>

磯邊 悠 ISOBE Haruka	感謝の気持ちを忘れず、精一杯頑張ります。よろしくお願ひいたします。
畠山 花菜 HATAKEYAMA Kana	鳥取の医療に貢献できるよう精一杯頑張ります。
上田 宮瑚 UEDA Miyako	日々成長できるよう精一杯頑張ります。二年間よろしくお願ひします。

阪本 崇磨 SAKAMOTO Souma	鳥取の医療に貢献できるよう、明るく元気に頑張ります！
塚越 春乃 TSUKAGOSHI Haruno	2年間で多くのことを吸収したいと思います。ご指導のほどよろしくお願ひいたします。
杉本 麻好 SUGIMOTO Mako	鳥取の医療に貢献できるよう毎日元気にがんばります！！
千代 悠人 CHISHIRO Haruto	患者満足度 No.1 を目指します。
田中 千星 TANAKA Chihoshi	2年間精一杯頑張りますので、よろしくお願ひいたします。
阪田 光 SAKATA Hikari	一生懸命頑張りますのでよろしくお願いします。
秋田 拓海 AKITA Takumi	鳥取県の医療に貢献できるよう、2年間しっかり研修したいと思います。
井上 晴菜 INOUE Haruna	元気にがんばります！
原田祥一郎 HARADA Shouichirou	2年間で多くのことを吸収し、発揮していきたいです。

業績目録

(2024年1月～12月)

誌上発表論文等、研究業績目録

感染症・総合内科

<学会発表>

1. 非トラベルクリニックにおける渡航前ワクチン接種の実態調査

椋田権吾、杉本勇二

第 28 回日本渡航医学会学術集会、米子市、2024. 7

2. 組織球性壞死性リンパ節炎（菊池病）とシェーグレン症候群を合併した 1 例

辻内邦顕、吉田祐賀子、長谷川泰之、椋田権吾

第 131 回日本内科学会中国地方会、広島市、2024. 10

<講演会・講義・研修会>

1. 鳥取県立中央病院 感染症 総合内科の取り組み

椋田権吾

東部医師会地域医療連携懇談会、鳥取市、2025. 1

2. 感染症診断の基礎

椋田権吾

第 130 回日本内科学会中国地方会、米子市、2024. 5

<新聞・テレビ・ラジオ>

1. 春に気をつけたい感染症

椋田権吾

日本海テレビ【読み解く】、2024. 4

消化器内科

<講演会・講義・研修会>

1. 座長

田中 究

胃癌 ICI WEB ライブセミナー、鳥取市、2024. 6

2. ディスカッション 座長

田中 究

IBD Forum in 鳥取、鳥取市、2024. 9

3. 大腸 コメンテーター

柳谷淳志

第 132 回日本消化器内視鏡学会中国支部例会、専攻医奨励賞、広島市、2024. 7

4. 大腸がんの診断と内視鏡治療

柳谷淳志

令和 6 年度鳥取県立中央病院第 2 回医療講座、鳥取市、2024. 9

5. 座長

田中 究

鳥取県東部慢性便秘症講演会. 鳥取市, 2024. 10

6. 大腸腫瘍の内視鏡診断と治療

柳谷淳志

鳥取県消化器内視鏡機器取扱い講習会. 鳥取市, 2024. 11

7. 大腸 司会

柳谷淳志

第 132 回日本消化器内視鏡学会中国支部例会. 研修医奨励賞. 岡山市, 2024. 12

心臓内科

<誌上発表>

1. 抗プロラクチン療法にて良好な転帰をたどった周産期心筋症の 1 例

利川太昌, 赤坂俊彦, 樋口 遼, 野口裕子, 小倉一能, 那須博司, 菅 敏光, 吉田泰之

鳥取医学雑誌. 52 : 22-27, 2024

2. Predicting factors for omitting beta-blockers in patients with tachycardia-induced cardiomyopathy after successful catheter ablation for atrial fibrillation

Takami A, Kato M, Kotake Y, Okamura A, Tomomori T, Kawatani S, Yamamoto K

Heart and Vessels. 39 : 706-713, 2024

3. Onyx Frontier の通過性の良さを実感した 1 例

赤坂俊彦

Onyx Frontier Complex PCI case report. 2024

4. 鳥取県の心筋梗塞の地域医療連携

赤坂俊彦

域・活連携. 2024

<研究会・学会発表>

1. Synergistically Impact of Metabolic Dysfunction-associated Fatty Liver Disease and Insulin Resistance on Atrial Fibrillation Ablation Recurrence

Takami A, Kato M, Kotake Y, Okamura A, Tomomori T, Kawatani S, Yamamoto K

第 88 回日本循環器学会学術集会. 神戸市, 2024. 3

2. 当院で経験した分岐部病変の 1 例～ review ～

赤坂俊彦

MCCP ~ Meeting focusing on Comprehensive PCI techniques for young Physicians ~. Web, 2024. 4

3. 心房頻拍と正方向性房室回帰性頻拍を移行する double supraventricular tachycardias の一例

高見亜衣子, 小倉一能, 那須博司, 赤坂俊彦, 樋口 遼, 吉田泰之

第 31 回中国四国不整脈研究会. Web, 2024. 4

4. Impact of pulmonary vein isolation on superior vena cava voltage with cryoballoon ablation

Takami A, Ogura K, Nasu H, Akasaka T, Higuchi R, Yoshida Y

第 70 回日本不整脈心電学会学術大会. 金沢市, 2024. 7

5. 電撃性肺水腫のため V-VECMO 装着後に急性下壁梗塞が判明し 2 期的に治療した 1 例

西出庸平, 那須博司, 小倉一能, 赤坂俊彦, 樋口 遼, 高見亜衣子

TOPIC 2024. 東京都, 2024. 7

6. Rota perforation の 1 例

赤坂俊彦

中四国 YES Club 夏の陣@福山. 福山市, 2024. 8

7. 胸骨圧迫に伴う肝損傷に対して, Damage control surgery/open abdominal management を行うこと
で救命できた心筋梗塞の 1 例

赤坂俊彦, 那須博司, 小倉一能, 樋口 遼, 高見亜衣子, 西出庸平

第 30 回日本心血管インターベンション治療学会 (CVIT) 中国四国地方会. 岡山市, 2024. 9

8. 造影による閉塞血管の形態評価が困難で reverse wire technique にて治療した AMI の一例

西出庸平, 那須博司, 小倉一能, 赤坂俊彦, 樋口 遼, 高見亜衣子

第 30 回日本心血管インターベンション治療学会 (CVIT) 中国四国地方会. 岡山市, 2024. 9

9. Impact of metabolic dysfunction-associated fatty liver disease on atrial fibrillation ablation recurrence
in Japanese patients

Takami A, Kato M, Kotake Y, Okamura A, Tomomori T, Kwatani S, Yamamoto K

The 17th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Sessions (APHRS 2024).

Sydney, 2024. 9

10. LCX の AMI+CTO 病変

赤坂俊彦, 那須博司, 小倉一能, 樋口 遼, 高見亜衣子, 西出庸平

Terumo CTO Gym 30Th round. Web, 2024. 9

11. 壊疽性膿皮症の房室ブロック患者に対してステロイド導入することでペースメーカー留置を施行
できた 1 例

赤坂俊彦, 那須博司, 小倉一能, 樋口 遼, 高見亜衣子, 西出庸平

第 28 回日本心不全学会学術集会. さいたま市, 2024. 10

12. 心房頻拍と正方向性房室回帰性頻拍の fusion を呈しながら移行する double supraventricular
tachycardias の一例

高見亜衣子, 小倉一能, 那須博司, 赤坂俊彦, 樋口 遼, 西出庸平, 吉田泰之

カテーテルアブレーション関連秋季大会 2024. 大阪市, 2024. 10

13. Acute on Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension

赤坂俊彦, 那須博司, 小倉一能, 樋口 遼, 高見亜衣子, 西出庸平

CTEPH 治療の今後を考える Sanin area young generation. Web, 2024. 10

14. 単冠動脈の ACS 症例に対して IVL にて良好な転機を得た 1 例

赤坂俊彦, 那須博司, 小倉一能, 樋口 遼, 高見亜衣子, 西出庸平

Alliance for Revolution and Intervention Cardiology Advancement 2024. 福岡市, 2024. 11

15. Rotational Atherectomy Device にて冠動脈穿孔を來した 1 例

赤坂俊彦, 那須博司, 小倉一能, 樋口 遼, 高見亜衣子, 西出庸平

第 125 回日本循環器学会中国地方会. 岡山市, 2024. 11

16. 電撃性肺水腫のため V-VECMO 装着後に急性下壁梗塞が判明した 1 例

西出庸平, 那須博司, 小倉一能, 赤坂俊彦, 樋口 遼, 高見亜衣子

第 125 回日本循環器学会中国地方会. 岡山市, 2024. 11

<講演・講義・研修会>

1. 適切なタイミングによる大動脈弁狭窄症治療介入～併存疾患マネジメントを含めて～
赤坂俊彦
地域で診る循環器疾患. 鳥取市, 2024. 1
2. 鳥取県東部における ACS 治療フォロー～虚血性心疾患と脂質コントロール～
赤坂俊彦
心血管疾患を考える会. 鳥取市, 2024. 3
3. 地域医療における ACS に対する治療戦略
赤坂俊彦
地域医療における ACS に対する治療戦略. 広島市, 2024. 4
4. 虚血性心疾患に対する治療が変わりました～当院における脂質管理療法～ Optical Medical Therapy 時代に必須の考え方
赤坂俊彦
Hyperlipidemia Meeting ~ ACS 患者の脂質管理を考える~. 鳥取市, 2024. 6
5. CRT の植込み手技の Tips
高見亜衣子
山陰 CRT Expert Meeting. web, 2024. 8
6. NAFLD と心血管疾患
赤坂俊彦
動脈硬化治療フォーラム in 鳥取. 鳥取市, 2024. 9
7. 鳥取県東部地区における心不全診療の新たな取り組みについて
赤坂俊彦
心不全連携を考える会 in いなば. 鳥取市, 2024. 10
8. 心不全連携シートの紹介
赤坂俊彦
いなばハートフルネット. 鳥取市, 2024. 10
9. 冠危険因子管理に関するガイドライン update
赤坂俊彦
Tottori Bridge Forum ~鳥取県の脂質治療の架け橋～. 鳥取市, 2024. 11
10. ACS 二次予防 ガイドラインアップデート～ Strike early ,Strike strong～
赤坂俊彦
Hyperlipidemia Meeting ~ ACS 患者の脂質管理を考える~. 鳥取市, 2024. 12

<学会・研究会の主催・座長>

1. コメンテーター
赤坂俊彦
心臓病センター榎原病院ワークショップ. 岡山市, 2024. 3

2. 座長
赤坂俊彦
心不全とカリウム管理を考える. 鳥取市, 2024. 3
3. 座長
赤坂俊彦
循環器疾患を考える. 鳥取市, 2024. 3
4. コメンテーター
赤坂俊彦
PCI と高血圧治療を考える in 中国～Meet the PCI Medical Experts. Web, 2024. 3
5. コメンテーター
高見亜衣子
Micra 山陰 Joint Conference. Web, 2024. 4
6. コメンテーター
赤坂俊彦
The 41th Live Demonstration in KOKURA PCI Fellowship. Web, 2024. 5
7. コメンテーター
高見亜衣子
Medtronic Ablation Conference. Web, 2024. 5
8. 座長
赤坂俊彦
鳥取心不全フォーラム. 鳥取市, 2024. 5
9. コメンテーター
赤坂俊彦
倉敷中央病院 FFRangio Training Course. 岡山市, 2024. 6
10. コメンテーター
赤坂俊彦
DCA and CTO Live in KOCHI. 高知市, 2024. 6
11. コメンテーター
赤坂俊彦
MCCP ~ Meeting focusing on Comprehensive PCI techniques for young Physicians ~. Web, 2024. 8
12. コメンテーター
赤坂俊彦
Sanin Ischemia Future Forum. Web, 2024. 8
13. 座長
那須博司
動脈硬化治療フォーラム in 鳥取. 鳥取市, 2024. 9
14. ACS 2 座長
赤坂俊彦
第 30 回日本心血管インターベンション治療学会 (CVIT) 中国四国地方会. 岡山市, 2024. 9

15. コメンテーター

赤坂俊彦

第 77 回中国地区循環器疾患研究会. 岡山市, 2024. 11

16. 虚血性心疾患 1 座長

赤坂俊彦

第 125 回日本循環器学会中国地方会. 岡山市, 2024. 11

17. 災害対策特別シンポジウム コメンテーター

赤坂俊彦

第 125 回日本循環器学会中国地方会. 岡山市, 2024. 11

緩和ケア内科

<講演会・講義・研修会>

1. 非専門家のための終末期のせん妄

浦川 賢

令和 6 年度緩和ケア病棟研修会. 鳥取市, 2024. 7

2. 当番世話人, 座長

浦川 賢

第 21 回鳥取県緩和医療研究会. 鳥取市, 2024. 10

3. E-learning の復習・質問療養場所の選択と地域連携

浦川 賢

令和 5 年度鳥取県立中央病院緩和ケア研修会. 鳥取市, 2024. 12

4. がん疼痛の評価と治療

浦川 賢

令和 5 年度鳥取県立中央病院緩和ケア研修会. 鳥取市, 2024. 12

5. 療養場所の選択と地域連携

浦川 賢

令和 5 年度鳥取県立中央病院緩和ケア研修会. 鳥取市, 2024. 12

血液内科・輸血科

<誌上発表>

1. Impact of non-driver gene mutations on thrombo-haemorrhagic events in ET patients

Furuya C, Morishita S, Hashimoto Y, Inano T, Ochiai T, Shirane S, Edahiro Y, Araki M, Ando M, Komatsu N.

Br J Haematol. 204 : 221-228, 2024

2. Presence and Onset of Chronic Kidney Disease as a Factor Involved in the Poor Prognosis of Patients with Essential Thrombocythemia

Hashimoto Y, Omura H, Tanaka T.

Adv Hematol. 8;2024:9591497, 2024

3. Prevalence of chromosome 8p11.2 translocations and correlation with myeloid and lymphoid neoplasms associated with FGFR1 abnormalities in a consecutive cohort from nine institutions in Japan
Usuki K, Kameda T, Kawano N, Ito T, Hashimoto Y, Shide K, Kawano H, Sekine M, Toyama T, Iizuka H, Sato S, Takeuchi M, Ishizaki J, Maeda K, Nakai M, Yamashita K, Kubuki Y, Shimoda K
Int J Hematol. 119 : 722–727, 2024
4. Sailing in deceptive calm: Navigating the undercurrents of essential thrombocythaemia
Hashimoto Y, Lucchesi A
Br J Haematol. 204 : 1595–1597, 2024
5. Real-world status of treatment for lymphoid neoplasms developed during the course of myeloproliferative neoplasms in Japan
Edahiro Y, Ochiai T, Hashimoto Y, Ichii M, Okatani T, Omura H, Nakajima K, Sasaki M, Ando J, Takaku T, Koike M, Izumiya K, Hiraga J, Yano T, Usuki K, Ohtsuka E, Yokoyama K, Oyake T, Takahashi N, Nishida T, Nakao T, Fukuda Y, Akasaka T, Mugitani A, Ando M, Komatsu N
Hematology. 29 : 2340149, 2024
6. Predictive significance of high neutrophil ratio for thrombosis in myeloproliferative neoplasms: JSH-MPN-R18 subanalysis
Nagaharu K, Ohya E, Edahiro Y, Hashimoto Y, Ito T, Gotoh A, Nakamae M, Kimura F, Koike M, Kiritto K, Wada H, Usuki K, Tanaka T, Mori T, Wakita S, Saito TI, Saito AM, Shimoda K, Kurokawa T, Tomita A, Kiyoi H, Akashi K, Matsumura I, Takenaka K, Komatsu N, Ohishi K, Tawara I, Sugimoto Y
Ann Hematol. 103 : 3535–3541, 2024
7. Disappearance of a chromosomal abnormality in a young patient with polycythemia vera treated with ropeginterferon alfa-2b
Hosoda R, Hashimoto Y, Hara K, Maegaki M, Suzuki S, Hosoda Y, Kawamura K
Ann Hematol. 103 : 3825–3827, 2024
8. Clinical characteristics in adolescents and young adults with polycythemia vera and essential thrombocythemia in Japan
Sugimoto Y, Nagaharu K, Ohya E, Ohishi K, Tawara I, Ito T, Gotoh A, Nakamae M, Kimura F, Koike M, Kiritto K, Wada H, Usuki K, Tanaka T, Mori T, Wakita S, Saito TI, Saito AM, Shimoda K, Kurokawa T, Tomita A, Edahiro Y, Hashimoto Y, Kiyoi H, Akashi K, Matsumura I, Takenaka K, Komatsu N
Int J Hematol. 120 : 684–693, 2024
9. A higher JAK2V617F allele burden may be a risk factor for hemorrhagic events in younger patients with polycythemia vera
Furuya C, Hashimoto Y, Morishita S, Fukuda Y, Inano T, Ochiai T, Shirane S, Edahiro Y, Araki M, Ando M, Komatsu N
Hematology. 29 : 2427905, 2024
10. 骨髓増殖性腫瘍について 本態性血小板血症（ET）Q&A
橋本由徳
骨髓増殖性腫瘍患者・家族会 MPN-JAPAN, 第 11 版, 2024

11. H鎖病

田中孝幸

日本臨床 血液症候群（第3版） V. 90–93, 2024

12. Tn症候群

橋本由徳

日本臨床 血液症候群（第3版） V. 326–329, 2024

13. A case of chronic myelogenous leukemia successfully diagnosed with coexisting chronic lymphocytic leukemia at initial diagnosis.

川上智史, 田中孝幸, 加藤千春, 小村裕美, 中本 周

日本検査血液学会雑誌. 25 : 291–297, 2024

<学会発表>

1. 水頭症を呈した中枢神経浸潤を伴う多発性骨髄腫

福田真由, 橋本由徳, 小村裕美, 田中孝幸

第63回日本血液学会中国四国地方会. 岡山市, 2024. 3

2. CPC：頭蓋内腫瘍を認めたHIV感染症の1例

小村裕美

第130回日本内科学会中国地方会. 米子市, 2024. 5

3. Impact of post-diagnostic thrombosis and hemorrhage on survival in patients with ET.

Yoshinori Hashimoto, Tomoki Ito, Akihiko Gotoh, Mika Nakamae, Fumihiko Kimura, Michiaki Koike, Keita Kiritu, Hideho Wada, Kensuke Usuki, Takayuki Tanaka, Takehiko Mori, Satoshi Wakita, Toshiki I Saito, Akiko Kada, Akiko M Saito, Kazuya Shimoda, Yuka Sugimoto, Toshiro Kurokawa, Akihiro Tomita, Yoko Edahiro, Hitoshi Kiyoi, Koichi Akashi, Itaru Matsumura, Katsuto Takenaka, Norio Komatsu

第86回日本血液学会学術集会 Oral (English) Session. 京都市, 2023. 10

4. A case of primary plasma cell leukemia in sustained remission with novel agents therapy alone.

Saaya Hosoda, Yoshinori Hashimoto, Hiromi Omura, Takayuki Tanaka

第86回日本血液学会学術集会 Poster Session. 京都市, 2023. 10

5. Disappearance of a chromosomal abnormality in a young patient with polycythemia vera treated with ropeginterferon alfa-2b

Rina Hosoda, Yoshinori Hashimoto, Kentaro Hara, Masaya Maegaki, Sayaka Suzuki, Yuzuru Hosoda, Koji Kawamura

第86回日本血液学会学術集会 Oral Session. 京都市, 2023. 10

6. 二次性低ガンマグロブリン血症患者における新規皮下注用ヒト免疫グロブリン製剤の安全

橋本由徳, 細田早郁, 小村裕美, 田中孝幸

第131回日本内科学会中国地方会. 広島市, 2024. 10

<講演会・講義・研修会>

1. Current situation of PV clinical practice in Japan

Yoshinori Hashimoto

Hong Kong-Japan Advisor Meeting. Tottori, Web, 2024. 1

2. Pfizer Leukemia Symposium broadcast from Tottori (パネリスト)

田中孝幸

Pfizer Leukemia Symposium broadcast from Tottori. 鳥取市, Web, 2024. 2

3. PV 治療最前線 ~ベスレミを導入する際のポイント~

橋本由徳

ベスレミ発売記念講演会. 鳥取市, Web, 2024. 3

4. 本態性血小板血症のトピックス -passenger or clonal driver mutations を中心に-

橋本由徳

Hematology Web Seminar. 鳥取市, Web, 2024. 3

5. 新たな治療選択肢を踏まえた RRMM 患者さんの 2nd line therapy とは? (パネリスト)

橋本由徳

Multiple Myeloma Expert Seminar. 神戸市, 2024. 4

6. 骨髓増殖性腫瘍 (MPN) および好酸球増加とチロシンキナーゼ融合遺伝子を伴う骨髄系 / リンパ系腫瘍 (MLN-TK) の診断と治療の新しい展開

橋本由徳

MPN/MLN Web Seminar. 鳥取市, Web, 2024. 4

7. 再発・難治性リンパ腫の治療について

小村裕美

鳥取県薬剤師東部支部. 鳥取市, Web, 2024. 4

8. 実臨床ベースでの ET の鑑別・治療

橋本由徳

ET Web Seminar. 米子市, 2024. 5

9. 骨髓増殖性腫瘍と皮膚症状

橋本由徳

Novartis Web Seminar ~かゆみの奥に潜むものとは~. 鳥取市, Web, 2024. 6

10. ET の診療について /ET における血栓症リスクについて (座長)

橋本由徳

MPN Web Seminar. 鳥取市, Web, 2024. 6

11. AML Expert Seminar in 鳥取 (座長)

田中孝幸

AML Expert Seminar in 鳥取. 鳥取市, Web, 2024. 6

12. Blood Disease Clinical Seminar in Tottori (Closing remarks)

田中孝幸

Blood Disease Clinical Seminar in Tottori. Web, 2024. 6

13. 当院における高齢者の多発性骨髄腫に対する治療 (座長)

小村裕美

鳥取県骨髄腫研究会. 米子市, 2024. 6

14. 真性多血症診療のトピックス

橋本由徳

MPN Web Seminar. 鳥取市, Web, 2024. 7

15. 症例からひも解く PV 治療 - 低リスク編 -

橋本由徳

ベスレミ発売 1 周年, 在宅自己注射承認記念講演会. 東京都, 2024. 8

16. 当院におけるエフガルチギモドの使用経験

橋本由徳

ITP Expert Lecture in 中国. 岡山県, 2024. 8

17. 血管アクセスデバイスとしての末梢挿入式中心静脈カテーテルの位置づけ

橋本由徳

末梢挿入式中心静脈カテーテル (PICC) 勉強会. 鳥取市, 2024. 8

18. レブロジル発売記念講演会 in 鳥取 (座長)

田中孝幸

レブロジル発売記念講演会 in 鳥取. 鳥取市, Web, 2024. 9

19. 当院における低リスク MDS に対するルスパテルセプトの使用経験

橋本由徳

レブロジル発売記念講演会 in 鳥取. 鳥取市, Web, 2024. 9

20. 二次性低ガンマグロブリン血症患者における免疫グロブリン補充療法について

橋本由徳

SID Web Seminar. 鳥取市, Web, 2024. 9

21. PV Expert Seminar in 山陰 (座長)

田中孝幸

PV Expert Seminar in 山陰. 米子市, 2024. 10

22. 真性多血症患者における Roperginterferon Alfa-2b の使用実例

橋本由徳

PV Expert Seminar in 山陰. 米子市, 2024. 10

23. Interactive WEB in 中国四国 (座長)

田中孝幸

Interactive WEB in 中国四国. 鳥取市, Web, 2024. 10

24. 本態性血小板血症の過去 10 年の歴史を振り返る

橋本由徳

ビプリブ×アグリリン 10 周年記念講演会. 東京都, 2024. 11

25. Clinical debate 若年 PV 患者の治療指針 ~二次性 MF への病型移行を見据えて~ - ジャカビによる治療の立場から -

橋本由徳

Novartis Hematology Web Seminar ジャカビ錠発売 10 周年記念. 鳥取市, Web, 2024. 11

26. 二次性低ガンマグロブリン血症患者における皮下注用免疫グロブリン投与の実際

橋本由徳

Hematology Web Seminar. 鳥取市, Web, 2024. 12

27. エプキンリセミナー in 鳥取 (座長)

田中孝幸

- エプキンリセミナー in 鳥取. 鳥取市, Web, 2024. 12
28. 当院におけるエプロリタマブの使用経験
橋本由徳
エプキンリセミナー in 鳥取. 鳥取市, Web, 2024. 12
29. ベスレミの適応患者像を考える（座長）
橋本由徳
西日本真性多血症 Web セミナー ~ベスレミの臨床使用~. 鳥取市, Web, 2024. 12

< Peer review >

Yoshinori Hashimoto

1. British Journal of Haematology 2024
2. British Journal of Haematology 2024
3. British Journal of Haematology 2024
4. British Journal of Haematology 2024
5. Cancer Medicine 2024
6. Cancer Medicine 2024
7. Clinical and applied thrombosis/Hemostasis 2024
8. Future Science OA 2024
9. International Journal of Hematology 2024
10. Medicine (Baltimore) 2024
11. Medicine (Baltimore) 2024
12. Medicine (Baltimore) 2024
13. Medicine (Baltimore) 2024

糖尿病・内分泌・代謝内科

<学会発表>

1. 消化管術後患者の血糖コントロールに関する一考察
榎崎晃史, 高橋雅子, 村尾和良, 田中敬子, 宮崎典子
第 27 回日本病態栄養学会年次学術集会. 京都市, 2024. 1
2. 1型糖尿病の死因に関する調査
榎崎晃史, 德川慎之介, 村尾和良, 吉田泰之, 高橋雅子
第 67 回日本糖尿病学会年次学術集会. 東京都, 2024. 5
3. サイエンスとアート⑥小児・思春期
榎崎晃史
第 11 回 JADEC 年次学術集会. 京都市, 2024. 7
4. 産後に悪性新生物を発症した妊娠糖尿病症例の検討
榎崎晃史, 村尾和良
第 40 回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会. 大宮市, 2024. 11
5. 足病診療の院内体制再構築の試み

檜崎晃史, 宮坂成人, 村岡智也, 石原啓太郎, 小林誠人, 棕田権吾, 宗村千潮, 長谷川泰人,
下山英津子, 井田真一
第 5 回日本フットケア・足病医学会学術集会. 神戸市, 2024. 11

<学会地方会・研究会発表等>

1. SGLT-2 阻害薬内服中の高齢女性が高血糖高浸透圧症候群を来した 1 例
徳川慎之介
第 98 回山陰糖尿病懇話会. 米子市, 2024. 4
2. SGLT-2 阻害薬内服中の高齢女性が高血糖高浸透圧症候群を来した 1 例
徳川慎之介, 木原さくら, 深谷健二, 門脇佳名子, 伊藤祐一, 松本和久, 松澤和彦,
伊澤正一郎, 大倉 育, 山本一博
第 130 回日本内科学会中国地方会. 米子市, 2024. 5
3. SGLT-2 阻害薬と GLP-1 受容体作動薬週 1 回製剤の併用開始を契機として体重, 血糖管理の改善
傾向がみられた Prader-Willi 症候群の 1 例
檜崎晃史, 徳川慎之介, 村尾和良
第 25 回日本内分泌学会中国支部学術集会. 米子市, 2024. 9
4. 自殺企図者の血糖管理に関する一考察
檜崎晃史, 徳川慎之介, 村尾和良, 辻谷直哉, 下原 輔, 橋本恭史, 小林誠人
日本糖尿病学会中国四国地方会第 62 回総会. 岡山市, 2024. 12

<講演会・講義・研修会>

1. イメグリミンの使用経験とその可能性
村尾和良
DUAL Seminar in 出雲. Web, 2024. 2
2. 糖尿病のある人が知っておきたい糖尿病の合併症の話
徳川慎之介
鳥取県立中央病院令和 6 年度第 1 回医療講座. 鳥取市, 2024. 6
3. 糖尿病のある人が知っておきたい糖尿病以外の病気の話
檜崎晃史
鳥取県立中央病院令和 6 年度第 1 回医療講座. 鳥取市, 2024. 6
4. 糖尿病性腎症重症化予防に取り組む際に知っておきたいあんなことこんなこと
檜崎晃史
全国健康保険協会鳥取支部研修会. 鳥取市, 2024. 6
5. 糖尿病の食事療法・運動療法
檜崎晃史
全国健康保険協会鳥取支部研修会. 鳥取市, 2024. 7
6. 糖尿病性腎症に具体的にどのような指導をするのか
檜崎晃史
全国健康保険協会鳥取支部研修会. 鳥取市, 2024. 7
7. 糖尿病のあんな話, こんな話

- 楳崎晃史
第 353 回鳥取県医師会公開健康講座. 鳥取市, 2024. 8
8. コメンテーター
徳川慎之介
第 4 回鳥取県若手医師向け循環器・内分泌代謝内科セミナー. Web, 2024. 8
9. 糖尿病重症化予防について
楳崎晃史
鳥取市糖尿病重症化予防講演会. 鳥取市, 2024. 9
10. 症例検討ワークショップ（糖尿病）
楳崎晃史
第 15 回 NST 短期集中研修会. 鳥取市, 2024. 10
11. 糖尿病のその他の合併症
村尾和良
令和 6 年度鳥取県糖尿病療養指導士受験資格取得のための講習会 B. 鳥取市, 2024. 10
12. ライフステージ別の療養指導（妊娠・出産）
楳崎晃史
令和 6 年度鳥取県糖尿病療養指導士受験資格取得のための講習会 C. 倉吉市, 2024. 11
13. 糖尿病についての大まかな話～合併症や治療について～
徳川慎之介
鳥取県東部医師会糖尿病予防講演会. 鳥取市, 2024. 11
14. コメンテーター
徳川慎之介
第 5 回鳥取県若手医師向け循環器・内分泌代謝内科セミナー. Web, 2024. 11
15. 糖尿病患者における尿検査の重要性
楳崎晃史
TOTTORI DKD Web セミナー. Web, 2024. 12

<新聞>

1. 糖尿病がある人ない人
楳崎晃史
日本海新聞, 2024. 7

脳神経内科

<学会発表>

1. 視力障害、色覚異常を呈した神経核内封入体病の一例
松本正太, 水滝智香, 中村知哉, 下田 學
第 115 回日本神経学会中国・四国地方会. 出雲市, 2024. 6
2. 両側性外転神経麻痺を合併した再発性多発軟骨炎の 1 例
鳥取県立中央病院脳神経内科 水滝智香, 松本正太, 韓 宇辰, 下田 學,

- 同・リウマチ・膠原病内科 長谷川泰之
第 131 回日本内科学会中国地方会. 広島市, 2024. 10
3. 中枢神経障害とぶどう膜炎を同時に発症した Sjogren 症候群の 1 例
鳥取県立中央病院脳神経内科 水滝智香, 韓 宇辰, 松本正太, 下田 学,
鳥取県立中央病院歯科口腔外科 大淵幸与,
鳥取県立中央病院眼科 伊藤久太郎
第 116 回日本神経学会中国・四国地方会. 米子市, 2024. 11

<研究会発表>

1. 無菌性髄膜炎を契機に診断に至った急性型神経ベーチェット病の 1 例
水滝智香
鳥取県東部臨床神経懇話会. 鳥取市, 2024. 1
2. ウエルニッケ脳症の 2 例
下田 学
鳥取県東部臨床神経懇話会. 鳥取市, 2024. 3
3. 不随意運動 dystonia? ballism? chorea?
下田 学
鳥取県東部臨床神経懇話会. 鳥取市, 2024. 5
4. 中枢神経障害とぶどう膜炎を同時に発症した Sjogren 症候群の 1 例
水滝智香
鳥取県東部臨床神経懇話会. 鳥取市, 2024. 9
5. 両側性外転神経麻痺を合併した再発性多発軟骨炎
水滝智香
鳥取県東部臨床神経懇話会. 鳥取市, 2024. 11

<講演会・講義・研修会>

1. 座長 一次脳卒中センターの役割・取り組み・今後の課題について
下田 学
脳卒中と新たな高血圧治療について考える. 鳥取市, 2024. 6
2. 座長 鳥取大学医学部附属病院における重症筋無力症
下田 学
鳥取県リスティーゴ・ジルビスク新発売講演会. 米子市, 2024. 7
3. 座長 病理からみたパーキンソン病
下田 学
鳥取県東部パーキンソン病セミナー. 鳥取市, 2024. 7
4. double Seronegative Myasthenia Gravis (dSNMG) の 1 例
下田 学
2024 年鳥取 WEB 講演会. Web, 2024. 8
5. 多発性硬化症・視神経脊髄炎について
下田 学

東部圏域難病医療相談会. 鳥取市, 2024. 9

6. 認知症について

下田 学

令和 6 年度第 3 回医療講座鳥取県立中央病院. 鳥取市, 2024. 11

7. 当院における脳卒中自動車運転再開の取り組み～ドライビングシミュレーターの運用状況～

下田 学

第 17 回東部地域脳卒中等医療連携ネットワーク研究会. 鳥取市, 2024. 12

<新聞・テレビ・ラジオ>

1. 脳卒中は早期治療が大切

水滝智香

ニュース every 日本海「小林アナの読み解く！」, 2024. 8

腎臓内科

<学会発表>

1. 単クローニン性免疫グロブリン血症を伴う原発性シェーグレン症候群による血栓性微小血管障害の
1 例

竇意翔太朗, 小川将也, 宗村千潮

第 69 回日本透析医学会学術集会・総会. 横浜市, 2024. 6

<講演会・講義・研修会>

1. CKD 診療におけるカリウム管理の戦略

竇意翔太朗

CKD とカリウム管理を考える会. 鳥取市, 2024. 3

2. とても身近な腎臓病の話

宗村千潮

第 351 回鳥取県医師会公開健康講座. 鳥取市, 2024. 6

3. 高齢者と腎機能低下

宗村千潮

第 22 回循環器疾患に関する医療連携の会. 鳥取市, 2024. 10

4. 地域で診る CKD 診療について

宗村千潮

鳥取県東部医療圏 IMAGINE Project Network Meeting. 鳥取市, 2024. 11

5. Opening Remarks

宗村千潮

第 4 回鳥取県東部エリア CKD 病診連携講演会. 鳥取市, 2024. 12

リウマチ・膠原病内科

<学会・研究会発表>

1. アレルギー・膠原病 座長
長谷川泰之
第 130 回日本内科学会中国地方会. 米子市, 2024. 5
2. 特別講演座長
長谷川泰之
第 2 回関節リウマチ治療を考える会 in 鳥取. 鳥取市, 2024. 7
3. 筋炎関連自己抗体について 特別講演座長
長谷川泰之
第 262 回鳥取県東部胸部疾患研究会. 鳥取市, 2024. 9

小児科

<誌上発表>

1. Microduplication of SCN2A gene in a child with drug-resistant epilepsy and developmental/epileptic encephalopathy with spike wave activation during sleep
Akaboshi S, Okanishi T, Iwasaki M, Saito T, Maegaki Y
Yonago Acta Med29. 67 : 242-245. 2024

<学会発表>

1. 極低出生体重児にみられる高直接ビリルビン血症のリスク因子 やはり未熟性が要因なのか?
萩元慎二, 岩谷壮太, 小林孝生, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 三村仁美,
芳本誠司
第 68 回日本新生児成育医学会学術集会. 松本市, 2024. 11

<学会地方会・研究会発表等>

1. 血痰で発症した肺動静脈瘻の 1 例
倉信裕樹, 熊崎健介, 矢倉 韶, 黒澤健悟, 宇山 祥, 萩元慎二, 堂本友恒, 戸川雅美,
田村明子, 宇都宮靖, 松本顕佑
第 110 回山陰小児科学会. 松江市, 2024. 3
2. 基礎疾患がなく、ハイフローセラピーあるいは非侵襲的陽圧換気による介入を行った咽頭・喉頭軟化症 15 例の臨床的検討
室賀千佳, 奥田綾乃, 赤星 駿, 宇山 祥, 萩元慎二, 倉信裕樹, 堂本友恒, 戸川雅美,
田村明子, 宇都宮靖
第 77 回小児科学会鳥取地方会. 米子市, 2024. 8
3. メラトニンを開始後に頭痛頻度が減少した入眠困難を伴う片頭痛の 1 例
戸川雅美, 奥田綾乃, 室賀千佳, 赤星 駿, 宇山 祥, 萩元慎二, 倉信裕樹,
堂本友恒, 田村明子, 宇都宮靖

第 111 回山陰小児科学会 米子市 2024. 9

4. 当科で実施した股関節超音波検査結果の検討

堂本友恒, 萩元慎二, 奥田綾乃, 室賀千佳, 赤星 駿, 宇山 祥, 倉信裕樹, 戸川雅美,
田村明子, 宇都宮靖

第 111 回山陰小児科学会. 米子市, 2024. 9

5. 極低出生体重児において高直接ビリルビン血症が遷延する症例の特徴解析 - 在胎週数をマッチさせたケースコントロール研究

萩元慎二, 岩谷壯太, 小林孝生, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 三村仁美,
芳本誠司

第 22 回日本黄疸管理研究会. 名古屋市, 2024. 10

<講演会・講義・研修会>

1. 第 161 回周産期母子医療研究会 座長

田村明子

米子市, 2024. 3

2. 当院における在宅医療およびその課題

田村明子

鳥取県東部小児科医会第 570 回例会. 鳥取市, 2024. 4

3. Beyfortus Web Seminar in Sanin 演者

田村明子

米子市, 2024. 7

4. 当科で試みている他科との境界領域の診療

堂本友恒

第 574 回鳥取県東部小児科医会例会. 鳥取市, 2024. 10

5. Beyfortus Web Seminar in Sanin 座長

田村明子

米子市, 2024. 12

6. 園で流行する感染症の現状と対策

萩元慎二

鳥取県東部医師会園医研修会講演, 鳥取市, 2024. 12

7. 災害時の母乳育児

田村明子

BFHI 母乳育児推進研修会, 鳥取市, 2024. 12

8. 新生児蘇生法講習会 A- コース

田村明子, 高橋弘幸, 萩元慎二, 川元真穂

第 78 回新生児蘇生法講習会 A- コース, 鳥取市, 2024. 1

9. 新生児蘇生法講習会 A- コース

田村明子, 萩元慎二, 玉木絢子

第 79 回新生児蘇生法講習会 A- コース, 鳥取市, 2024. 1

10. 新生児蘇生法講習会 A- コース

- 田村明子, 玉木絢子
第 80 回新生児蘇生法講習会 A- コース, 鳥取市, 2024. 3
11. 新生児蘇生法講習会 A- コース
田村明子, 萩元慎二, 川元真穂
第 81 回新生児蘇生法講習会 A- コース, 鳥取市, 2024. 12
12. 新生児蘇生法講習会 S- コース
田村明子, 玉木絢子
第 12 回新生児蘇生法講習会 S- コース, 鳥取市, 2024. 3
13. 新生児蘇生法講習会 S- コース
田村明子, 川元真穂
第 13 回新生児蘇生法講習会 S- コース, 鳥取市, 2024. 4
14. 新生児蘇生法講習会 S- コース
田村明子, 川元真穂
第 14 回新生児蘇生法講習会 S- コース, 鳥取市, 2024. 5
15. 新生児蘇生法講習会 S- コース
田村明子, 萩元慎二, 玉木絢子
第 15 回新生児蘇生法講習会 S- コース, 鳥取市, 2024. 7
16. 新生児蘇生法講習会 S- コース
田村明子, 川元真穂
第 16 回新生児蘇生法講習会 S- コース, 鳥取市, 2024. 10
17. 新生児蘇生法講習会 S- コース
田村明子, 萩元慎二, 玉木絢子
第 17 回新生児蘇生法講習会 S- コース, 鳥取市, 2024. 12

外科

<誌上発表>

1. Change and predictors of body composition after gastrectomy for gastric cancer during first postoperative year
Osaki T, Matsunaga T, Makinoya M, Shimizu S, Shishido Y, Miyatani K, Tsuda A, Endo K, Ashida K, Tatebe S, Fujiwara Y
J Gastrointest Surg. 29 : 101931. 2024
2. Impact of Lymphocyte/Monocyte Ratio on Outcomes in Patients with Remnant Gastric Cancer After Gastrectomy
Shimizu S, Matsunaga T, Saito H, Osaki T, Fukuda K, Fukumoto Y, Takahashi S, Taniguchi K, Iwamoto A, Kuroda H, Katano K, Takahashi T, Sakano Y, Shishido Y, Miyatani K, Sakamoto T, Fujiwara Y
Yonago Acta Medica 2024. 67 : 314–32. 2024
3. Using the geriatric nutritional risk index to predict outcomes in older patients with remnant gastric cancer after gastrectomy a retrospective multicenter study in Japan

Matsunaga T, Saito H, Osaki T, Fukuda K, Fukumoto Y, Takahashi S, Taniguchi K, Iwamoto A, Kuroda H, Katano K, Shimizu S, Shishido Y, Miyatani K, Sakamoto T, Fujiwara Y
Surg Today 2024. 54 : 1360–1368. 2024

<学会発表>

1. 当院でのロボット支援下直腸手術における縫合不全対策
蘆田啓吾, 織原淳平, 和田大和, 津田亜由美, 内仲 英, 尾崎知博, 建部 茂
第 16 回日本ロボット外科学会学術集会. 米子市, 2024. 2
2. PGSAS-37 をどのように用いるか? - 有用性と課題を術後 1 年にわたる PGSAS-37 調査より探る
–How to Use PGSAS-37? –Utilities and problems explored in a one-year postoperative PGSAS-37 survey
尾崎知博, 建部 茂, 織原淳平, 津田亜由美, 内仲 英, 蘆田啓吾, 廣岡保明
第 96 回日本胃癌学会総会. 京都市, 2024. 2
3. 下部消化管穿孔に起因する敗血症性ショックを救い上げる戦略と戦術
和田大和, 小林誠人
第 60 回腹部救急医学会総会. 北九州市, 2024. 3
4. S 状結腸切除を行った左外鼠経ヘルニア術後再発の一例
建部 茂, 織原淳平, 尾崎知博
第 22 回日本ヘルニア学会学術集会. 新潟市, 2024. 5
5. 胆汁細胞診のスコア化による診断精度向上の試み
古旗 淳, 東井靖子, 大熊果菜, 大橋久美子, 阿部加奈子, 阿部佳之, 権田厚文, 廣岡保明
第 65 回日本臨床細胞学会総会春期大会. 大阪市, 2024. 6
6. Clinical evaluation of the safety of the clamp-crushing method in laparoscopic liver resection at our institution
Endo K, Uchinaka E, Orihara J, Tsuda A, Wada Y, Osaki T, Ashida K, T Shigerue, Hirooka Y
第 36 回日本肝胆脾外科学会総会. 広島市, 2024. 6
7. 病棟におけるクリティカルパスの取り組み
尾崎知博, 建部 茂, 遠藤財範, 蘆田啓吾, 前田啓之, 廣岡保明
第 26 回日本医療マネジメント学会学術総会. 福岡, 2024. 6
8. 当院における急性胆囊炎に対する術前胆囊ドレナージ症例の臨床的検討
牧田大瑚, 津田亜由美, 和田大和, 尾崎知博, 遠藤財範, 蘆田啓吾, 建部 茂, 廣岡保明
第 121 回日本消化器病学会中国支部例会. 米子市, 2024. 6
9. 胸部食道癌術後乳び胸の検討
建部 茂, 織原淳平, 津田亜由美, 和田大和, 尾崎知博, 遠藤財範, 蘆田啓吾, 廣岡保明
第 78 回日本食道学会学術集会. 東京都, 2024. 7
10. 胃癌術後 1 ヶ月の体組成 変化と当院の術後早期回復に向けた取り組み
尾崎知博, 建部 茂, 津田亜由美, 遠藤財範, 蘆田啓吾, 廣岡保明
第 16 回日本栄養治療学会中国四国支部学術集会. 岡山市, 2024. 8
11. 胃切除後患者に対する栄養指導の取り組み ~食べやすいもの・食べにくいもの調査結果~
岸本和恵, 尾崎知博, 建部 茂, 久田幸一, 山根佳恵, 米村優奈, 木村優花, 田中絢奈,

- 宮崎典子, 岡本英津子, 田中敬子
第 16 回日本栄養治療学会中国四国支部学術集会. 岡山市, 2024. 8
12. 理想的な Acute Care Surgery の教育とは?
和田大和, 小林誠人
第 16 回日本 Acute Care Surgery 学会学術集会. 高松市, 2024. 9
13. 鼠径部嵌頓ヘルニアの治療方針について
建部 茂, 津田亜由美, 尾崎知博, 蘆田啓吾
第 86 回日本臨床外科学会総会. 宇都宮市, 2024. 11
14. 下部消化管穿孔に起因する敗血症性ショックを救い上げる戦略と戦術
和田大和, 小林誠人
第 37 回日本外科感染症学会総会学術集会. 東京都, 2024. 11
15. 子宮内膜擦過細胞診で認めた乳腺浸潤性小葉癌の 1 例
前田和俊, 徳安祐輔, 川上智史, 谷上和弥, 小田晋輔, 廣岡保明
第 63 回日本臨床細胞学会秋期大会. 千葉市, 2024. 11
16. 子宮腔部 Liquid based cytology (LBC) 標本に出現した Myeloid sarcoma の 1 例
川上智史, 徳安祐輔, 谷上和弥, 前田和俊, 小田晋輔, 廣岡保明
第 63 回日本臨床細胞学会秋期大会. 千葉市, 2024. 11
17. 当院におけるロボット支援下結腸癌手術の導入と治療成績
蘆田啓吾, 津田亜由美, 尾崎知博, 遠藤財範, 建部 茂
第 37 回日本内視鏡外科学会総会. 福岡市, 2024. 12
18. 当院における腹腔鏡下肝部分切除術の検討
遠藤財範, 増田興我, 津田亜由美, 和田大和, 尾崎知博, 蘆田啓吾, 建部 茂
第 37 回日本内視鏡外科学会総会. 福岡市, 2024. 12
19. 子宮筋腫合併直腸癌に対し術中子宮マニピュレーターを用いてロボット支援下低位前方切除術を施行した 1 例
津田亜由美, 蘆田啓吾, 尾崎知博, 遠藤財範, 建部 茂
第 37 回日本内視鏡外科学会総会. 福岡市, 2024. 12
20. 術前脾動脈閉塞後に巨大脾腫に対する腹腔鏡下脾臓摘出を施行した 1 例
塩崎紀子, 津田亜由美, 尾崎知博, 遠藤財範, 蘆田啓吾, 建部 茂, 廣岡保明
第 37 回日本内視鏡外科学会総会. 福岡市, 2024. 12

<学会地方会・研究会発表等>

1. 当院におけるロボット支援下右側結腸癌手術の変遷と定型化
蘆田啓吾, 山本晃久, 津田亜由美, 和田大和, 尾崎知博, 遠藤財範, 建部 茂
第 21 回山陰内視鏡外科研究会. 松江市, 2024. 5
2. 乳癌（浸潤性小葉癌）の胃転移を来たした 1 例
山本晃久, 尾崎知博, 和田大和, 津田亜由美, 遠藤財範, 蘆田啓吾, 建部 茂, 廣岡保明
第 151 回山陰外科集談会. 米子市, 2024. 6
3. ロボット支援下右側結腸癌手術に対する Overlap 吻合の短期治療成績
蘆田啓吾, 山本晃久, 津田亜由美, 和田大和, 尾崎知博, 遠藤財範, 建部 茂

第 29 回中国四国内視鏡外科研究会. 高松市, 2024. 9

4. 術後 1 年間における PGS・体重減少の推移とその成因

尾崎知博, 建部 茂, 和田大和, 津田亜由美, 遠藤財範, 蘆田啓吾, 廣岡保明

第 54 回胃外科・術後障害研究会. 仙台市, 2024. 11

<講演会・講義・研修会>

1. 大腸がん外科治療の現状 2024

蘆田啓吾

大腸がん検診従事者講習会. 鳥取市, 2024. 2

2. 座長

建部 茂

上部消化管がん WEB ライブセミナー. 米子市, 2024. 3

3. ビデオクリニック コメンテーター

蘆田啓吾

第 2 回鳥取低侵襲外科治療研究会. 米子市, 2024. 3

4. 一般演題 5 座長

蘆田啓吾

第 121 回日本消化器病学会中国支部例会. 米子市, 2024. 6

5. ~外科医の視点から~

尾崎知博

オプジーボ胃癌 Web Conference. 鳥取市, 2024. 6

6. イピリムマブ治療の実臨床における経験と課題について

切除不能・再発食道がんに対する免疫チェックポイント阻害薬 (IO) の使用経験

建部 茂

基礎と臨床の SYNERGY2024. 岡山市, 2024. 10

7. 経静脈栄養法について 1) アクセス法 2) プラニングとモニタリング

尾崎知博

第 15 回 NST 臨床実地研修. 鳥取市, 2024. 10

8. ポスター 92 精神科救急 座長

和田大和

第 50 回日本救急医学会総会学術集会. 仙台市, 2024. 10

<その他>

1. 実況解説未編集 Version 全部見せます！～ロボット支援下胃幽門側切除術～ Hybrid RAS

尾崎知博

e-Thoth メドトロニック医療従事者向けウェブサイト

2. 50 歳から注意！ 胃がんを知ろう

尾崎知博

日本海テレビ ニュース every 日本海. 2024. 5

小児外科

<学会発表>

1. 十二指腸閉塞所見を呈した腸回転異常合併先天性空腸閉鎖症の1例

黒田征加, 長谷川利路

第61回日本小児外科学会学術集会. 福岡市, 2024. 5

2. 泌尿器処置トラブル 膀胱カテーテル抜去困難となった2例

黒田征加

第33回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会. 水戸市, 2024. 7

脳神経外科

<誌上発表>

1. 脳卒中に負けないために知っておきたいこと

田渕貞治

鳥取県医師会報 24.2 No. 824: 53-54. 2024

<学会・研究会発表>

1. 脳卒中に負けないために知っておきたいこと

田渕貞治

鳥取県医師会公開健康講座. 鳥取市, 2024. 1

2. 診断に苦慮した glioma の症例

長尾裕一郎

第38回白馬脳神経外科セミナー. 北海道, 2024. 2

3. 術後髄膜炎に脳梗塞を合併した2例

網崎秀史

鳥取大学医学部脳神経外科関連病院合同カンファレンス. 米子市, 2024. 2

4. 症例提示

長尾裕一郎

第5回山陰脳神経血管内治療研究会. 米子市, 2024. 3

5. 術後髄膜炎に脳梗塞を合併した2例

網崎秀史, 稲垣晃平, 長尾裕一郎, 吉岡裕樹, 田渕貞治

第97回日本脳神経外科学会中国四国支部学術集会. 米子市, 2024. 4

6. 一次脳卒中センターの役割, 取り組み, 今後の課題について

長尾裕一郎

脳卒中と新たな高血圧治療について考える. 鳥取市, 2024. 6

7. 最新の MT 症例

長尾裕一郎

鳥取大学医学部脳神経外科関連病院合同カンファレンス. 米子市, 2024. 6

8. 当院でのクラゾセンタン使用経験

稻垣晃平

第31回鳥取県脳神経外科懇話会. 鳥取市, 2024. 7

9. SOTOS症候群にDiffuse hemispheric glioma, H3 G34-mutantを合併した一例

網崎秀史, 稲垣晃平, 長尾裕一郎, 吉岡裕樹, 神部敦司, 田渕貞治

第38回中国四国脳腫瘍研究会. 松山市, 2024. 9

10. 当院における水頭症治療の現状について

宮元大央

鳥取大学医学部脳神経外科関連病院合同カンファレンス. 米子市, 2024. 12

<講演会座長>

1. 田渕貞治

鳥取県東部医師会学術講演会. 鳥取市, 2024. 2

2. 田渕貞治

てんかん診療WEBセミナー in 鳥取. 鳥取市, 2024. 3

3. 田渕貞治

脳卒中と新たな高血圧治療について考える. 鳥取市, 2024. 6

4. 田渕貞治

中国地方WEB漢方セミナー 不眠症, 頭痛の漢方治療. 鳥取市, 2024. 7

整形外科

<誌上発表>

1. 大腿骨大転子骨折に合併した大腿骨転子部不顕性骨折の治療方針

村岡智也, 村上大気, 中村太紀

骨折. 46 : 473-476. 2024

2. 大腿骨骨折特殊症例に対するEnder釘の適応

中村太紀, 村上大気, 村岡智也

骨折. 46 : 480-483. 2024

3. 仰臥位で行う乳児股関節超音波検査の試み

上村篤史, 米井 徹, 中村太紀, 大塚哲也

外科災害外科学会雑誌 67. 4 : 445-446. 2024

4. Intra-Articular Injection of Chitin Nanofiber Attenuates Osteoarthritis: An Experimental Study in a Rat Model of Osteoarthritis

Okuno M

Yonago Acta Medica. 67 : 22-30. 2024

<学会発表>

1. 仰臥位で行う乳児股関節超音波健診の試み

上村篤史, 米井 徹, 中村太紀, 大塚哲也

中部日本整形外科災害外科学会. 米子市, 2024. 4

2. 肘部腫瘍性病変による絞扼性神経障害の 6 例
奥野誠之
第 67 回日本手外科学会学術集会. 奈良市, 2024. 4
3. DTO 後の抜釘困難の一例
山下尚寛
第 39 回山陰膝関節研究会. 米子市, 2024. 9
4. 上肢末梢神経障害を伴った好酸球筋性多発血管性肉芽腫症の一例
奥野誠之
第 35 回日本末梢神経学会学術集会. 鹿児島市, 2024. 9
5. 広範囲腱板断裂に media lization を行った一例
山下尚寛, 奥野誠之, 上村篤史, 村岡智也, 村田雅明
山陰肩関節研究会. 松江市, 2024. 11
6. 後方拡大三角筋分割アプローチを用いて手術を行った肩関節後方脱臼骨折の 1 例
村岡智也, 奥野誠之, 上村篤史, 山下尚寛, 村田雅明
第 51 回中国・四国整形外科学会. 広島市, 2024. 11

<講演会>

1. ロコモティブシンドロームと骨粗鬆症
村岡智也
八頭町健康講座. 八頭郡八頭町, 2024. 9
2. 骨粗鬆症
村岡智也
骨粗鬆症デー in 鳥取 2024. 鳥取市, 2024. 10

心臓血管外科

<誌上発表>

1. 重症アトピー性皮膚炎による繰り返す感染性心内膜炎に対して右小開胸による僧帽弁形成術を施行した 1 例
池田陽祐, 森本健一, 仁井陸冬, 宮坂成人
胸部外科 vol77, No13 : 1120–1123, 2024
2. Primary angiosarcoma arising in the sinus of Valsalva : A case report
Kenichi Morimoto, Shigeto Miyasaka, Yosuke Ikeda, Rikuto Nii, Yoshikazu Fujiwara
Int J Surg Case Rep. 2024, 115 : 109308
3. DOAC 中和剤によるヘパリン抵抗性に対してナファモスタッフを用いた急性大動脈解離の 1 手術例
森本健一, 宮坂成人, 仁井陸冬, 池田陽祐
日本心臓血管外科学会雑誌. 2024, 53 (3) : 127–130
4. Efficacy and Outcomes of Para-Annular Plication in Mitral Valve Repair via Right Mini-Thoracotomy
Kenichi Morimoto, Shigeto Miyasaka, Rikuto Nii, Yosuke Ikeda
Cureus. 2024, 16 (8) : e67623

<学会発表>

1. DOAC 中和剤の術前投与によりヘパリン抵抗性を認めた急性大動脈解離 Stanford A の 1 例
森本健一, 池田陽祐, 仁井陸冬, 宮坂成人
第 52 回日本血管外科学会学術総会. 別府市, 2024. 5
2. 右側大動脈弓患者に対する右腋窩小切開アプローチによる MICS-AVR の 1 例
森本健一, 池田陽祐, 仁井陸冬, 宮坂成人
第 67 回関西胸部外科学会学術総会. 大阪市, 2024. 6
3. 成人期に手術をおこなった先天性三尖弁閉鎖不全症の 1 例
池田陽祐, 森本健一, 仁井陸冬, 宮坂成人
第 151 回山陰外科集談会. 米子市, 2024. 6
4. アオルタエクステンダーのアンギュレーションが有効であった高度屈曲ネックを伴う AAA の 1 例
森本健一, 池田陽祐, 佐伯宗弘, 宮坂成人
第 17 回中国四国ステントグラフトトラブルショーティング (TS) 研究会. 徳島市, 2024. 8
5. MICS-MVP における左房縫縮術 para-annular plication の成績と有用性の検討
森本健一, 宮坂成人, 仁井陸冬, 池田陽祐
第 77 回日本胸部外科学会定期学術総会. 金沢市, 2024. 11

呼吸器・乳腺・内分泌外科

<誌上発表>

1. 術中インドシアニングリーン腹腔内注入が瘻孔の同定に有用であった横隔膜交通症の 1 例
野坂祐仁, 城所嘉輝, 門永太一, 前田啓之
胸部外科. 77 : 464-469

<学会発表>

1. 胸腔鏡および胸骨正中切開によるハイブリッドアプローチで実施した中縦隔腫瘍の一例
城所嘉輝, 安田遼太, 前田啓之
第 41 回日本呼吸器外科学会総会. 軽井沢町, 2024. 6
2. 胸腔鏡と胸骨正中切開によるハイブリッドアプローチで切除し得た原発不明縦隔リンパ節癌の一例
西村綾華, 城所嘉輝, 宮坂成人, 安田遼太, 門永太一, 前田啓之
第 151 回山陰外科集談会. 米子市, 2024. 6
3. 化学療法の奏効により, 局所切除が可能となった乳癌の一例
門永太一, 安田遼太, 森本健一, 仁井陸冬, 城所嘉輝, 前田啓之
第 151 回山陰外科集談会. 米子市, 2024. 6
4. 乳がん検診精密検査後, 数年間経過して乳癌と診断された 2 例
門永太一, 野坂祐仁, 城所嘉輝, 前田啓之
第 32 回日本乳癌学会学術総会. 仙台市 e-poster, 2024. 7
5. 胸腺腫摘出術後に出血性心タンポナーデをきたした一例
安田遼太, 城所嘉輝, 門永太一, 前田啓之

第 62 回日本肺癌学会中国・四国支部学術集会. 米子市, 2024. 7

6. 胸腔鏡と胸骨正中切開によるハイブリッドアプローチで切除し得た原発不明縦隔リンパ節癌の一例
西村綾華, 城所嘉輝, 宮坂成人, 安田遼太, 門永太一, 前田啓之
第 62 回日本肺癌学会中国・四国支部学術集会. 米子市, 2024. 7
7. エンハーツが奏効し, 腋窩静脈合併切除により, 局所制御が可能となった左進行乳癌の一例
門永太一, 安田遼太, 城所嘉輝, 前田啓之
第 21 回日本乳癌学会中国地方会. 松山市, 2024. 9
8. 肺癌の周術期薬物療法～内服薬を中心～
城所嘉輝
がん薬薬連携セミナー. 鳥取市, 2024. 11
9. Metaplastic thymoma の一例
古川雅大, 城所嘉輝, 安田遼太, 門永太一, 前田啓之
第 86 回日本臨床外科学会学術集会. 宇都宮市, 2024. 11

皮膚科

<学会発表>

1. アベルマブ投与が有効であった Merkel 細胞癌の 1 例
石原啓太郎, 後藤博之
第 142 回日本皮膚科学会山陰地方会. 米子市, 2024, 9
2. 妊娠中に診断された悪性黒色腫の 1 例
石原啓太郎, 後藤博之
第 76 回日本皮膚科学会西部支部学術大会. 徳島市, 2024. 9

泌尿器科

<誌上発表 >

1. Excellent response to 177Lu-DOTATATE peptide receptor radionuclide therapy in a patient with treatment-related neuroendocrine prostate cancer with urinary retention and rectal obstruction: A case report
Yasukawa R, Kawamoto B, Muraoka K, Nakamura K, Honda M, Takenaka A
Yonago Acta Med. 1;67:266–269. 2024
2. Preoperative risk stratification models after radical cystectomy for bladder cancer: A multi-center study
Yamane H, Morizane S, Honda M, Muraoka K, Oono H, Isoyama T, Ono K, Sejima T, Kadowaki H, Takenaka A
Int J Urol. 31:1278–1287. 2024
3. 公開健康講座報告「頻尿と尿失禁」
川本文弥
鳥取県医師会報. 828 : 67–68. 2024

<研究会・学会発表>

1. 鳥取大学関連施設における、膀胱癌に対するロボット支援膀胱全摘除術と開放膀胱全摘除術の治療成績の比較検討
山根浩史, 森實修一, 本田正史, 村岡邦康, 大野博文, 磯山忠広, 小野孝司, 濱島健裕,
門脇浩幸, 武中 篤
第 16 回日本ロボット外科学会. 米子市, 2024. 2
2. 一般口演：前立腺②, 副腎：座長
村岡邦康
第 16 回日本ロボット外科学会. 米子市, 2024. 2
3. 腹圧性尿失禁に対する中部尿道スリング手術
川本文弥
第 27 回鳥取泌尿器手術手技研究会. 米子市, 2024. 3
4. Flexible ureteroscopic holmium laser lithotripsy for renal calculi
Muraoka K, Yasukawa R, Kawamoto B
第 111 回日本泌尿器科学会総会. 横浜市, 2024. 4
5. エンホルツマブベドチンによって CR が得られた 2 例
清水 成, 川本文弥, 村岡邦康
第 139 回日本泌尿器科学会山陰地方会. 米子市, 2024. 6
6. REZUM を用いた前立腺肥大症に対する経尿道的水蒸気治療の初期経験
村岡邦康, 清水 成, 川本文弥
第 12 回山陰泌尿器内視鏡研究会. 米子市, 2024. 7
7. 精巣外傷に対する手術
川本文弥
第 28 回鳥取泌尿器手術手技研究会. 米子市, 2024. 8
8. 排尿ケアチーム介入症例の退院後の経過について
村岡邦康, 清水 成, 川本文弥
第 31 回日本排尿機能学会総会. 郡山市, 2024. 9
9. 後腹膜平滑筋肉腫の縦郭転移に対してゲムシタビン + ドセタキセル療法を施行した 1 例
清水 成, 川本文弥, 村岡邦康
第 140 回日本泌尿器科学会山陰地方会. 出雲市, 2024. 12

<講演会・講義・研修会>

1. 前立腺肥大症について
安川流生
第 4 回鳥取県立中央病院市民講座. 鳥取市, 2024. 2
2. 前立腺癌について
村岡邦康
第 4 回鳥取県立中央病院市民講座. 鳥取市, 2024. 2
3. 前立腺がん薬剤師 WEB セミナー：座長
村岡邦康

前立腺がん薬剤師 WEB セミナー. 鳥取市, 2024. 10

4. 前立腺がんの診断と治療について

清水 成

前立腺がん薬剤師 WEB セミナー. 鳥取市, 2024. 10

5. 前立腺癌の薬物治療について～ガイドライン 2023 改訂を踏まえて

川本文弥

前立腺がん薬剤師 WEB セミナー. 鳥取市, 2024. 10

産婦人科

<誌上発表>

1. 生後に無機能腎と診断された胎児片側性 hyper echogenic kidney の 1 例

高橋弘幸, 圓井孝志, 山根恵美子, 上垣 崇, 野中道子, 竹中泰子

現代産婦人科. 72 (2) : 327-331, 2024

2. 妊娠中にコイル塞栓術を施行した未破裂脳動脈瘤の一例

圓井孝志, 山根恵美子, 上垣 崇, 野中道子, 竹中泰子, 高橋弘幸

現代産婦人科. 73 : 33-36, 2024

<学会発表>

1. 帝王切開後に発症した、診断に苦慮した創部感染と合併した可能性のある壊疽性膿皮症の 1 例

圓井孝志, 山根恵美子, 上垣 崇, 野中道子, 竹中泰子, 高橋弘幸

第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会. 横浜市, 2024. 4

2. 特別企画 JGOG Intergroup Meeting & 地方若手からの発信

工藤明子

第 21 回婦人科がん会議. 松山市, 2024. 6

<学会地方会・研究会発表等>

1. 当院における生殖医療研修～専門医取得に向けて～

上垣 崇, 圓井孝志, 山根恵美子, 工藤明子, 野中道子, 竹中泰子, 高橋弘幸

令和 6 年度鳥取産科婦人科学会・鳥取県産婦人科医会学術総会. 鳥取市, 2024. 5

2. NIPT で片親ダイソミー (Uniparental disomy : UPD) が問題となった 2 例

高橋弘幸, 圓井孝志, 山根恵美子, 工藤明子, 上垣 崇, 野中道子, 竹中泰子

令和 6 年度鳥取産科婦人科学会・鳥取県産婦人科医会学術総会. 鳥取市, 2024. 5

3. 多量の胸水を伴ったガレン静脈瘤胎児の 1 例

三田奈津美, 高橋弘幸, 圓井孝志, 山根恵美子, 工藤明子, 上垣 崇, 野中道子, 竹中泰子

令和 6 年度鳥取産科婦人科学会・鳥取県産婦人科医会学術総会. 鳥取市, 2024. 5

4. 帝王切開創に発症し、感染との鑑別が困難であった壊疽性膿皮症の 1 例

圓井孝志, 山根恵美子, 工藤明子, 上垣 崇, 野中道子, 竹中泰子, 高橋弘幸,

荒田和也 (彦名レディスライフクリニック)

令和 6 年度鳥取産科婦人科学会・鳥取県産婦人科医会学術総会. 鳥取市, 2024. 5

<講演会・講義・研修会>

1. 当院における子宮内膜症治療について

上垣 崇

鳥取 Women's Health 憇話会. 米子市, 2024. 3

2. 臨床倫理の基礎

高橋弘幸

令和 6 年度鳥取県医師会母体保護法指定医師研修会. 鳥取市, 2024. 9

3. 当院における子宮筋腫・子宮内膜症の治療について

上垣 崇

鳥取県産婦人科臨床懇話会. 鳥取市, 2024. 10

4. 母と子のメンタルヘルス研修会 入門編の解説

高橋弘幸

第 1 回鳥取県母と子のメンタルヘルス研修会. 鳥取市, 2024. 11

<学会・研究会の主催, 座長>

1. 第 42 回鳥取県母性衛生学会学術集会 一般演題 座長

高橋弘幸

第 42 回鳥取県母性衛生学会学術集会. Web, 2024. 1

2. 鳥取 Women's Health 憇話会 一般講演 座長

高橋弘幸

鳥取 Women's Health 憇話会. 米子市, 2024. 3

3. 令和 6 年度鳥取産科婦人科学会・鳥取県産婦人科医会学術総会 一般演題 座長

高橋弘幸

令和 6 年度鳥取産科婦人科学会・鳥取県産婦人科医会学術総会. 鳥取市, 2024. 5

4. 鳥取県産婦人科臨床懇話会 座長

高橋弘幸

鳥取県産婦人科臨床懇話会. 鳥取市, 2024. 10

放射線科

<誌上発表>

1. 日本 IVR 学会修練認定施設紹介

中村一彦

JSIR ニュースレター No.22. 2024

2. 特集 “経過観察” の脳画像診断：ホントに著変ありません？ 認知症・変性疾患（総説）

松末英司, 井上千恵, 松本顕佑, 谷野朋彦, 中村一彦, 藤井進也

画像診断. 44 : 1315–1324. 2024

3. Utility of combining multiple parameters of 123I-IMP SPECT and voxel-based morphometry MRI using a multiparametric scoring system for differentiating dementia with Lewy bodies from Alzheimer's

disease

Matsusue E, Inoue C, Shimoda M, Nakamura T, Matsumoto S, Matsumoto K, Tanino T, Nakamura K, Fujii S
Acta Radiol. 65 : 825–834. 2024

鳥取大学放射線医学教室 同門会賞受賞. 鳥取県立中央病院 病院長賞受賞

<研究会・学会発表>

1. 呼吸器悪性疾患に対するステント留置術の Technical Tips について
中村一彦
令和 5 年度鳥取県がんフォーラム. 倉吉市, 2024. 3
2. 島根原発再稼働を前に放射線科医に求められることは
中村一彦
第 140 回日本医学放射線学会中国・四国地方会. 出雲市, 2024. 6
3. NK1 受容体拮抗薬および MARTA の投与が Grade 3 胃腸障害の軽減に奏功した PRRT の 1 症例
中村一彦, 松本顕佑, 谷野朋彦, 井上千恵, 松末英司
第 140 回日本医学放射線学会中国・四国地方会. 出雲市, 2024. 6
4. 大静脈症候群に対する血管内ステント留置術における合併症回避のための工夫について
中村一彦, 萩原尊礼, 松本顕佑
第 29 回日本緩和医療学会学術集会. 神戸市, 2024. 6
5. SIB-IMRT による肺癌内部線量増加の初期経験
谷野朋彦, 中村一彦, 松本顕佑, 井上千恵, 松末英司
第 25 回山陰放射線腫瘍学研究会. 米子市, 2024. 6
6. CT ガイド下肺生検による空気塞栓症について
中村一彦, 萩原尊礼, 松本顕佑, 谷野朋彦, 井上千恵, 松末英司
第 37 回中国四国 IVR 研究会. 岡山市, 2024. 9
7. 短区間塞栓における内膨浸型 Hydrogel コイルの有効性
松本顕佑
第 37 回中国四国 IVR 研究会 イブニングセミナー. 岡山市, 2024. 9

<講演・講義・研修会講師>

1. 福島を忘れない
小谷 伶, 中村一彦
令和 5 年度原子力災害医療研修. 鳥取市, 2024. 1
2. がん放射線療法概論
中村一彦
令和 6 年度がん看護基礎研修. 鳥取市, 2024. 8
3. 肺癌確定診断における CT ガイド下肺生検の有用性について
中村一彦
令和 6 年度鳥取県東部医師会肺がん医療機関検診従事者講習会. 鳥取市, 2024. 10
4. 全人の苦痛に対する緩和ケア

中村一彦

令和 6 年度鳥取県立中央病院緩和ケア研修会. 鳥取市, 2024. 12

<院内講義>

1. 注射について—静脈路の管理について—

中村一彦

鳥取県立中央病院 2024 年度新人看護教育研修. 鳥取市, 2024. 5

麻酔科

<学会発表>

1. 先天性無フィブリノゲン血症患者における開腹胆摘出術, 先天性低フィブリノゲン血症患者における帝王切開の麻酔経験

圓道 豪, 森下央崇, 坂本成司, 高橋俊作

日本麻酔科学会中国・四国支部第 60 回学術集会. 高知市, 2024. 9

2. 上行大動脈置換術後の末梢側吻合部巨大仮性瘤で気道閉塞が危惧された 1 例

森下央崇, 船木一美, 梅田康太郎, 湊 弘之

日本心臓血管麻酔学会第 29 回学術大会. 広島市, 2024. 9

救急集中治療科

<誌上発表>

1. Optimal chest compression for cardiac arrest until the establishment of ECPR: Secondary analysis of the SAVE-J II study

Nagashima F, Inoue S, Oda T, Hamagami T, Matsuda T, Kobayashi M, Inoue A, Hifumi T, Sakamoto T, Kuroda Y, SAVE-J II study group

Am. J. Emerg. Med.78:102–111. 2024

2. Low-flow time and outcomes in out-of-hospital cardiac arrest patients treated with extracorporeal cardiopulmonary resuscitation

Shoji K, Ohbe H, Kudo D, Tanikawa A, Kobayashi M, Aoki M, Hamaguchi T, Nagashima F, Inoue A, Hifumi T, Sakamoto T, Kuroda Y, Kushimoto S; SAVE-J II study group.

Am. J. Emerg. Med.75:37–41. 2024

3. Effect of prehospital physician presence on Out-of-Hospital cardiac arrest (OHCA) patients undergoing extracorporeal cardiopulmonary resuscitation (ECPR): A secondary analysis of the SAVE-J II study

Nagashima F, Inoue S, Oda T, Hamagami T, Matsuda T, Kobayashi M, Inoue A, Hifumi T, Sakamoto T, Kuroda Y, The SAVE-J II study group

Resuscitation Plus 21 : 100859. 2024

4. 脳卒中プロトコール始動のタイミングと急性期脳梗塞の治療開始時間の関連についての検討

番匠谷友紀 1, 松井大作 1, 藤崎 修 1, 菊川元博 1, 間 崇史 1, 小林誠人 2, 永嶋 太 1

1 : 公立豊岡病院, 2 : 鳥取県立中央病院

<学会・研究会発表>

1. 重症急性腹症の周術期管理は Acute Care Surgeon/Acute Care Surgery Team が担当しています
小林誠人, 重本 凡, 岩田真奈, 下原 輔, 堀田康文, 宗村佑人, 萩原尊礼, 樋口 遼,
和田大和, 橋本恭史, 後藤 保, 門馬秀介
第 124 回日本外科学会. 名古屋市, 2024.4
2. 教育講演 16 「日本における Emergency Resuscitative Thoracotomy の有効性と適応」
小林誠人
第 38 回日本外傷学会総会. 大阪市, 2024. 4
3. 外傷診療は救命救急センターが包括的に担えば良い
小林誠人, 重本 凡, 岩田真奈, 下原 輔, 堀田康文, 宗村佑人, 萩原尊礼, 樋口 遼,
和田大和, 橋本恭史, 後藤 保, 門馬秀介
第 38 回日本外傷学会総会. 大阪市, 2024. 4
4. 避けて通る病院を無くせばトラウマバイパスは不要となる
小林誠人, 重本 凡, 岩田真奈, 下原 輔, 堀田康文, 宗村佑人, 萩原尊礼, 樋口 遼,
和田大和, 橋本恭史, 後藤 保, 門馬秀介
第 38 回日本外傷学会総会. 大阪市, 2024. 4
5. 一般演題「救急医療体制 2」
小林誠人
第 40 回日本救急医学会中国四国地方会. 広島市, 2024. 5
6. Acute Care Surgery の実際 – 救命のための戦略・戦術 –
小林誠人
第 9 回山陰外科 DIC フォーラム. 米子市, 2024. 6
7. ポスター「外傷・熱傷・手術」
小林誠人
第 8 回日本集中治療医学会中国・四国支部学術集会. 広島市, 2024. 6
8. 蘇生後に重症急性膀胱炎を発症した偶発性低体温症による院外心肺停止の 1 例
橋本恭史, 重本 凡, 岩田真奈, 下原 輔, 堀田康文, 宗村佑人, 萩原尊礼, 樋口 遼,
和田大和, 後藤 保, 門馬秀介, 小林誠人
第 8 回日本集中治療医学会中国・四国支部学術集会. 広島市, 2024. 6
9. 人工呼吸器関連肺炎予防ケアの遵守率向上に向けて – 促進因子、阻害因子を明らかにする –
内藤湧輝, 山根太地, 小林誠人
第 8 回日本集中治療医学会中国・四国支部学術集会. 広島市, 2024. 6
10. 早期リハビリテーションの離床目標レベル未達成症例における中止理由の分析
伊達滉太朗, 澤ひとみ, 北村隆晃, 佃 彩香, 山根太地, 小林誠人
第 8 回日本集中治療医学会中国・四国支部学術集会. 広島市, 2024. 6
11. 術前 CT と術中 ICG 蛍光法による血流評価が有用であった非閉塞性腸管虚血 (NOMI) の 1 手術例
山根尚真, 小林誠人, 建部 茂
第 151 回山陰外科集談会. 米子市, 2024. 6

12. 交代制勤務がもたらす功罪
小林誠人, 重本 凡, 岩田真奈, 下原 輔, 堀田康文, 宗村佑人, 萩原尊礼, 樋口 遼,
和田大和, 橋本恭史, 後藤 保, 門馬秀介
第 27 回日本臨床救急医学会総会. 鹿児島市, 2024. 7
13. シンポジウム 12 「救急医療と働き方改革：自施設の取り組み」
小林誠人
第 27 回日本臨床救急医学会総会. 鹿児島市, 2024. 7
14. 座長 一般演題 2 「都市部と地方」
小林誠人
第 16 回日本 Acute Care Surgery 学会. 高松市, 2024. 9
15. 非都市部で取り組む Acute Care Surgery 体制の実際
小林誠人, 重本 凡, 岩田真奈, 下原 輔, 堀田康文, 宗村佑人, 萩原尊礼, 樋口 遼,
和田大和, 橋本恭史, 後藤 保, 門馬秀介
第 16 回日本 Acute Care Surgery 学会. 高松市, 2024. 9
16. 理想的な Acute Care Surgery の教育とは？
和田大和, 重本 凡, 岩田真奈, 下原 輔, 堀田康文, 宗村佑人, 萩原尊礼, 樋口 遼,
橋本恭史, 後藤 保, 門馬秀介, 小林誠人
第 16 回日本 Acute Care Surgery 学会. 高松市, 2024. 9
17. Surgical rescue を担う医師の資質は？
萩原尊礼, 重本 凡, 岩田真奈, 下原 輔, 堀田康文, 宗村佑人, 樋口 遼, 和田大和,
橋本恭史, 後藤 保, 門馬秀介, 小林誠人
第 16 回日本 Acute Care Surgery 学会. 高松市, 2024. 9
18. Acute Care Surgery 診療体制は多職種で支える（看護師は重要なハブの役割を担う！）
前田貴斗, 山根太地, 和田大和, 小林誠人
第 16 回日本 Acute Care Surgery 学会. 高松市, 2024. 9
19. 座長 特別講演
小林誠人
オンデキサ WEB セミナー. Web, 2024. 10
20. 当院における救急現場でのオンデキサ® 使用について～看護師の立場から考えてみる～
川本千夏, 小林誠人
オンデキサ WEB セミナー. Web, 2024. 10
21. 腹腔内感染による敗血症性ショックに対する PMX-DHP の有用性を再考する
小林誠人, 重本 凡, 岩田真奈, 下原 輔, 堀田康文, 宗村佑人, 萩原尊礼, 樋口 遼,
和田大和, 橋本恭史, 後藤 保, 門馬秀介
第 52 回日本救急医学会. 仙台市, 2024. 10
22. 持続可能な Acute Care Surgery 体制に取り組む
小林誠人, 重本 凡, 岩田真奈, 下原 輔, 堀田康文, 宗村佑人, 萩原尊礼, 樋口 遼,
和田大和, 橋本恭史, 後藤 保, 門馬秀介
第 52 回日本救急医学会. 仙台市, 2024. 10
23. 救急領域における Dual Energy CT の活用

下原 輔, 重本 凡, 岩田真奈, 堀田康文, 宗村佑人, 萩原尊礼, 樋口 遼, 和田大和,
橋本恭史, 後藤 保, 門馬秀介, 小林誠人

第 52 回日本救急医学会. 仙台市, 2024. 10

24. 救急外来の重症小児患者対応における救急医と小児科医のコラボレーション

宗村佑人, 重本 凡, 岩田真奈, 下原 輔, 堀田康文, 萩原尊礼, 樋口 遼, 和田大和,
橋本恭史, 後藤 保, 門馬秀介, 小林誠人

第 52 回日本救急医学会. 仙台市, 2024. 10

25. 病院前救護における心肺蘇生に伴う臓器損傷の検討

古川雅大, 重本 凡, 岩田真奈, 下原 輔, 堀田康文, 宗村佑人, 萩原尊礼, 樋口 遼,
和田大和, 橋本恭史, 後藤 保, 門馬秀介, 小林誠人

第 52 回日本救急医学会. 仙台市, 2024. 10

26. 座長 ポスター 26 「ECMO 2」

小林誠人

第 52 回日本救急医学会. 仙台市, 2024. 10

27. 座長 口演 (学生・研修医セッション 6)

後藤 保

第 52 回日本救急医学会. 仙台市, 2024. 10

28. ポスター 92 精神科救急

和田大和

第 52 回日本救急医学会. 仙台市, 2024. 10

29. 受傷翌日に敗血症性ショックに陥った熱傷症例～多数熱傷患者発生事案からの教訓～

小林誠人, 重本 凡, 梅木真奈, 下原 輔, 堀田康文, 宗村佑人, 萩原尊礼, 樋口 遼,
和田大和, 橋本恭史, 後藤 保, 門馬秀介

第 35 回日本急性血液浄化学会. 甲府市, 2024. 10

30. Slow PE を患者入眠時の夜間に行う

小林誠人, 重本 凡, 梅木真奈, 下原 輔, 堀田康文, 宗村佑人, 萩原尊礼, 樋口 遼,
和田大和, 橋本恭史, 後藤 保, 門馬秀介

第 35 回日本急性血液浄化学会. 甲府市, 2024. 10

31. 防災ヘリコプターの医師同乗・ホイスト装置使用による現場投入が早期医療介入を実現する

宗村佑人, 重本 凡, 梅木真奈, 下原 輔, 堀田康文, 萩原尊礼, 樋口 遼, 和田大和,
橋本恭史, 後藤 保, 門馬秀介, 小林誠人

第 31 回日本航空医療学会. 浦添市, 2024. 11

32. 座長 シンポジウム 5 「ドクターカー・ドクターヘリの連携プレー～「空」と「陸」チームの枠
を越えた「タテ」の連携「ヨコ」の連携～」

小林誠人

第 31 回日本航空医療学会. 浦添市, 2024. 11

33. 座長 一般口演 6 多数傷病者

小林誠人

第 19 回日本病院前救急診療医学会総会・学術集会. 宮崎市, 2024. 12

<講演会・講義・研修会>

1. 社会と医療

小林誠人

姫路医療専門学校. 姫路市, 2024. 5

2. 救急医療体制

小林誠人

姫路医療専門学校. 姫路市, 2024. 5

3. 災害医療体制

小林誠人

姫路医療専門学校. 姫路市, 2024. 5

4. 警察と救急医療

小林誠人

鳥取県警察学校. 鳥取市, 2024. 6

5. SHOCK ! Trauma !! Burn !? その対応

小林誠人

鳥取看護専門学校. 鳥取市, 2024. 9

6. 観察

小林誠人

姫路医療専門学校. 姫路市, 2024. 9

7. 緊急度・重症度

小林誠人

姫路医療専門学校. 姫路市, 2024. 9

8. ICUにおける急性血液浄化療法～救急集中治療医のちょっとしたこだわり～

小林誠人

PMMA セミナー. Web, 2024. 10

<新聞・テレビ・ラジオ>

1. 救急科【新専門医制度 19 基本領域まるごと図鑑】

小林誠人

マイナビ RESIDENT 初期・専門研修 BOOK : 41, 2024. 6

2. かかりつけ医特集

小林誠人

ビジネスタイムズ, 2024. 9

歯科口腔外科

<誌上発表>

1. 高齢者の下顎術後のプレート感染に対しフルカスタムメイドプレートにて再建した一例

木谷憲典, 大渕幸与, 加納優也

鳥取県歯科医学雑誌. 24 : 1-5. 2024

2. 口腔内の水疱性病変 天疱瘡, 類天疱瘡について

木谷憲典

鳥取県歯科医師会報. 347 : 53-54. 2024

<学会・研究会発表>

1. 第VIII因子インヒビター陽性先天性血友病A患者に認めた抜歯後異常出血の一例

大淵幸与, 八尾知亜紀, 加納優也, 木谷憲典

第53回日本口腔外科学会中国四国支部学術集会, 米子市, 2024. 6

2. 第VIII因子インヒビター陽性先天性血友病A患者に認めた抜歯後異常出血の一例

大淵幸与, 八尾知亜紀, 加納優也, 木谷憲典

第69回日本口腔外科学会総会・学術大会, 横浜市, 2024. 11

3. 硬口蓋粘膜に認めた青色母斑の一例

八尾知亜紀, 大渕幸代, 木谷憲典

第69回日本口腔外科学会総会・学術大会, 横浜市, 2024. 11

4. 硬口蓋粘膜に認めた青色母斑の一例

八尾知亜紀, 大渕幸代, 木谷憲典

山陰口腔疾患研究会, 米子, 2024. 12

<講演・講義・研修会>

1. 歯科衛生士に必要な口腔粘膜の知識

木谷憲典

鳥取県東部歯科衛生士会鳥取県歯科医師会館, 鳥取市, 2024. 7

2. 顎骨壊死予防のための口腔ケアの重要性

木谷憲典

骨粗鬆症デー講演会, 鳥取市, 2024. 10

3. 講義

木谷憲典 10回 (15時間), 大渕幸与 10回 (15時間)

鳥取県立衛生士専門学校, 鳥取市, 2024. 5 ~ 11 1.5時間 × 20回

4. 講義

木谷憲典

鳥取県立鳥取看護専門学校, 鳥取市, 2024. 9 1.5時間 × 2回

5. 鳥取県立衛生士専門学校臨床実習受け入れ

1月～12月 2年生, 3年生

6. 地域・在宅看護援助論Ⅲ 在宅における口腔ケア

岸本真紀

鳥取県立看護専門学校講義, 鳥取市, 2024. 10

<医療講座>

1. 「血糖値だけじゃない糖尿病の話」糖尿病がある人が知っておきたい歯の話

岸本真紀

看護局

<誌上発表>

1. ニューマン理論を学ぶ仲間づくり 看護の進化をめざす学習会の立ち上げと発展にむけて

今泉郷子, 小栗藍子, 樹下和江

看護の科学新社. 3-6 : 68-64. 2024

<学会, 研究会発表>

1. 心臓術後に早朝重症低血糖を起こした非糖尿病で透析患者への関わり

糸谷恵子, 池田陽祐, 森本健一, 仁井陸冬, 宮坂成人

第 54 回日本心臓血管外科学会学術総会. 浜松市, 2024. 2

2. ルテチウムオキソドトレオチドによるペプチド受容体放射性核種療法実施に向けたがん放射線療

法看護認定看護師の役割

橋本瑞樹

第 38 回日本がん看護学会学術集会. 神戸市, 2024. 2

3. 放射線療法について

橋本瑞樹

がん診療研修会. 鳥取市, 2024. 3

4. 地域貢献における認定看護師の役割～中国地方救急看護発展推進会の設立～

山根太地

日本救急看護認定看護師会ブラッシュアップセミナー. Web, 2024. 6

5. 当院での患者説明の取り組み～ツールの活用と情報共有～

橋本瑞樹

山陰放射線腫瘍研究会. 米子市, 2024. 6

6. 人工呼吸器関連肺炎予防ケアの遵守率向上に向けて－促進因子, 阻害因子を明らかにする－

内藤湧輝

日本集中治療医学会第 8 回中国・四国支部学術集会. 広島市, 2024. 6

7. 退院先シートを用いた外来・病院間の申し送り記載率向上への介入

橋本瑞樹, 吉田菜摘

第 55 回日本看護学会学術集会. 熊本市, 2024. 9

<講演・講義・研修会>

1. 放射線療法を受ける患者の看護

橋本瑞樹

鳥取県立鳥取看護専門学校. 鳥取市, 2024. 4

2. 放射線療法を受ける患者の看護

橋本瑞樹

鳥取県立倉吉総合看護専門学校. 倉吉市, 2024. 6

3. 見て！聴いて！触って！みんなで学ぼう！呼吸・循環器フィジカルアセスメント
山根太地, 前田貴斗, 河崎 司
鳥取県看護協会主催. 鳥取市, 2024. 6
4. フィジカルアセスメント
山根太地
鳥取県看護職員再就業支援研修. 鳥取市, 2024. 8
5. 当院における救急現場でのオンドキサ使用について～看護師の立場から考えてみる～
川本千夏
チームで出血管理を考える会～抗凝固薬の中和の判断・タイミングについて～. Web, 2024. 10
6. 粘膜障害と骨髄抑制
橋本瑞樹
久留米大学認定看護師教育センター. 久留米市, 2024. 10
7. マーガレット・ニューマン看護理論実践学習会
池田 牧, 樹下和江, 宮脇 工, 赤坂靖子
マーガレット・ニューマン看護理論実践学習会. 鳥取市, 2024. 11

薬剤部

<学会・研究会発表>

1. 褥瘡対策計画書を効率的に作成するための取り組みについて
小谷佐知子, 小松珠美, 下山英津子
第 27 回中国病院薬学研究会. Web, 2024. 1
2. 中央業務スリム化と病棟薬剤業務開始によるインシデントへの影響
田中恭平, 伊藤ちとせ, 杉谷 恵、川本照子, 小谷佐知子
第 29 回鳥取県医療薬学セミナー. 米子市, 2024. 12

<講演会・講義・研修会>

1. 指定難病について
小谷佐知子
東部圏域難病医療相談会. 鳥取市, 2024. 6
2. 抗がん剤治療と制吐療法について
湯口朋子
第 5 回いなば薬薬連携セミナー. Web, 2024. 8
3. 造血幹細胞移植における当院薬剤師の関わり
渡邊俊介
造血幹細胞移植セミナー. 鳥取市・Web, 2024. 9
4. CapeOX + Zolbetuximab 療法, 当院での使用状況
武田康嗣
鳥取県がん薬物療法レジメン研修会. Web, 2024. 12
5. 薬理学

秋山恵里，濱崎拓哉

鳥取県立看護専門学校講義. 鳥取市, 2024. 5-9

中央放射線室

<誌上発表>

1. 心筋遅延造影ワークアウト！スペクトラル CT における撮影条件の検討
前田哲生, 上山忠政, 岸本淳一, 小山 亮, 澤 和宏, 壱岐 勝
Radfun22 : 44-49, 2024
2. 2層検出器 DECT撮影の勘所 - 鳥取県立中央病院での DECT の使い方とポイント
上山忠政, 岸本淳一, 小山 亮, 澤 和宏
インナーナビジョン 39. 6 : 23-26, 2024

<学会・研究会発表>

1. Dual energy CT を用いたスキャンパラメーターによる電子密度の精度評価
岸本淳一, 前田哲生, 上山忠政, 小山 亮, 壱岐 勝
日本放射線技術学会第 80 回総会学術大会. 横浜市, 2024. 4
2. アンガーモード SPECT 装置を用いた心筋血流定量評価による心事故発生予測
石賀慎基, 澤 和宏, 松末英司, 那須博司, 赤坂俊彦, 壱岐 勝
第 34 回日本心臓核医学会総会学術大会. さいたま市, 2024. 6
3. 連続寝台移動収集型 PET/CT における反復移動収集が腹部病変の SUV に与える影響
川上美穂, 澤 和宏, 赤島啓介, 小山 亮, 上山忠政, 石賀慎基, 松末英司
日本核医学技術学会第 36 回中国・四国地方会. 山口市, 2024. 6
4. アンガーモード SPECT 装置を用いて心筋血流定量測定を付加した心イベント予測とリスク層別化の試み
澤 和宏, 石賀慎基, 川上美穂, 赤島啓介, 松末英司, 赤坂俊彦, 壱岐 勝
日本核医学技術学会第 36 回中国・四国地方会. 山口市, 2024. 6
5. 2層検出器 CT における仮想単純画像の撮影条件による影響の基礎検討
田中康隆, 岸本淳一, 上山忠政, 小山 亮, 澤 和宏
第 20 回中四国放射線医療技術フォーラム (CSFR2024). 岡山市, 2024. 10
6. Field in Field を用いた Long SSD TBI の有用性
小谷 伶, 森谷恵理, 木原康行, 砂川和宏
第 1 回日本放射線医療技術学術大会. 宜野湾市, 2024. 10
7. 手術室におけるガーゼ遺残対策の継続した取り組み
永尾結奈
第 62 回全国自治体病院学会. 新潟市, 2024. 11

<学会地方会・研究会発表>

1. DE は単純 CT にどのような有用性を示すか ~電子密度画像を中心に~
上山忠政

Cyber DECT conference. Web Live セミナー, 2024. 3

2. 震災時の対応

木原康行

第 15 回放射線治療機器及び医療機器の安全使用のための研修会. Web Live セミナー, 2024. 3

3. 診療報酬改定について

小谷 伶

東部治療技術研究会. 鳥取市, 2024. 5

4. 心臓 MRI の症例報告

小山翔太郎

第 20 回 Tottori BIRT Meeting. Web Live セミナー, 2024. 6

5. Dual energy CT の勘どころ ~日々の検査への活用~

岸本淳一

鳥取県診療放射線技師会研修会. 倉吉市, 2024. 8

6. 濃縮胆汁を想定した呼吸停止 MRCP における撮像条件の基礎検討

小山翔太郎, 赤島啓介, 前田哲生, 上山忠政, 小山 亮, 澤 和宏

鳥取県診療放射線技師会学術大会・がん検診研究会. 鳥取市, 2024. 12

<学会・研究会の座長>

1. 実質系の造影理論 座長

前田哲生

第 1 回東海・鳥取造影 CT ゼミナール鳥取県診療放射線技師会. 鳥取市, 2024. 2

2. 小児 座長

前田哲生

第 20 回中四国放射線医療技術フォーラム (CSFRT2024). 岡山市, 2024. 10

3. Dual Energy 座長

上山忠政

第 20 回中四国放射線医療技術フォーラム (CSFRT2024). 岡山市, 2024. 10

4. 日本心臓 CT 技術研究会技術講習会 司会

前田哲生

日本心臓 CT 技術研究会. 鳥取市, 2024. 12

中央検査室

<誌上発表>

1. 初診時に慢性リンパ性白血病の併存を診断し得た慢性骨髓性白血病の一例

川上智史, 田中孝幸, 加藤千春, 小村裕美, 中本 周

日本検査血液学会雑誌. 25 : 291-298. 2024

2. 透析チューブを用いたセルブロック作製法（透析チューブ法）

川上智史, 中本 周, 前田和俊, 徳安祐輔

病理と臨床. 42 : 1051-1056. 2024

<学会発表>

1. 隨液検体を用いて細胞診とフローサイトメトリー検査を併用した造血器腫瘍の診断
川上智史, 田中孝幸, 前田麻衣子, 加藤千春, 小田晋輔, 德安祐輔
第 25 回日本検査血液学会学術集会. 広島市, 2024. 6
2. 感染性心内膜炎を契機に人工弁機能不全が急速に進行し緊急手術となった一例
小柴 鷹, 赤坂俊彦, 山本寿恵, 甲斐遙華, 前田沙紀, 森本健一, 宮坂成人
第 125 回日本循環器学会中国地方会. 倉敷市, 2024. 11
3. 当院における尿沈渣中の異形細胞と尿細胞診の比較
福田水貴, 田中恭子, 前田和俊, 川上智史, 金光真子
第 57 回日臨技中四国支部医学検査学会. 鳥取市, 2024. 11
4. 隨液検体で FCM 検査とセルブロックの作製が可能であった造血器腫瘍の 3 症例
川上智史, 前田和俊, 加藤千春, 五百川尚宏
第 57 回日臨技中四国支部医学検査学会. 鳥取市, 2024. 11
5. 心房中隔にまたがって発生した心臓粘液腫の一例
前田沙紀, 山本寿恵, 谷口千里, 谷口 悟, 小柴 鷹, 甲斐遙華, 宮脇可奈子, 五百川尚宏
第 57 回日臨技中四国支部医学検査学会. 鳥取市, 2024. 11
6. 末梢血の異常細胞の報告が診断の契機となった PCL の 1 例
橋本佳子, 川上智史, 前田麻衣子, 加藤千春, 五百川尚宏
第 57 回日臨技中四国支部医学検査学会. 鳥取市, 2024. 11
7. 関節液から分離された *Streptobacillus moniliformis* の 1 例
遠藤英弥, 田中さゆり, 上原由佳, 林 智子, 五百川尚宏
第 57 回日臨技中四国支部医学検査学会. 鳥取市, 2024. 11
8. 子宮内膜擦過細胞診で認めた乳腺浸潤性小葉癌の 1 例
前田和俊, 德安祐輔, 谷上和弥, 川上智史, 小田晋輔, 廣岡保明
第 63 回日本臨床細胞学会秋期大会. 千葉市, 2024. 11
9. DL 試験を提案し, PCH と診断された症例
浜本祐子, 佐々木崇雄
第 57 回日臨技中四国支部医学検査学会. 鳥取市, 2024. 11
10. 乳腺原発悪性リンパ腫の一例
谷上和弥, 木村仁南, 福田水貴, 前田和俊, 加藤千春
第 57 回日臨技中四国支部医学検査学会. 鳥取市, 2024. 11
11. 子宮壁部 Liquid based cytology (LBC) 標本に出現した Myeloid sarcoma の 1 例
川上智史, 德安祐輔, 谷上和弥, 前田和俊, 小田晋輔, 廣岡保明
第 63 回日本臨床細胞学会秋期大会. 千葉市, 2024. 11
および第 38 回鳥取県臨床細胞学会学術集会. 倉吉市, 2024. 12

<講演会・講義・研修会>

1. 座長
谷口 悟

第 57 回日臨技中四国支部医学検査学会. 鳥取市, 2024. 11

2. 学生フォーラム A 臨地実習の実際とこれから卒後数年の技師が考える臨地実習のあり方

堀 智恵

第 57 回日臨技中四国支部医学検査学会. 鳥取市, 2024. 11

3. シンポジウム「検査の多様化が進む中でー新時代の微生物検査ー」これからの微生物検査技師に

求められること

田中さゆり

第 57 回日臨技中四国支部医学検査学会. 鳥取市, 2024. 11

4. Liquid 検体を用いるがん遺伝子パネル検査について学ぼう ~ Guardant360®CD × がん遺伝子

パネル 編~

前田和俊

2024 年度 第 1 回染色体・遺伝子検査部門研修会. Web, 2024. 8

5. 染色体・遺伝子部門 シンポジウム「基礎から学びなおす遺伝子検査」

前田和俊

第 57 回日臨技中四国支部医学検査学会. 鳥取市, 2024. 11

6. 婦人科

谷上和弥

2024 年度鳥取県細胞検査士養成講習会. 鳥取市, 2024. 6

臨床工学室

<学会発表>

1. レット症候群による睡眠時低換気症状に対して NPPV を導入した症例

高野 岳

第 34 回日本臨床工学会. 福井市, 2024. 5

2. モンゴル国トゥブ県における医療専門家派遣交流の経験

秋本恵理子

第 14 回中四国臨床工学会. 松山市, 2024. 9

3. 高気圧酸素治療器の機器故障で治療が開始できなかった事例

久野佳苗

第 14 回中四国臨床工学会. 松山市, 2024. 9

4. 小児在宅医療パスプロジェクトチーム活動報告

高野 岳

第 14 回中四国臨床工学会. 松山市, 2024. 9

5. ツアー型オープンホスピタルを利用した臨床工学技士業務紹介

金井賢人

第 62 回全国自治体病院学会 in 新潟. 新潟市, 2024. 10

6. 単回使用カテーテルのレアメタルを採取し収入を増加する取り組み

太田 裕

第 62 回全国自治体病院学会 in 新潟. 新潟市, 2024. 10

7. 当院で新規導入した Shock Wave を用いた症例経験

安部貴大

第 30 回日本心血管インターベンション治療学会中国四国地方会. 岡山市, 2024. 9

<学会・研究会の主催、座長>

1. CHDF に関するすべてのスタッフに届けたい薬の話 座長

高野 岳

第 14 回中国四国 CHDF 技術検討会. 岡山市, 2024. 11

リハビリテーション室

<誌上発表>

1. 人工膝関節全置換術における Criteria Based パス導入効果

川淵敬太, 前田啓之

日本クリニカルパス学会誌 26, 349–356. 2024

<研究会・学会発表>

1. TKA 術後の Criteria Based Protocol が在院日数および術後の運動機能へ与える影響

川淵敬太, 岡田夏希, 井上響平, 中村雅俊, 村上大気, 山下尚寛

第 54 回日本人工関節学会. 京都市, 2024, 2

2. 睡眠時無呼吸症候群による肺炎の回復遷延があり、CPAP 療法と腹臥位療法で改善が得られた症例

竹田賢彦

日本集中治療医学会第 8 回中国・四国支部学術集会. 広島市, 2024. 6

3. 人工膝関節全置換術術前と術後早期における心拍変動と疼痛および自律神経症状との関連

川淵敬太, 山根健太, 間庭奨大, 井上響平, 谷口涼香, 山下尚寛

第 28 回ペインリハビリテーション学会学術大会. 長崎市, 2024, 6

4. 睡眠時無呼吸症候群が契機となる遷延する肺炎に腹臥位療法と経鼻的持続気道陽圧療法が効果的であった症例

竹田賢彦

第 37 回中国ブロック理学療法士学会. 米子市, 2024. 9

5. 感覚識別課題の併用により疼痛と関節可動域の改善に至った膝関節拘縮の一症例

谷口涼香, 川淵敬太

第 37 回中国ブロック理学療法士学会. 米子市, 2024. 9

6. 人工股関節全置換術後の大転子骨折に対する荷重制限の予防効果および術後運動機能の傾向

間庭奨大, 川淵敬太, 山根健太, 井上響平

第 37 回中国ブロック理学療法士学会. 米子市, 2024. 9

7. 動作レベルの異なる急性期脳卒中患者 3 症例における大腿四頭筋筋厚変化の傾向

北村智之, 川淵敬太

第 37 回中国ブロック理学療法士学会. 米子市, 2024. 9

8. 大腿骨近位部骨折患者の 3day Cumulated Ambulation Score と歩行状況の関連

- 山根健太, 川淵敬太, 間庭獎大, 井上響平
第 37 回中国ブロック理学療法士学会. 米子市, 2024. 9
9. 整形外科疾患における Criteria パス導入効果 (座長長受賞)
川淵敬太, 前田啓之
第 24 回日本クリニカルパス学会学術集会. 松山市, 2024, 10
10. 人工股関節全置換術後患者における入院中の日常生活動作獲得日数調査
中村 博, 松山直樹
第 20 回鳥取県作業療法学会. 倉吉市, 2024. 12

栄養管理室

<講演会・講義>

1. 糖尿病のある人が腎臓を守るために食事で気をつけたいこと
田中絢奈
医療講座. 鳥取市, 2024. 6
2. 栄養学Ⅱ 食事療法
宮崎典子
鳥取看護専門学校. 鳥取市, 2024. 5 ~ 15 時間
3. 栄養学 I
岡本英津子
鳥取看護専門学校. 鳥取市, 2024.10 ~ 16 時間
4. 栄養学 I
岸本和恵
鳥取看護専門学校. 鳥取市, 2024.10 ~ 14 時間
5. 栄養薬剤, 栄養剤, 食品の選択
岸本和恵
第 15 回 N S T 短期集中研修会. 鳥取市, 2024. 10
6. 災害時における母乳のために必要な栄養
米村優奈
B F H 講演会. 鳥取市, 2024. 11

<研究・学会発表>

1. 座長
岸本和恵
第 16 回日本栄養治療学会中国四国支部学術集会, Web. 2024. 8
2. 胃切除後患者に対する栄養指導の取り組み～食べやすいもの, 食べにくいもの調査結果～
岸本和恵
第 16 回日本栄養治療学会中国四国支部学術集会, Web. 2024. 8

感染防止対策室

<講演・講義・研修会>

1. 感染防止対策～感染対策の基本スキル～

朽本浩紀

令和6年度介護専門職オンライン研修会 鳥取市, 2024. 9

2. 新型コロナウイルス感染症を想定した基本的な感染対策の考え方と施設において許容される感染リスクについて

朽本浩紀

令和6年度鳥取県厚生事業団看護職員研修会 鳥取市, 2024. 10

3. 手指衛生を改善する取り組み

入江眞里, 朽本浩紀

令和6年度鳥取県院内感染対策研修会 米子市, 2024. 11

4. 感染防止対策

朽本浩紀

いこいの杜施設内感染対策研修会 鳥取市, 2024. 12

5. 感染防止対策

朽本浩紀

羽合ひかり園施設内感染対策研修会 鳥取市, 2024. 12

患者支援センター

<講演・講義・研修会>

1. 性教育講演会

橋本万住子

鳥取県立白兎養護学校中学部 鳥取市, 2024. 1

2. 講義：女性のライフサイクル各期の特徴

橋本万住子

倉吉総合看護専門学校助産学科 倉吉市, 2024. 1

3. お家でできる性教育ってどんなこと？

橋本万住子

鳥取市立城北小学校 PTA 研修会 鳥取市, 2024. 1

4. 性教育講演会

橋本万住子

鳥取大学附属特別支援学校高等部 鳥取市, 2024. 1

5. お家でできる性教育ってどんなこと？

橋本万住子

八頭郡町立八東小学校 PTA 研修会 八頭郡, 2024. 2

6. 性教育講演会

橋本万住子

鳥取大学附属特別支援学校高等部. 鳥取市, 2024. 3

7. 保健体育の授業：2年生

橋本万住子

青翔開智中学校. 鳥取市, 2024. 3

8. 講義：妊活セミナー

橋本万住子

鳥取看護専門学校 1年. 鳥取市, 2024. 3

9. 令和6年度新入職員研修会「ライフプランセミナーと女性活躍推進研修」

橋本万住子

大山乳業農業協同組合. 琴浦町, 2024. 3

10. 講義：母性看護学概論「不妊症の基礎知識と最近の動向」

橋本万住子

倉吉総合看護専門学校第1・第2看護学科 2年. 倉吉市, 2024. 6

11. 講義：母性看護援助論 I

橋本万住子

鳥取県立鳥取看護専門学校 2年. 鳥取市, 2024. 7

12. 性教育講演会

橋本万住子

鳥取県立智頭農林高等学校 1年. 八頭郡, 2024. 7

13. 女性の健康と男女の更年期問題について

橋本万住子

鳥取県警察本部職員研修. 鳥取市, 2024. 8

14. お家でできる性教育

橋本万住子

白兎養護学校 PTA 人権教育・研修部主催. 鳥取市, 2024. 8

15. 性教育講演会

橋本万住子

鳥取県立智頭農林高等学校全校生徒. 八頭郡, 2024. 11

16. 性教育講演会

橋本万住子

鳥取県立白兎養護学校小学部・中学部. 鳥取市, 2024. 11

17. 性に関する指導講演会

橋本万住子

鳥取県立鳥取工業高校 1学年. 鳥取市, 2023. 11

18. 地域の専門機関と連携し、ひとり親世帯の支援を行った事例

谷口未来

第57回中国地区医療社会事業大会. 山口市. Web, 2024. 11

19. 性教育講演会

橋本万住子

鳥取県立白兎養護学校高等部. 鳥取市, 2024. 12

20. 性教育講演会

橋本万住子

鳥取県立盲学校高等部女子・男子. 鳥取市, 2024. 12

21. 性教育講演会

橋本万住子

鳥取市立青谷中学校 1年. 鳥取市, 2024. 12

22. 連合鳥取女性委員会学習会 女性の健康とウェルビーイングについて

橋本万住子

日本労働組合総連合会鳥取県連合会. 倉吉市, 2024. 12

23. 性教育講演会

橋本万住子

鳥取市立北中学校 1年. 鳥取市, 2024. 12

24. 性教育講演会

橋本万住子

鳥取県立白兎養護学校中学部. 鳥取市, 2024. 12

<シンポジウム>

1. 「産官学民で考える社会課題としての更年期女性の健康推進」 パネリスト

橋本万住子

日本医療政策機構主催国際シンポジウム. 東京都, 2024. 4

<新聞, テレビ, ラジオ>

1. 数字は語る：更年期障害, 辛さの影響 仕事にも家庭にも

橋本万住子

朝日新聞東京本社, 2025. 7

がん相談支援センター

<学会・研究会発表>

1. がん相談を契機にゲノム医療へつながった一例

藤松義人

第 12 回日本がん相談研究会. 中央区築地, 2024. 3

2. がん遺伝子パネル検査に伴う病院損失を防ぐためのシステム構築 - 簡易スクリーニングと電子カ

ルテ共有ネットワークの活用 -

藤松義人

第 62 回全国自治体病院学会. 新潟市, 2024. 10

<講演・講義・研修会>

1. 高齢者の看取り

濱野由紀子

- 社会福祉法人こうほうえん研修会. Web, 2024. 1
2. 認定がん相談支援センター申請準備の実際
藤松義人
国立がん研究センター認定がん相談支援センター説明会. Web, 2024. 1
3. がん患者さんを理解しよう - 後編 -
池田 牧, 濱野由紀子
令和5年度鳥取県立中央病院専門認定看護師地域公開講座. 鳥取市, 2024. 2
4. がんになっても自分らしく生きる 「就労支援とピアサポート」 シンポジスト
藤松義人
鳥取大学がんセンター市民公開講座. 米子市, 2024. 3
5. 第3回山陰がんゲノム医療研究会 一般演題 座長
池田 牧, 藤松義人
山陰がんゲノム医療研究会. 米子市, 2024. 4
6. 成人看護援助論IV 緩和ケア
濱野由紀子
鳥取県立鳥取看護専門学校. 鳥取市, 2024. 4
7. 加速するがんゲノム医療！がん相談支援センターの役割や取り組みを改めて考えよう
藤松義人
国立がん研究センター認定がん相談支援センターサロン. Web, 2024. 5
8. 精神看護学概論 身体疾患を持つ患者に生じる心の問題と看護
池田 牧
鳥取看護大学学部2年生. 倉吉市, 2024. 5
9. NPO法人ニューマン理論・研究・実践研究会主催プレ・プラクシスコース
池田 牧
NPO法人ニューマン理論・研究・実践研究会主催研修会. Web, 2024. 5. 7. 9. 11. 1. 3
10. 研究とは
池田 牧
尾崎病院看護研究カンファレンス講師. 鳥取市, 2024. 6
11. かしこいがん情報の探し方
藤松義人
がん患者サロン再開記念講演会. 鳥取市, 2024. 6
12. 「働き盛りの女性特有の健康課題とがんを学ぶ - 病気があってもイキイキと過ごすことを支えたい-」
池田 牧
鳥取県看護協会主催研修会. 鳥取市, 2024. 9
13. 令和6年度鳥取県立中央病院ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム
池田 牧, 濱野由紀子
鳥取県立中央病院. 鳥取市, 2024. 10
14. スピリチュアルについて
池田 牧

岩美病院新人研修. 岩美郡, 2024. 10

15. 看取りの看護

濱野由紀子

岩美病院新人看護師研修. 岩美郡, 2024. 10

16. コンサルテーション

池田 牧

鳥取看護大学大学院修士課程講義. 倉吉市, 2024. 10

17. スピリチュアルについて

池田 牧

尾崎病院院内新人研修. 鳥取市, 2024. 10

18. スピリチュアルについて

池田 牧

尾崎病院院内ラダーⅡ研修. 鳥取市, 2024. 11

19. 看取りの看護

濱野由紀子

尾崎病院院内新人研修. 鳥取市, 2024. 11

20. 看護研究とは

池田 牧

尾崎病院看護研究発表会講師. 鳥取市, 2024. 12

21. 施設で取り組むがん患者等への支援

藤松義人

2024年度鳥取県立中央病院緩和ケア研修会. 鳥取市, 2024. 12

22. ACPを考えよう - 緩和ケア病棟の - 事例から

濱野由紀子

令和6年度第2回鳥取県立中央病院緩和ケア病棟研修会. 鳥取市, 2024. 12

23. 浮腫のケア～リンパ浮腫から終末期の浮腫まで～

池田 牧, 濱野由紀子

令和6年度鳥取県立中央病院専門認定看護師地域公開講座. 鳥取市, 2024. 12

臨床心理士室

<学会・研究会発表>

1. がん相談を契機にゲノム医療へとつながった一例

藤松義人

第12回日本がん相談研究会. 東京都, 2024. 3

2. がん遺伝子パネル検査に伴う病院損失を防ぐためのシステム構築 - 簡易スクリーニングと電子カルテ共有ネットワークの活用 -

藤松義人

第62回全国自治体病院学会. 新潟市, 2024. 10

<講演・講義・研修会>

1. 認定がん相談支援センター申請準備の実際

藤松義人

国立がん研究センター認定がん相談支援センター説明会. Web, 2024. 1

2. がんになっても自分らしく生きる 「就労支援とピアサポート」 シンポジスト

藤松義人

鳥取大学がんセンター市民公開講座. 米子市, 2024. 3

3. 座長

池田 牧, 藤松義人

第3回山陰がんゲノム医療研究会. 米子市, 2024. 4

4. 加速するがんゲノム医療！がん相談支援センターの役割や取り組みを改めて考えよう

藤松義人

国立がん研究センター認定がん相談支援センターサロン. Web, 2024. 5

5. かしこいがん情報の探し方

藤松義人

がん患者サロン再開記念講演会. 鳥取市, 2024. 6

6. 施設で取り組むがん患者等への支援

藤松義人

2024年度鳥取県立中央病院緩和ケア研修会. 鳥取市, 2024. 12

臨床統計

(2024年1月～12月)

心臓内科

	2022	2023	2024
心臓カテーテル検査	503	444	476
経皮的冠動脈形成術（症例数）	204	229	220
経皮的カテーテル心筋焼灼術	207	267	257
ペースメーカー（ICD,CRT,CRTD を含む）移植術、交換術	109	82	105
植込型除細動器移植術（ICD）	4	4	5
心室再同期療法（CRT,CRTD）	5	6	8
経皮的腎動脈形成術		2	
経皮的大動脈弁拡張術	1	1	

脳神経内科

入院統計

	2022	2023	2024
新入院患者数（件）	319	309	355
平均在院日数（日）	17.9	17.5	18

疾患別内訳

	2022	2023	2024
てんかん	20	23	32
髄膜炎・脳炎	13	23	20
末梢神経障害	31	17	31
変性疾患	6	12	28

脳卒中センター

急性期血管内治療延べ件数

	2022	2023	2024
経皮的脳血管形成術	19	8	2
経皮的頸動脈ステント留置術	23	29	25

疾患別内訳

	2022	2023	2024
脳血管障害	516	528	567
脳出血（保存的加療）	85	77	79
脳出血（手術あり）	31	22	25
虚血性脳血管障害	333	344	342
rtPA 使用のみ	24	19	24
rtPA+ 経皮的脳血栓回収術	21	13	14
経皮的脳血栓回収術のみ	23	12	29

	一過性脳虚血性発作	14	12	18
--	-----------	----	----	----

小児科

	2022	2023	2024
食物経口負荷試験実績	48	58	76
小児内視鏡検査			
上部消化管内視鏡	6	8	6
下部消化管内視鏡	3	4	1
※気管支鏡		18	24

外科／消化器外科

15歳以上	2022	2023	2024
ダメージコントロール手術			2
デブリードマン2. (100～3000cm ³)			
ヘルニア手術1. 腹壁瘢痕ヘルニア	2	1	2
ヘルニア手術2. 半月状線・白線ヘルニア, 腹直筋離開			
ヘルニア手術3. 脇ヘルニア	2	2	2
ヘルニア手術5. 鼠径ヘルニア	11	2	10
ヘルニア手術6. 大腿ヘルニア			
ヘルニア手術8. 骨盤部ヘルニア	1		1
ヘルニア手術9. 内ヘルニア	1	1	
リンパ節群郭清術7. 後腹膜		1	
リンパ節生検	3		
リンパ節摘出術1. 長径3cm未満	2	1	2
リンパ節摘出術2. 長径3cm以上	1	1	1
ロボ胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術			1
ロボ胸腔鏡食道悪性腫瘍術(頸・胸・腹部)	11	12	15
ロボ腹腔鏡下胃切除術1.(単純切除術)			1
ロボ腹腔鏡下胃切除術2.(悪性腫瘍手術)	7		
ロボ腹腔鏡下胃切除術3.(悪性腫瘍手術)	9	26	34
ロボ腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術)	1	4	1
ロボ腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術		16	34
ロボ腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術)	9	9	5
ロボ腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術)	2	6	11
ロボ腹腔鏡下直腸切除・切断術(切開術)	6	2	1
ロボ腹腔鏡下直腸切除・切断術(低位前方切除術)	16	24	16
胃局所切除術			
胃,十二指腸憩室(開腹)			
胃切開術		1	
胃切除術-1. 単純切除術			1

胃切除術 -2. 悪性腫瘍	2	1	4
胃全摘術 1. 単純全摘			
胃全摘術 2. 悪性腫瘍	2	3	
胃腸吻合術（ブラウン手術を含む）	1	3	2
胃縫合術（大網充填術又は被覆術含）	3	1	1
胃瘻造設術（経皮的内視鏡下造設含）	2	3	3
胃瘻閉鎖術（開腹）			
回腸（結腸）導管造設術			4
肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼（～2cm その他）			
肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼（～2cm 腹腔鏡）			2
肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼（2cm～腹腔鏡）			1
肝切除術（1区域切除（外側除）（1歳上）	3	3	1
肝切除術（2区域切除）（1歳以上）	2	2	2
肝切除術（3区域切除以上）（1歳以上）			
肝切除術（亜区域切除）（1歳以上）	1		1
肝切除術（外側区域切除）（1歳以上）			
肝切除術（部分切除）（1歳以上）	1	3	2
肝切除術（部分切除・複数回）（1歳以上）	1		1
肝縫合術			
肝門部胆管悪性腫瘍術 2. 血行再建無			
急性汎発性腹膜炎手術	23	30	14
胸腔鏡下（腹腔鏡下含）横隔膜縫合術	1		
胸腔鏡下胸管結紉術（乳糜胸手術）			
胸腔鏡下試験開胸術	1		
胸腔鏡下膿胸腔搔爬術			
胸腔鏡食道悪性腫瘍術（頸・胸・腹部）			1
経肛門的内視鏡下手術（直腸腫瘍）			
経尿道的尿管ステント留置術	1		1
経皮的針生検法			
経皮的腹腔膿瘍ドレナージ術			
結腸腫瘍、結腸憩室摘出術			1
結腸切除術 1. 小範囲切除	11	4	9
結腸切除術 2. 結腸半側切除	3	3	1
結腸切除術 3. 全切除・亜全切除・悪	11	13	11
結腸瘻閉鎖術 2. 腸管切除を伴う		1	
限局性腹腔膿瘍手術 3. 虫垂周囲膿瘍			
限局性腹腔膿瘍手術 4. その他		1	1
後胸骨ヘルニア手術			1
後腹膜悪性腫瘍手術			1
抗悪性剤静脈注入カテーテル植込：3頭頸部			21
骨盤内臓全摘術			
四肢切断術（大腿）			

子宮付属器腫瘍摘出術（両側）1. 開腹			
子宮付属器腫瘍摘出術（両側）2. 腹腔	1		
試験開腹術	20	5	3
痔核手術（脱肛含）1. 硬化療法		1	2
痔核手術 3. 結紮焼灼, 血栓摘出術			
痔核手術 4. 根治手術		1	
痔瘻根治手術 1. 単純なもの		1	
縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術	2		
縦隔腫瘍, 胸腺摘出術			
小腸腫瘍, 小腸憩室摘出術（メッケル憩室炎手術を含む）			
小腸切除術 1. 悪性腫瘍手術以外の切除術	15	11	8
小腸切除術 2. 悪性腫瘍手術			
小腸瘻閉鎖術 2. 腸管切除を伴う		1	
食道悪 2. 胸・腹部の操作によるもの			
食道切除後 2 次的再建術（消化管利用）			
食道切除再建術 1. 頸部胸部腹部操作			
食道切除術（単に切除のみ）			
食道縫合術（穿孔・損傷）2. 開胸手術	1		1
食道裂孔ヘルニア手術 1. 経胸又は経腹		1	
人工肛門修整術 1. 開腹を伴うもの			
人工肛門修整術 2. その他のもの			
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加			
人工肛門造設加算（結腸切除術）	1		2
人工肛門造設加算（直腸切除・切断術）	2		
人工肛門造設加算（腹腔鏡下直腸切除術）			
人工肛門造設加算 2（低位前方切除術）	2	2	2
人工肛門造設術	8	8	9
人工肛門閉鎖術 1. 腸管切除を伴わないもの			1
人工肛門閉鎖術 2. 腸管切除を伴うもの	12	13	9
腎（尿管）悪性腫瘍手術			
腎摘出術			
創傷処理 1. 筋肉達する（5cm 未満）	2		
創傷処理 1. 筋肉達する（5～10cm 未満）			2
創傷処理 4. 筋肉達しない（5cm 未満）		1	1
創傷処理 5. 筋肉達しない（5～10cm 未満）			
総胆管胃（腸）吻合術			
大網切除術			
大網腸間膜	4		
大網, 腸間膜, 後腹膜摘出 1. 腸切除無		1	
大網, 腸間膜, 後腹膜摘出 2. 腸切除有	1	1	
胆管悪性腫瘍手術（その他）	1		
胆管切開結石摘出（胆囊摘出含む）		1	

胆管切開結石摘出 2. 胆囊摘出含まず			
胆囊悪性腫瘍手術（肝切（亜区域以上））			
胆囊悪性腫瘍手術（胆囊限・リンパ郭清）	3		
胆囊外瘻造設術			
胆囊摘出術	7	7	2
中心静脈栄養用植込型カテーテル設置 1. 四肢			
中心静脈栄養用植込型カテーテル設置 2. 頭頸部		2	
虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍伴う）	2		2
虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍伴わない）			
腸管癒着症手術	15	13	9
腸重積症整復術 2. 觀血的なもの			
腸切開術	1		1
腸吻合術	10	6	5
腸閉鎖症手術 1. 腸管切除を伴わない			
腸瘻, 虫垂瘻造設術	2	1	
直腸異物除去術 1. 切除術			1
直腸狭窄形成手術			
直腸周囲膿瘍切開術			
直腸腫瘍摘出術 1. 経肛門			
直腸切除・切断術 1. 切除	1	1	1
直腸切除・切断術 2. 低位前方切除	2	1	
直腸切除・切断術 3. 超低位前方切除			
直腸切除・切断術 4. 切断			
直腸脱手術（経会陰（腸管切除を伴う））			
摘出術 1. 腸切除を伴わないもの			
内視鏡胆道結石除去 2. その他			
乳糜胸手術			
破裂腸管縫合術		2	1
皮膚切開術 1. 長径 10cm 未満			1
皮膚皮下腫瘍摘出露出外 3cm 未満	3		
皮膚皮下腫瘍摘出露出外 3-6cm 未		2	2
皮膚皮下腫瘍摘出露出外 6cm 以上			
皮膚皮下腫瘍摘出露出部 2-4cm 未満	1		
皮膚皮下腫瘍摘出露出部 2cm 未満			
皮膚皮下腫瘍摘出露出部 4cm 以上	1		
皮弁作成術 2 (25 ~ 100 cm ²)			
副腎腫瘍摘出術 1. 皮質腫瘍			
腹腔・静脈シャントバルブ設置術	1		
腹腔鏡下ヘルニア手術（臍ヘルニア）			
腹腔鏡下ヘルニア手術（閉鎖孔ヘルニア）	1		
腹腔鏡下ヘルニア手術 1. 腹壁瘢痕ヘルニア		2	6
腹腔鏡下ヘルニア手術 2. 大腿ヘルニア			

腹腔鏡下胃、十二指腸潰瘍穿孔縫合		3	3
腹腔鏡下胃局所切除術			
腹腔鏡下胃局所切除術（その他）			1
腹腔鏡下胃局所切除術（内視鏡併施）	2	4	4
腹腔鏡下胃切除術1.（単純切除術）			
腹腔鏡下胃切除術2.（悪性腫瘍手術）	20	10	14
腹腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍手術）	3		1
腹腔鏡下胃全摘術（単純全摘術）			
腹腔鏡下胃腸吻合術	4	3	4
腹腔鏡胃吊上げ固定術（胃下垂症）			
腹腔鏡下肝切除術1.部分切除			
腹腔鏡下肝切除術2.外側区域切除		2	
腹腔鏡下肝切除術3.亜区域切除	1		2
腹腔鏡下肝切除術4.1区域切除（外側）		1	2
腹腔鏡下肝切除術5.2区域切除			3
腹腔鏡下肝切除術（部分切除・単回）	9	4	12
腹腔鏡下肝切除術（部分切除・複数）	1		
腹腔鏡下肝囊胞切開術	1	2	1
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	54	30	33
腹腔鏡下結腸切除（小範囲、結腸半側）	7	2	5
腹腔鏡下結腸切除（全切除、亜全切除）			
腹腔鏡下後腹膜腫瘍摘出術	1		2
腹腔鏡下試験開腹術	7	3	2
腹腔鏡下試験切除術	4	3	5
腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡併施）		1	2
腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術			
腹腔鏡下小腸切除術（悪性腫瘍以外）	2	1	1
腹腔鏡下小腸切除術（悪性腫瘍手術）			
腹腔鏡下食道アカラシア形成手術			
腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア手術		4	4
腹腔鏡下人工肛門造設術	16	8	5
腹腔鏡下人工肛門閉鎖術（悪性腫瘍に対する直腸切除術後）	1		
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	48	57	61
腹腔鏡下胆囊摘出術	94	110	87
腹腔鏡下虫垂切除術（周囲膿瘍なし）	29	23	31
腹腔鏡下虫垂切除術（周囲膿瘍伴う）	19	9	8
腹腔鏡下腸管癒着剥離術	1	1	3
腹腔鏡下直腸切除切断術（切除術）	3	2	1
腹腔鏡下直腸切除切断術（切断術）			
腹腔鏡下直腸切除切断術（低位前方切除術）	1		
腹腔鏡下直腸脱手術	3	5	2
腹腔鏡下尿膜管摘出術	1	1	2

腹腔鏡下汎発性腹膜炎手術		1	1
腹腔鏡下副腎摘出術			
腹腔鏡下噴門形成術			
腹腔鏡噴門側胃切除術（悪性腫瘍）			
腹腔鏡下脾摘出術	2	1	
腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術			1
腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除（脾温存）			
腹腔鏡結石摘出 1. 胆囊摘出含む	1		2
腹腔鏡結石摘出 2. 胆囊摘出含まず			
腹腔鏡噴門側胃切除術（悪性腫瘍切）			
腹腔脾体尾部腫瘍切除術（脾同時切）		1	
腹壁腫瘍切開術		1	
腹壁腫瘍摘出術 1. 形成術不必要			
腹壁瘻手術 1. 腹壁に限局するもの			
噴門形成術			
噴門側胃切除術 1. 単純切除術			
噴門側胃切除術 2. 悪性腫瘍切除術		1	
肛門形成術 1. 肛門狭窄形成術			
肛門形成術 2. 直腸粘膜脱形成手術			
肛門周囲膿瘍切開術	2	1	
肛門良性腫瘍・肛門ポリープ・肛門尖圭		1	
両側方郭清加算 5（切断術）	1		
卵管全摘除術（両側）（開腹）			
裂肛又は肛門潰瘍根治手術			
脾摘出術			
膀胱悪性腫瘍術 6. 経尿道（電解質溶）			
膀胱腸瘻閉鎖術			
膀胱壁切除術			1
脾全摘術			
脾体尾部腫瘍切除術 1 脾尾イ. 脾同時切除		2	
脾体尾部腫瘍切除術 1 脾尾口. 脾温存			
脾体尾部腫瘍切除 3. 周辺臓器合併	2		
脾体尾部腫瘍切除術 2. リンパ節・神経	3	2	4
脾頭部腫瘍切除術 1. 脾頭十二指腸切			
脾頭部腫瘍切除術 2. リンパ節・神経	6	3	
脾頭部腫瘍切除術 3. 周辺臓器	1		
脾頭部腫瘍切除術 4. 血行再建		2	
合 計	625	568	607

小児外科

頻度の高い疾患

			2022	2023	2024
虫垂炎	腹腔鏡下		10	12	9
外鼠径ヘルニア	前方アプローチ		2	1	
	腹腔鏡下		37	30	49

他の疾患

頭頸部	正中頸のう胞	Sistrank 手術	1	1	
	頸部リンパ節炎			1	5
胸部	横隔膜ヘルニア	胸腔鏡下ヘルニア修復術			1
		横隔膜ヘルニア修復術	1		
腹部	食道				
	胃	腹腔鏡下胃瘻造設		3	
		PEG		1	
	肥厚性幽門狭窄症	幽門筋切開術	1		
	十二指腸	十二指腸閉鎖	十二指腸十二指腸吻合術		
	空腸	空腸閉鎖	空腸空腸吻合術		1
		腸回転異常	Ladd 手術		3
	回腸	イレウス	イレウス解除	1	1
	肛門	直腸脱	Gant 三輪		1
		内痔核	硬化療法	2	3
		痔瘻	seton	2	1
		ポリープ	ポリープ切除		1
			根治術	1	
		鎖肛	人工肛門造設	1	
			人工肛門閉鎖	1	
泌尿器系	腫瘍	腫瘍摘出術		1	
	卵巣茎捻転	腹腔鏡下付属器切除		1	
	肝胆膵	脾摘	腹腔鏡下脾臓摘出術	2	1
	腹壁	臍ヘルニア	臍ヘルニア修復術	4	1
		白線ヘルニア	白線ヘルニア修復術	1	1
			腹腔鏡下ヘルニア修復術	1	
		臍腫瘍	腫瘍摘出術		1
		尿膜管遺残	腹腔鏡尿膜管遺残手術		1
	停留精巢	精巣固定術	9	16	5
		腹腔鏡補助下精巣固定術		2	
	非触知精巣	精巣摘出術	1	2	
	水腎症	腎瘻造設		1	
		腎盂形成		1	
	VUR	膀胱尿管新吻合		1	2

尿道形成			1	
	傍尿道口のう腫	囊腫摘出術	1	
	包茎	環状切開	2	
その他	ドレナージ 切開		6	2
	胸水		1	
	PICC 挿入		1	1
	抜去			1
	VP シヤント（腹腔鏡）		1	
	腫瘍（瘻孔）			2
	審査腹腔鏡	1		

16 歳以上

胃瘻	腹腔鏡下胃瘻造設			2
	PEG		1	1
ヘルニア	LPEC			1

総数		79	98	94
新生児症例		1	1	2
鏡視下手術		53	49	63

脳神経外科

		2022	2023	2024
従来型直達手術	頭蓋内腫瘍摘出術	12	14	15
	脳動脈瘤クリッピング術	5	10	11
	脳動静脈奇形摘出術			
	硬膜動静脈ろう直達術		1	
	脳血管吻合術	12	4	3
	内頸動脈血栓内膜剥離術	5	1	2
	頭蓋内血腫除去術	1. 硬膜外 2. 硬膜下 3. 脳内	3 8 13	1 10 10
	ICP モニター留置			6
	減圧開頭術	4	1	1
	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	47	49	75
	穿頭脳室ドレナージ術	7	5	22
	脳室腹腔短絡術（水頭症手術）	25	18	39
	脳膿瘍排膿術、摘出術			1
	微小神経血管減圧術	2	5	3
	機能	1		
	脊椎脊髄手術	8	8	1
	頭蓋骨形成手術	2	3	5

	その他	7	10	7
	小計	161	150	204
脳血管内手術	脳動脈瘤塞栓術	18	24	33
	脳動静脈奇形硬膜動静脉ろう塞栓術	1	5	4
	頸動脈ステント留置術	24	28	26
	経皮的脳血管形成術	19	13	3
	機械的脳血栓回収術	33	24	31
	栄養血管塞栓術	2	4	4
	その他	2		1
	小計	99	106	102
神経内視鏡手術	内視鏡下腫瘍摘出術			
	内視鏡下脳内血腫除去術	12	12	5
	脳室開窓術（水頭症手術）		3	5
	小計	12	15	10
	合計	272	271	316

形成外科

	2022						計	
	入院手術			外来手術				
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他		
I. 外傷	42		6			14	62	
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷で全身管理を要する非手術例								
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷の手術例	10		2				12	
顔面軟部組織損傷						3	3	
顔面骨折	10						10	
頭部・頸部・体幹の外傷							0	
上肢の外傷	16		3			10	29	
下肢の外傷	6		1			1	8	
外傷後の組織欠損（2次再建）							0	
II. 先天異常	12		1			1	14	
唇裂・口蓋裂	5						5	
頭蓋・顎・顔面の先天異常	4		1			1	6	
頸部の先天異常							0	
四肢の先天異常	3						3	
体幹（その他）の先天異常							0	
III. 腫瘍	57		11			128	196	
良性腫瘍（レーザー治療を除く）	43		5			120	168	
悪性腫瘍	14		5			8	27	
腫瘍の続発症			1				1	
腫瘍切除後の組織欠損（一次再建）							0	

腫瘍切除後の組織欠損（二次再建）							0
IV. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	2						2
V. 難治性潰瘍		3					3
褥瘍							0
その他の潰瘍		3					3
VI. 炎症・変性疾患	9	4			8		21
VII. 美容（手術）							0
VIII. その他	2	12			2		16
Extra. レーザー治療							0
良性腫瘍でのレーザー治療例							0
美容処置でのレーザー治療例							0
合 計	124	0	37	0	0	153	314

	2023						計	
	入院手術			外来手術				
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他		
I. 外傷	5					4	9	
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷で全身管理を要する非手術例								
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷の手術例	3						3	
顔面軟部組織損傷						1	1	
顔面骨折	1						1	
頭部・頸部・体幹の外傷							0	
上肢の外傷	1					2	3	
下肢の外傷						1	1	
外傷後の組織欠損（2次再建）							0	
II. 先天異常	3					1	4	
唇裂・口蓋裂							0	
頭蓋・頸・顔面の先天異常	1						1	
頸部の先天異常							0	
四肢の先天異常	1					1	2	
体幹（その他）の先天異常	1						1	
III. 腫瘍	14					105	119	
良性腫瘍（レーザー治療を除く）	13					103	116	
悪性腫瘍	1					2	3	
腫瘍の続発症							0	
腫瘍切除後の組織欠損（一次再建）							0	
腫瘍切除後の組織欠損（二次再建）							0	
IV. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	1					1	2	
V. 難治性潰瘍						3	3	
褥瘍						1	1	
その他の潰瘍						2	2	

VII. 炎症・変性疾患	2					2	4
VIII. 美容（手術）							0
VIII. その他						2	2
Extra. レーザー治療							0
良性腫瘍でのレーザー治療例							0
美容処置でのレーザー治療例							0
合 計	25	0	0	0	0	118	143

	2024						計	
	入院手術			外来手術				
	全身麻酔	腰麻・ 伝達麻酔	局所麻酔 ・その他	全身麻酔	腰麻・ 伝達麻酔	局所麻酔 ・その他		
I. 外傷						4	4	
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷で 全身管理を要する非手術例								
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷の手術例							0	
顔面軟部組織損傷						3	3	
顔面骨折							0	
頭部・頸部・体幹の外傷							0	
上肢の外傷						1	1	
下肢の外傷							0	
外傷後の組織欠損（2次再建）							0	
II. 先天異常							0	
唇裂・口蓋裂							0	
頭蓋・頸・顔面の先天異常							0	
頸部の先天異常							0	
四肢の先天異常							0	
体幹（その他）の先天異常							0	
III. 腫瘍						131	131	
良性腫瘍（レーザー治療を除く）						131	131	
悪性腫瘍							0	
腫瘍の続発症							0	
腫瘍切除後の組織欠損（一次再建）							0	
腫瘍切除後の組織欠損（二次再建）							0	
IV. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド						1	1	
V. 難治性潰瘍							0	
褥瘍							0	
他の潰瘍							0	
VI. 炎症・変性疾患							0	
VII. 美容（手術）							0	
VIII. その他							0	
Extra. レーザー治療							0	
良性腫瘍でのレーザー治療例							0	

美容処置でのレーザー治療例								0
合 計	0	0	0	0	0	136	136	

耳鼻いんこう科

	2022	2023	2024
皮膚皮下腫瘍摘出術		2	1
外耳道異物除去術	3		
先天性耳瘻管摘出術			1
鼓膜切開術	39	48	30
鼓膜チューブ挿入術	47	33	43
鼓膜形成手術	9	8	7
鼓室形成手術	6	2	1
鼻腔粘膜焼灼術	17	2	4
下甲介レーザー手術			2
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅱ型	1	4	1
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅲ型	4	9	5
鼻中隔矯正術	1	2	1
咽頭異物摘出術	2	2	
アデノイド切除術	3	2	9
口蓋扁桃手術	42	37	42
気管切開術	4	3	5
声帯ポリープ・結節切除術	5	1	
喉頭悪性腫瘍手術	1	2	1
気切口閉鎖術		1	
喉頭気管分離術	1	2	3
耳下腺腫瘍摘出術	1	3	
甲状腺部分切除術、甲状腺腫摘出術	2	7	1
甲状腺悪性腫瘍手術	1	6	2
頸部郭清術	5	3	5
頸部リンパ節摘出術	8	5	14
内視鏡下鼻中隔手術Ⅱ型（粘膜手術）	31	25	10
内視鏡下鼻腔手術Ⅰ型（下鼻甲介手術）	2	1	2
頸下腺摘出術	2	1	
頸部良性腫瘍手術	1		
扁桃周囲膿瘍切開術	1	1	1
深頸部膿瘍切開術	2	2	
内視鏡的粘膜下層剥離術	6	6	
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅳ型	9	10	2
上顎洞根治手術		1	
外耳道腫瘍手術		2	1
外耳道異物除去術	2		

喉頭腫瘍摘出術	1	1	1
舌腫瘍摘出術	1	1	
舌悪性腫瘍手術	1		
副咽頭間隙腫瘍摘出術	1	1	
内視鏡下鼻・副鼻腔手術 I 型	1		
内視鏡下鼻中隔手術 I 型（骨・軟骨手術）	4		
★鼻骨骨折整復固定術		6	7
★食道憩室切除術 1. 頸部手術による		1	
★デブリードマン（100cm ² 未満）		1	
★組織試験採取、切採法		1	
●外耳道骨増殖生（外骨腫）切除術			1
●鼻茸摘出術			1
●気管孔狭窄拡大術			3
●上皮小体摘出術			1
●鼻骨骨折徒手整復術			1
●鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性）			3
●正中頸のう胞摘出術			1
合 計	267	245	213

★ 2023 から集計開始

● 2024 から集計開始

整形外科

	2022	2023	2024
創外固定器使用加算			
複雑骨折創外固定器使用加算			
★緊急整復固定加算（骨折観血的手術）		5	5
一時的創外固定骨折治療術	14	9	12
アキレス腱断裂手術	6	6	5
アキレス腱縫合術			
ガングリオン摘出術（足）	2		1
ガングリオン摘出術（手）	1		1
★ガングリオン摘出術 2. その他		1	
デブリードマン 1.（100cm ² 未満）	1		
デブリードマン 2.（100～3000cm ² ）	1		
深部デブリードマン加算	1		3
デュプリトレント拘縮手術 1. 1 指			
デュプリトレント拘縮手術 2. 2 指から 3 指			1
デュプリトレント拘縮手術 3. 4 指以上			
化膿性・結核関節清掃術（膝）	1	2	1
化膿性・結核関節清掃術（肩）	1	1	1
化膿性・結核関節清掃術（足）		1	

観血整復固定インプラント周囲（大腿）	1	2	1
★観血整復固定インプラント周囲（前腕）		1	
観血的関節固定術（指）[刻み]	1	2	5
観血的関節固定術（手）	1	1	1
観血的関節固定術（足）	2	2	6
観血的関節授動術（指）[刻み]		1	1
観血的関節授動術（膝）			
観血的関節授動術（肘）			
非観血的関節授動術（膝）			
観血的関節制動術（肩）		1	
関節鏡下関節授動術（肘）			
関節鏡下関節授動術（膝）	1		1
関節滑膜切除術（関節鏡下）（肩）	1		1
関節滑膜切除術（関節鏡下）（膝）	5	6	4
関節鏡下関節滑膜切除術（足）	2	1	
関節鏡下関節滑膜切除術（肘）	1	2	
★関節鏡下関節滑膜切除術（股）		2	
★関節鏡下関節滑膜切除術（手）			1
関節滑膜切除術（膝）			
関節滑膜切除術（手）			
膝蓋骨滑液囊切除			
関節鏡下滑液膜摘出術（足）	1		
★関節鏡下滑液膜摘出術（膝）		1	
関節鏡検査（片側）	5	7	4
関節形成手術（手）	2	3	2
関節形成手術（膝）			
関節形成手術（指）[刻み]			4
内反足手術		1	
関節鏡下関節鼠摘出手術（足）	1		2
関節鼠摘出手術（関節鏡下）（膝）	4	1	2
関節鼠摘出手術（関節鏡下）（肘）	1	1	2
関節鼠摘出手術（肘）		1	
関節鏡下関節内骨折観血的手術（肩）			1
関節鏡下関節内骨折観血的手術（膝）	1	1	2
関節鏡下関節内骨折観血的手術（足）			
関節鏡下肩関節唇形成術			
関節鏡下肩関節唇形成術（腱断裂伴ない）	4	4	5
関節鏡下肩腱板断裂手術（簡単）	13	11	4
関節鏡下肩腱板断裂手術（複雑）		2	
肩腱板断裂手術（簡単）	1		
関節脱臼観血的整復術（肩）	1		
関節脱臼観血的整復術（肩鎖）	1	1	

関節脱臼観血的整復術（肘）			1
関節脱臼観血的整復術（股）	1		
関節脱臼観血的整復術 2.（足）			
関節脱臼観血的整復術（手）			
関節脱臼非観血的整復術 3.（手指）	1		
関節脱臼観血的整復術（指）[刻み]	1		2
関節脱臼非観血的整復術 1.（股）		1	
関節脱臼非観血的整復術（肘）			
関節脱臼非観血的整復術（足）			
関節脱臼非観血的整復術 1.（肩）			
関節内異物（挿）除去術（鏡下／膝）			
関節内異物（挿入物）除去術（肘）			
関節内異物（挿入物）除去術（膝）		1	
関節内骨折観血的手術（肩）			
関節内骨折観血的手術（指）[刻み]	2	1	
関節内骨折観血的手術（手）	1		
関節内骨折観血的手術（足）	3	1	2
関節内骨折観血的手術（膝）	2	6	1
関節内骨折観血的手術（肘）	7	4	5
関節内骨折観血的手術（股）			
肩甲関節周囲沈着石灰摘出術（関節鏡下）			
偽関節手術（下腿）		1	
偽関節手術（指）			
偽関節手術（上腕）			3
偽関節手術（大腿）		1	1
偽関節手術（前腕）			
偽関節手術（手舟状骨）	2	1	
偽関節手術（その他）	2	1	
偽関節手術（手（舟状骨除く））	1		
★偽関節手術（鎖骨）		1	
関節切開術（指）	1	2	
筋膜切離術			
筋切離術	1		
筋膜切開術			1
筋肉内異物摘出術			2
手掌異物摘出術			
血管移植術、バイパス移植術 2. 胸腔内			
股関節周囲筋腱解離術（変形股関節）	1		
股関節筋群解離術	1	1	
★股関節内転筋切離術			2
骨移植術 1. 自家骨移植	59	67	61
骨移植術 2. 同種骨移植（生体）		1	

骨移植術 2. 同種骨移植（非生体）	33	29	30
骨腫瘍切除術（手）	2		
骨腫瘍切除術（指）		1	
骨腫瘍切除術（大腿）			
骨腫瘍切除術（下腿）	4	1	
骨腫瘍切除術（足）	1		
骨腫瘍切除術（上腕）			
骨髓炎・骨結核手術（足その他）			
骨髓炎・骨結核手術（大腿）			
骨切り術（下腿）	5	3	1
骨切り術（指）			1
骨切り術（前腕）			
骨切り術（足）		1	3
骨切り術（その他）			1
脛骨近位骨切り術	8	6	14
骨折観血的手術（その他）	1	2	1
骨折観血的手術（下腿）	32	27	26
骨折観血的手術（鎖骨）	9	10	14
骨折観血的手術（指）	10	6	4
骨折観血的手術（手舟状骨を除く）	2	7	10
骨折観血的手術（手舟状骨）	2		
骨折観血的手術（上腕）	26	28	17
骨折観血的手術（前腕）	49	38	47
骨折観血的手術（足）	14	3	9
骨折観血的手術（大腿）	68	70	71
骨折観血的手術（膝蓋骨）	9	12	9
骨折観血的手術（寛骨臼）			
骨折観血的手術（肩甲骨）	1	1	
骨折経皮的鋼線刺入固定術（下腿）	1		
骨折経皮的鋼線刺入固定術（指）	15	22	23
骨折経皮的鋼線刺入固定術（手）	3	1	1
骨折経皮的鋼線刺入固定術（上腕）	9	3	
骨折経皮的鋼線刺入固定術（前腕）	7	4	5
骨折経皮的鋼線刺入固定術（足）	1	1	2
骨折観血的整復術（頸骨）			
骨折非観血的整復術 1.（大腿）			
骨折非観血的整復術 2.（下腿）			
骨折非観血的整復術 3.（鎖骨）			
骨折非観血的整復術 3.（手）			
★骨折非観血的整復術 2.（前腕）			1
骨穿孔術	1	3	1
骨搔爬術（大腿）			

骨搔爬術（下腿）	1	1	
骨搔爬術（手）	1		
骨搔爬術（足その他）		1	1
異物除去			
足底異物摘出術	1		
骨内異物（挿入物）除去術（その他）			2
骨内異物（挿入物）除去術（下腿）	39	33	17
骨内異物（挿入物）除去術（肩甲骨）			2
骨内異物（挿入物）除去術（鎖骨）	3	3	2
骨内異物（挿入物）除去術（指）	3	5	1
骨内異物（挿入物）除去術（手）	1	4	6
骨内異物（挿入物）除去術（上腕）	6	5	2
骨内異物（挿入物）除去術（前腕）	15	21	16
骨内異物（挿入物）除去術（足）	5	7	3
骨内異物（挿入物）除去術（大腿）	8	3	3
骨内異物（挿入物）除去術（膝蓋骨）	7	8	1
骨部分切除術（手）	1	1	
骨部分切除術（指）	1		
骨部分切除術（大腿）			
骨部分切除術（足）	1	3	2
骨部分切除術（下腿）	2		
骨部分切除術（その他）			1
四肢ギプスシーネ（上肢（片方））	4	1	
四肢ギプスシーネ（下肢（片方））	5		
四肢ギプスシーネ（足）（片側）	3	1	
四肢ギプス包帯（手指及び手）			
四肢ギプス包帯（半肢）（片方）	1		
四肢ギプス包帯（上肢）（片方）	1		
四肢ギプス包帯（下肢）（片方）	1	4	
四肢関節離断（股）			
★四肢関節離断（足）			1
★四肢関節離断術 指（手，足）[刻み]		1	2
四肢切断術 指（手，足）[刻み]			
四肢切断術（下腿）	3	2	5
四肢切断術（大腿）	11	3	8
四肢切断術（前腕）			
四肢切断術			
四肢切断術（足）	1		5
★四肢切断術（上腕）			1
四肢軟部腫瘍摘出 1.（大腿）	1		
四肢軟部腫瘍摘出術 1.（下腿）	1	1	1
四肢軟部腫瘍摘出術 1.（肩）		1	2

四肢軟部腫瘍摘出術 1. (前腕)			
四肢軟部腫瘍摘出術 2. (手)	1		
四肢軟部腫瘍摘出術 2. (足)		2	1
★四肢軟部腫瘍摘出術 1. (上腕)			1
★四肢軟部腫瘍摘出術 1. (軀幹)		1	1
指伸筋腱脱臼観血的整復術			1
★母指対立再建手術			1
手根管開放手術	28	20	14
手根管開放手術 (関節鏡下)	3	6	6
神経移行術	1	3	8
神経剥離術 (その他)	7	4	8
★神経縫合術 1. 指 (手, 足)			3
神経縫合術 2. その他のもの		1	
人工関節再置換 (股)			3
人工関節再置換 (膝)		3	3
人工関節置換術 (股)	28	40	49
人工関節置換術 (膝)	69	82	74
人工関節置換術 (肩)	2	2	2
人工関節置換術 (足)			
人工関節抜去術 (股)	1	1	1
人工骨頭挿入術 (股)	26	34	22
人工骨頭挿入術 (肘)			1
人工骨頭挿入術 (肩)	1		
靭帯断裂形成 (関節鏡) (十字靭帯)	18	25	26
靭帯断裂形成 (関節鏡) (膝側副靭帯)			
靭帯断裂形成手術 (関節鏡下) (内側膝)	1		1
靭帯断裂形成手術 (膝側副靭帯)	1		
靭帯断裂形成手術 (その他の靭帯)	4	2	2
靭帯断裂形成手術 (十字靭帯)	1		
靭帯断裂縫合術 1. 十字靭帯			
靭帯断裂縫合術 2. 膝側副靭帯			
靭帯断裂縫合術 3. 指 (手, 足)		3	6
靭帯断裂縫合術 (その他靭帯)			
靭帯断裂縫合術 (関節鏡下) (十字靭帯)			
靭帯断裂縫合術 (関節鏡下) (その他)			
靭帯修復術			
髓液漏閉鎖術			
脊髄硬膜切開術			
脊髄腫瘍摘出術 1. 髓外のもの			
★脊椎悪性腫瘍手術		1	
★脊椎脱臼非観血的整復術			1
★骨盤骨折非観血的整復術			

脊椎・骨盤脱臼観血的手術			
脊椎・骨盤内異物（挿入用）	9	7	13
骨盤骨折観血的手術（腸骨翼骨折を除く）	3	4	5
脊椎固定術（後方椎体固定）	40	60	51
脊椎固定術（後方又は後側方固定）	3	4	9
脊椎固定術（前方椎体固定）	1		
脊椎固定術、椎弓切除・形成術（形成）	3	1	1
脊椎固定術、椎弓切除・形成術（切除）	35	35	31
多椎間多椎弓加算（椎弓形成）	22	24	27
多椎間多椎弓加算（後方後側方固定）	48	27	40
多椎間多椎弓加算（椎弓切除）	56	64	62
多椎間多椎弓加算（前方椎体固定）			
多椎間多椎弓加算（後方椎体固定）	2	5	6
頸椎の非観血的整復術（全麻、牽引）	2	3	1
黄色靭帯骨化症手術	1		
経皮的椎体形成術		1	
寛骨臼骨折観血的手術	1	1	
仙腸関節脱臼観血的手術	3		
腸骨翼骨折観血的手術			2
椎間板摘出術 2. 後方摘出術	31	28	18
椎間板摘出術 3. 側方摘出術			
体外式脊椎固定術	2	1	
先天性股関節脱臼ギプス包帯			
先天性股関節脱臼観血的整復術			
全層・分層植皮術 1. (25cm未満)			1
創傷処理 1. 筋肉達する (5cm未満)	5	7	6
創傷処理 3. 筋肉達する (10cm以上)	4	5	
創傷処理. 筋肉達する (20cm～頭頸部)			
★創傷処理 2 (筋肉達する・5cm未満, 深)		4	
創傷処理 2 (5～10cm, 深)	5		6
創傷処理 3 (10cm以上, 深)			11
創傷処理 4 (5cm未満, 浅)	2	3	1
創傷処理 5 (5～10cm, 浅)	3	4	
創傷処理 6 (10cm以上, 浅)	1		1
創傷処置 (100平方cm未満)	2		
第一足指外反症矯正手術	3	6	11
断端形成術（要骨形成）（手指）			
断端形成術（骨形成）（手指）		1	2
断端形成術（骨形成）（足指）			
断端形成術（要骨形成）（その他）			
断端形成術（軟部形成）（足指）[刻み]			
半月板切除術（関節鏡下）	29	23	12

半月板縫合術				1
半月板縫合術（関節鏡下）	32	32	36	
皮膚切開術 1. 長径 10cm 未満	3	1	1	
皮膚皮下腫瘍摘出露出外 3-6cm 未満	1			1
皮膚皮下腫瘍摘出露出外 3cm 未満				
皮膚皮下腫瘍摘出露出外 12cm 以上	1			1
皮膚皮下腫瘍摘出露出部 2-4cm 未満	2		2	
皮膚皮下腫瘍摘出露出部 2cm 未満		1		
皮膚皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径 4cm 以上）		1		
変形治癒骨折矯正手術（前腕）		1	1	
変形治癒骨折矯正手術（指）	1		3	
★変形治癒骨折矯正手術（足）			1	
指伸筋腱脱臼観血的整復術	1			
腱移行術 1. 指（手、足）	3	4		
★腱移植術 1. 指（手、足）		2	1	
腱移行術 2. その他のもの				
腱移植術 2. その他のもの				1
腱延長術	1	1		
腱剥離術（関節鏡下含む）	1			
腱鞘切開術	1			
腱鞘切開術（関節鏡下含む）	14	17	18	
腓骨筋腱鞘形成術	3			
腱滑膜切除術	1	1		
腱切離術・腱切除術（関節鏡下による）		2	3	
腱縫合術	5	5	7	
腱縫合術（指）	1			
★手掌屈筋腱縫合術		1		
組織試験採取切採（筋肉）				
組織試験採取切採（骨）				
動脈塞栓除去術 2. その他（観血的）	1			
画像等手術支援加算（ナビゲーション）	23	135	127	
★脊髄誘発電位測定等加算（モニタリング）		15	109	
合 計	1,207	1,325	1,400	

2023 年より★の術式が増えました

心臓血管外科

		2022	2023	2024
1) 心・脈管	心膜縫合術			
	心筋縫合止血術（外傷性）			
	心膜囊胞、心膜腫瘍切除術			

収縮性心膜炎手術		1	
試験開心術	4	2	7
心腫瘍、心腔内粘液腫摘出術	1		5
冠動脈大動脈バイパス移植術	36	26	17
冠大動脈バイパス人工心肺不使用	22	14	23
左室形成術・心室中隔穿孔閉鎖術・左室自由壁修復術		2	
弁形成術	18	13	21
弁置換術	29	38	25
大動脈弁下狭窄切除術		2	
大動脈瘤切除術(吻合又は移植を含む)	35	22	28
ステントグラフト内挿術	37	32	45
動脈管開存症手術			
心房中隔欠損閉鎖術	1	1	
心室中隔欠損閉鎖術			
冠動静脈瘻開胸的遮断術			1
肺動脈塞栓除去手術			
不整脈手術（メイズ）	12	9	13
ペースメーカー移植術			2
心・脈管その他	1	3	
2) 動脈・静脈・リンパ			
上腕動脈表在化法			
内シャント血栓除去術	15	11	8
動脈血栓内膜摘出術	4	9	9
動脈形成術、吻合術	5	5	12
内・外シャント設置術	68	58	71
四肢の血管吻合術	2	2	
血管移植術、バイパス移植術	15	25	18
四肢の血管拡張術、血栓除去術	61	63	68
下肢静脈瘤手術	29	20	28
動脈・静脈・リンパ その他	21	24	19
合 計	416	382	420

呼吸器・乳腺・内分泌外科

		2022	2023	2024
0) 皮膚、皮下、その他				
1) 甲状腺、上皮小体、頸部	甲状腺部切除、甲状腺腫摘出	5	6	13
	甲状腺悪性腫瘍手術	9	17	15
	上皮小体腺腫過形成手術	6	1	3
	バセドウ甲状腺全摘術	1	1	1
	甲状腺、上皮小体、頸部その他			1
2) 乳腺	乳腺腫瘍摘出術	4	4	1

	乳房切除術			
	乳腺悪性腫瘍手術	56	59	64
	乳腺その他		2	
3) 胸壁、胸腔、胸膜、縦隔、気胸、肺、横隔膜、手掌多汗症	胸壁膿瘍切開術			
	胸骨切除、胸骨骨折観血手術			
	胸壁悪性腫瘍摘出術			
	胸壁腫瘍摘出術			
	漏斗胸手術			
	試験開胸術		1	2
	胸郭形成手術（膿胸手術）		3	3
	釀膿胸膜肺切除術（膿胸手術）		1	1
	胸腔鏡下釀膿胸膜・胸膜肺切除術（膿胸手術）		4	8
	縦隔腫瘍、胸腺摘出術	1		1
	縦隔悪性腫瘍手術	9		1
	肺切除術			1
	胸腔鏡下肺切除術	21	18	17
	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術	3		4
	胸腔鏡下悪性縦隔腫瘍手術		5	4
	胸腔鏡下良性胸壁腫瘍手術		1	
	胸腔鏡下肺縫縮術	8	3	4
	肺悪性腫瘍手術	12	24	9
	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術	84	93	114
	肺縫縮術			1
	気管支形成手術			2
	胸部交感神経節切除術	4	3	3
	胸壁、胸腔、胸膜、縦隔、気胸、肺、横隔膜、その他	13	4	5
4) 動脈・静脈・リンパ	リンパ節摘出術	19	7	5
	合 計	255	257	283

泌尿器科

		2022	2023	2024
腹腔鏡下副腎摘除術		3	4	3
腹腔鏡下根治的腎摘除術		8	45	13
根治的腎摘除術（開放手術）		1		1
ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術		5	11	9
腹腔鏡下腎部分切除術		1		
腎部分切除術（開放手術）		1		
腹腔鏡下腎尿管全摘除術		8	7	5
腎尿管全摘除術（開放手術）				1

膀胱全摘除術（開放手術）	9	5	8
腹腔鏡下膀胱全摘除術			
経尿道的膀胱腫瘍切除術	76	73	91
腹腔鏡下尿膜管摘出術	2		
ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術	20	19	25
根治的前立腺全摘除術	1	1	
陰茎部分切除術		1	
高位精巣摘除術	6	5	2
経皮的尿路結石除去術	3	1	
経尿道的尿路結石碎石術（レーザー）	44	41	31
経尿道的膀胱結石碎石術	13	15	13
経尿道的前立腺レーザー核出術	31	19	24
経尿道的前立腺切除術	4	1	2
経尿道的前立腺水蒸気治療		3	9
経皮的腎瘻造設術	6	4	9
経尿道的尿管ステント留置術	55	46	48
膀胱瘻造設術	5	4	3
尿失禁手術（ボツリヌス毒素）	4	6	5
尿失禁手術（TOT手術）	2	3	2
精巣捻転手術	5	4	4
合 計	313	318	308

産婦人科

手術統計

	2022	2023	2024
開腹手術	91	88	102
子宮附属器悪性腫瘍（卵巣癌）手術	18	19	22
広汎子宮全摘術	2	1	
準広汎（拡大）子宮全摘術	20	19	24
単純子宮全摘術	33	29	26
子宮筋腫核出術	1	4	3
附属器手術	15	11	25
その他	2	5	2
腹腔鏡下	106	142	122
子宮全摘術	37	51	29
筋腫核出術	5	10	6
附属器手術（異所性妊娠手術を含む）	64	75	81
その他		6	6
ロボット支援下			24
子宮全摘術		8	24
縫式・その他	141	173	175

子宮脱手術	8	8	2
円錐切除術	35	62	57
子宮鏡下手術・検査	70	69	83
その他 非開腹手術	28	34	33

生殖医療統計

	2022	2023	2024
不妊症例	141	167	114
妊娠数	51	66	60
流産数	8	18	13
ART 治療周期総数	296	379	430
AIH (人工授精)	87	57	58
IVF (体外受精)	14	11	8
ICSI (顕微授精)	112	178	239
F/T (凍結融解胚)	83	133	125
採卵周期総数	126	189	247
IVF	14	11	8
ICSI	112	178	239
移植周期総数	94	133	130
IVF	2		
ICSI	9		5
F/T	83	133	125
全胚凍結周期	72	103	96
余剰胚凍結周期			
ART 妊娠総数	42	51	47
AIH	6	2	1
IVF			
ICSI	2		
F/T	34	49	46
ART 流産総数	7	16	12
AIH	1		
IVF			
ICSI			
F/T	6	16	12

眼 科

	2022	2023	2024
眼瞼内反症手術			
翼状片手術	2	7	7
眼球摘出術			
角膜縫合術			

光学的虹彩切除術	2	2	
緑内障手術	4	3	6
網膜復位術	3	4	
硝子体切除術	1	7	2
硝子体茎顎微鏡下離断術	93	79	64
白内障手術	279	293	267
眼内レンズ挿入術	274	288	266
増殖性硝子体網膜症手術			
硝子体注入術	372	525	473
その他	5	8	5
合 計	1,035	1,216	1,090

放射線科

①放射線治療

		2022	2023	2024
(1)原発	脳・脊髄		5	11
	頭頸部（甲状腺を含む）	5	8	9
	食道	11	15	10
	肺・気管・縦隔	23	28	22
	定位（体幹部（肺））	4	11	15
	うち肺	26	34	33
	乳腺	14	19	17
	肝・胆・脾	3	5	6
	胃・小腸・結腸・直腸	7	8	9
	婦人科	13	7	1
	泌尿器系	22	20	28
	うち前立腺	20	20	28
	造血器リンパ系	22	13	11
	皮膚・骨・軟部	3	9	9
	その他（悪性）	1		1
	良性	1		
(2)転移	脳転移	9	7	16
	定位（脳）	2	15	4
	骨転移	61	55	59
	その他	5	13	17
(3)高精度放射線治療	定位放射線治療（頭部（脳））	2	15	5
	定位放射線治療（体幹部（肺））	4	11	15
	定位放射線治療（体幹部（その他））		1	2
	IMRT	45	80	96
(4)特殊治療	ストロンチウム内用療法			
	ゼヴアリン内用療法			

全身照射	4	6	4
放射性ヨウ素内用療法（アブレーション治療）	5	3	3
ラジウム治療	1		
ルタテラ治療	1	1	2
放射線治療合計		216	249
			253

② IVR & 血管造影

血管造影（診断のみ）		2022	2023	2024
(1)肝		1	1	1
(2)その他動脈		12	6	7
(3)その他静脈		3	5	3
(4)ドレーン造影		10	20	16
血管造影合計		26	32	27
IVR		2022	2023	2024
(1)vascular	動注療法	18	10	8
	動脈塞栓術	9		4
	内腸骨動脈		2	
	血管奇形	5	1	8
	出血	47	34	38
	血流改変	12	11	22
	エンドリーカ	6	2	6
	☆血管内ステント留置術	動脈（出血）		2
		動脈（血管形成術）		1
		大静脈		1
	TACE	27	13	27
	リザーバ留置術	1		
	PSE（部分的脾動脈塞栓術）			6
	肝内門脈枝塞栓術（PTPE）			
(2)non-vascular	バルーン閉塞性逆行性静脈瘤塞栓術（BRTO）	2	1	3
	静脈瘤塞栓術		1	
	血栓溶解療法		1	2
	下大静脈フィルター留置術	2	1	
	血管内異物除去術		1	
	中心静脈ポート埋め込み術（四肢）	34	64	101
	中心静脈ポート埋め込み術（頭頸部その他）		1	
	PICC	9	18	33
	リンパ管造影	2	2	1
	静脈サンプリング	1	3	1
その他		3	1	4
ステント留置術	胆道	1	1	
	気道		1	
経皮経胆道ドレナージ（PTBD）		10	5	10

	経皮経管胆嚢ドレナージ (PTGBD)	8	6	6
	経皮的胆道内瘻術	2	2	
(3) CT(US) ガイド	CT ガイド下肺生検	54	65	61
	CT ガイド下生検（その他）	29	26	28
	CT ガイド下マーキング	2	1	2
	CT ガイド下ドレナージ	44	43	45
	CT ガイド下治療（その他）	1		1
	US ガイド下ドレナージ	17	15	17
	IVR 合計	343	337	433
	血管造影 & IVR 合計	369	369	460

☆ 2023 年より分類

③画像診断

		2022	2023	2024
画像診断	CT	22,621	22,691	23,830
	MRI	6,257	6,216	6,591
	RI	1,381	1,421	1,448
画像診断件数合計		30,259	30,328	31,869

麻酔科

		2022	2023	2024
麻酔科管理手術	症例数	2,962	2,951	2,955
	緊急手術	362	323	338
	全身麻酔	2,762	2,818	2,831
	術後硬膜外鎮痛症例	437	452	367
術前状態分類 (ASA)	1	501	516	508
	2	1,527	1,535	1,531
	3	544	539	548
	4	24	38	30
	5	12		
特殊な麻酔	心臓大血管麻酔	167	201	191
	分離肺換気	152	167	183
	開胸・開腹	14	17	21
	帝王切開	203	148	147
	新生児麻酔	2	2	2
	小児麻酔	89	99	82
	85 歳以上	216	228	215

救急集中治療科

		2022	2023	2024
時間内 (8:30-17:00)	受診者数	3,313	3,300	3,281
	救命センター入院	318	345	370
	一般病棟入院	736	815	910
	帰宅	2,259	2,140	2,001
	CPAOA	52	49	30
	交通事故	94	118	107
	紹介	898	1,009	1,037
	救急車搬送数	1,372	1,328	1,364
	ヘリコプター搬送	168	133	105
時間外 (17:00-8:30, 休日)	受診者数	12,055	12,099	12,473
	救命センター入院	591	579	567
	一般病棟入院	1,608	1,729	1,812
	帰宅	9,856	9,791	10,094
	CPAOA	109	116	96
	交通事故	246	256	243
	紹介	1,014	1,035	1,211
	救急車搬送数	2,851	2,642	2,680
	ヘリコプター搬送	122	87	62
計	受診者数	15,368	15,399	15,754
	救命センター入院	909	924	937
	一般病棟入院	2,344	2,544	2,722
	帰宅	12,115	11,931	12,095
	CPAOA	161	165	126
	交通事故	340	374	350
	紹介	1,912	2,044	2,248
	救急車搬送数	4,223	3,970	4,044
	ヘリコプター搬送	290	220	167

歯科・口腔外科

入院手術	2022	2023	2024
外来全身麻酔	8	7	12
歯根端切除術	2		2
歯根嚢胞摘出術	5	6	4
顎骨内異物除去術			6
リンパ節摘出術	1		
頬粘膜腫瘍摘出術			
口底腫瘍切除術		1	
上顎洞根治手術			

術後性上顎囊胞摘出術			
埋伏歯抜歯術	45	61	90
抜歯術（乳歯、前歯、臼歯）	18	22	18
難抜歯加算			
埋伏歯下顎完全・水平加算			
口唇腫瘍切除術			
口蓋腫瘍切除術	2	1	4
舌腫瘍切除術		4	
頬粘膜腫瘍摘出術		5	
頬・口唇・舌小帯形成術	1	3	3
下顎骨折観血的手術	6	3	2
下顎骨非観血的整復固定術	1	1	1
上顎骨観血的整復固定術			
顎関節脱臼非観血的整復術	1	1	
歯槽骨骨折観血的整復術			
除去・骨体固定金属板除去	4	4	
唾石摘出術（深在性のもの＋腺体内）	1	6	2
顎骨腫瘍摘出術	45	57	49
口腔内消炎術	4	1	2
上顎洞口腔瘻閉鎖術			
顎堤形成術	3	3	4
歯肉、歯槽部腫瘍手術		1	
萌出困難歯開窓術		3	4
耳下腺腫瘍摘出術 1. 耳下腺浅葉			
舌繫瘢痕性短縮矯正術			
骨移植術 1. 自家骨移植			
顎・口蓋裂形成手術（片側・顎裂）			
頬骨骨折観血的整復術			
下顎関節突起骨折観血的手術 1. 片側		1	
顎関節形成術	1		
顎関節授動術（徒手的（パンピング併用））			
顎関節授動術（徒手的（関節腔洗浄療法を併用））	2		1
顎関節脱臼観血的手術			
顔面多発骨折観血的手術		3	1
創傷処理	1	1	
浮動歯肉切除術 3（全顎）			
歯肉、歯槽部腫瘍手術 軟組織	3		1
歯肉、歯槽部腫瘍手術 硬組織			
がま腫摘出術			
顎骨のう胞開窓術		2	1
腐骨除去手術	1	3	2
口腔外消炎手術			3

下顎骨形成術 2 短縮または伸長の場合	5	4	7
下顎骨形成術 3 再建の場合		3	
下顎骨形成術 4 骨移動を伴う場合			
上顎骨形成術			1
扁桃周囲膿瘍切開術			
皮弁作成術			
動脈（皮）弁術			
皮弁離断術			
分層植皮術 2. (25 ~ 100 cm ²)			
粘膜移植術			
頬腫瘍摘出術			
顎関節開放受動術			
顎下腺腫瘍摘出術			
歯牙再植術			
歯の移植手術			2
骨移植術 1. 自家骨移植			
広範囲顎骨支持埋入術			
下顎隆起形成術		2	1
口蓋隆起形成術			1
口腔前庭拡張術			
歯槽骨整形手術・骨瘤除去術			
歯科インプラント摘出術（人工歯根）	1	1	1
上顎結節形成術（簡単なもの）			
外歯瘻手術	1	1	1
鼻前庭囊胞摘出術	1		
その他		1	1
小計	163	212	227
(悪性腫瘍)			
舌悪性腫瘍手術 1. 切除	9	5	6
舌悪性腫瘍手術 亜全摘			1
下顎骨悪性腫瘍手術 1. 切除		6	1
下顎骨悪性腫瘍手術 2. 切断			
上顎骨悪性腫瘍手術 2. 切除	2		3
頸部郭清術	5	4	5
口蓋悪性腫瘍切除術		1	1
口底悪性腫瘍切除術	2	1	2
口腔、顎、顔面悪性腫瘍切除術			
頬粘膜悪性腫瘍切除術	1	2	
口唇悪性腫瘍切除術	2	1	1
顎下腺悪性腫瘍手術	2		
皮弁形成術	1	2	2
リンパ節群郭清術（頸部深在性）		2	2

リンパ節摘出術		2	
小計	24	26	24
合計	187	238	251

外来手術	2022	2023	2024
がま腫摘出術			
がま腫切開術			2
ヘミセクション	2	1	3
外歯瘻手術			1
下顎隆起形成術	1		3
下顎骨折観血的手術	1	1	
下顎骨折非観血的整復術	1		1
下顎関節突起骨折観血的手術			1
上顎骨折観血的手術			1
顎関節授動術（徒手的）	11	7	2
顎関節授動術（パンピングを併用した場合）	9	11	5
顎関節授動術（関節腔洗浄併用した場合）		1	
顎関節脱臼非観血的整復術	8	9	8
顎骨腫瘍摘出術	6	4	5
顎骨内異物（挿入物を含む）除去術 (簡単なもの（手術範囲が全顎にわたる場合))	1	1	
顎骨囊胞開窓術	10	9	9
口蓋腫瘍摘出術1（口蓋粘膜限局）	6	4	4
口蓋隆起形成術			
口腔外消炎手術（2～5cm未満）		1	
口腔外消炎手術（2cm未満）		2	
口腔外消炎手術（骨膜膿瘍、皮下膿瘍、蜂窩織炎等）（2cm未満）			
口腔外消炎手術（顎炎または顎骨骨髓炎）			2
口腔底腫瘍摘出術			1
口腔内消炎手術（智歯周囲炎の歯肉）	1		
口腔内消炎術（歯肉膿傷等）	1	4	
口腔内消炎術（骨膜膿瘍、口蓋膿瘍）	33	21	22
口腔内消炎術（顎炎等1/3顎以上）	2	2	
口腔内消炎術（顎炎等1/3顎未満）	6	2	3
口腔内軟組織異物除去術（深在性）			
口腔内軟組織異物除去術（浅在性）	4	1	7
口唇腫瘍摘出術1. 粘液囊胞摘出術	10	6	10
口唇腫瘍摘出術2. その他のもの	2	6	2
広範囲顎骨支持埋入術（1回）	5	6	2
広範囲顎骨支持埋入術（2回1次）			
広範囲顎骨支持埋入術（2回2次）			
後出血処置	3	2	1

歯の移植手術	5	7	17
歯科インプラント摘出術（人工歯根）	3	2	3
歯牙再植術	13	2	4
歯根のう胞摘出手術（歯冠大）	23	23	23
歯根のう胞摘出手術（拇指頭大）	7	7	7
歯根端切除術 1	11	13	8
歯性扁桃周囲膿瘍切開手術			
歯槽骨骨折非観血的整復術（3歯以上）	1		1
歯槽骨骨折観血的整復術	2		2
歯槽骨整形手術、骨瘤除去手術	6	8	6
歯肉、歯槽部腫瘍手術 1 軟組織	7	11	5
歯肉、歯槽部腫瘍手術 2 硬組織	1	2	
小児創傷処理（6歳未満） (筋肉、臓器に達しないもの（長径 2. 5cm 未満))			
小児創傷処理 1 (2. 5cm 未満、深)	2	1	
小児創傷処理 2 (2. 5 ~ 5cm、深)			
上顎洞陷入歯牙の抜去（犬歯窩開さくにより行う場合）	1		
上顎洞口腔瘻閉鎖術（簡単なもの）	1		
上顎洞口腔瘻閉鎖術 2（困難）	1	2	
舌腫瘍摘出術 1（粘液のう胞）	1	3	1
舌腫瘍摘出術 2（その他）	4	8	11
頬・口唇・舌小帯形成術	3	7	4
創傷処理（デブリードマン加算）			1
創傷処理 (筋肉、臓器に達しないもの（長径 5cm 以上 10cm 未満))		1	
創傷処理 (筋肉、臓器に達しないもの（長径 5cm 未満))	8	6	6
創傷処理 (筋肉、臓器に達するもの（長径 10cm 以上))			2
創傷処理 (筋肉、臓器に達するもの（長径 5cm 未満))	3	2	1
創傷処理 (筋肉、臓器に達するもの（直径 5cm 以上 10cm 未満))	2	1	3
真皮縫合加算（創傷処理）			1
唾石摘出術（表在性）	2	3	1
唾石摘出術（深在性）			1
唾液腺膿瘍切開術			
乳歯抜歯	13	10	11
前歯抜歯	122	109	87
臼歯抜歯	356	384	427
難抜歯加算	120	148	162
埋伏歯抜歯	440	484	519
抜歯術 5. 埋伏歯下顎完全・水平加算	380	417	458

抜歯窩再搔爬手術	2	1	2
腐骨除去手術（顎骨 1／3 以上）			
腐骨除去手術（顎骨 1／3 未満）	1	2	3
腐骨除去手術（歯槽骨に限局）	16	9	7
萌出困難歯開窓術	4	3	6
頬腫瘍摘出術（その他の物）			
頬腫瘍摘出術（粘液のう胞）			2
頬粘膜腫瘍摘出術	8	5	5
顎堤形成術	1	1	
口唇悪性腫瘍手術	2		1
歯周外科手術		1	
合 計	1,695	1,784	1,893

病理診断科

院内死亡数及び剖検率の推移

	2022	2023	2024
解剖数	10 (院内5/院外1)	6	5
死亡患者数	603	598	573
入院患者死亡数	431	447	438
外来死亡患者数	172	151	135
剖検率	1.65	0.83	0.87
死亡退院 剖検率	2.32	1.12	1.14
外来死亡 剖検率	0	0	0

※ 2023 年の剖検率は院内症例数で計算

【言葉の定義】

解剖数：当院で実施した病理解剖数

死亡患者数：死亡退院患者数および外来死亡患者数の合計

入院患者死亡数：死亡退院された患者数

外来死亡患者数：救命救急入院料を算定した外来死亡患者数
(CPA 患者の死亡患者数)

剖検率：解剖数 / 死亡患者数 × 100 (%)

死亡退院 剖検率：死亡退院の解剖数 / 入院患者死亡数 × 100 (%)

外来死亡 剖検率：外来死亡の解剖数 / 外来死亡患者数 × 100 (%)

2024 年診療科別剖検数

診療科	救急集中治療科	血液内科	呼吸器・乳腺・内分泌外科	産婦人科	脳神経内科	合 計
剖検数	1	1	1	1	1	5

救命救急センター

疾患別

	2022	2023	2024
重篤な脱水（消化管出血など）	14	24	35
脳血管障害	202	197	324
意識障害・痙攣など	58	37	27
呼吸不全	73	101	153
急性冠症候群 ACS	95	90	95
不整脈	21	15	17
心不全（心原性ショック含む）	83	81	92
急性中毒	21	12	19
ショック	94	114	103
代謝障害（腎不全含む）	38	46	36
重症熱傷	5	4	2
多発外傷	15	19	9
その他の外傷	143	151	161
重症感染症（敗血症など）	62	71	30
緊急治療を要する疾患	178	187	222
大動脈疾患	15	12	2
院外心肺停止	161	165	126
合 計	1,278	1,326	1,453

（入室患者数のすべてではない）

処置別

	2022	2023	2024
脳血管外科手術	81	75	82
心臓血管外科手術	4	1	1
胸部外科手術	22	14	8
腹部外科手術	65	47	39
その他の手術	55	60	61
P C I	72	81	93
アブレーション	0	2	1
人工呼吸管理	259	255	286
血液浄化療法	33	33	39
循環補助	18	27	25
低体温療法	6	3	4
TAE 等その他の治療	23	16	20
合 計	638	614	659

疾患分類の基準

脳血管障害；外傷以外の脳出血，脳梗塞，くも膜下出血，もやもや病，虚血性心疾患；心筋梗塞，狭心症。

心不全その他；心膜炎，弁膜症，心タンポナーデ，先天性心疾患を含む。急性腹症；イレウス，虫垂炎，原因の明らかでない腹痛。

消化管出血；吐血，下血，頭部外傷；頭蓋内血腫，脳震盪，脳挫傷，頭部打撲も含む。不整脈など；心房細動，発作性頻拍等，脈に関するものをさす。

感染症；細菌，ウイルス感染，大血管障害；解離性大動脈瘤，大動脈瘤破裂（腹部，胸部），緊急手術を要する心筋梗塞。

内分泌；代謝，免疫，低血糖，高血糖，CPAOA；呼吸停止も含む。喘息；薬剤投与のみ。急性呼吸不全；喘息重積発作，間質性肺炎等呼吸器装着を要する状態をさす。

呼吸不全急性増悪；慢性呼吸不全状態の悪化，腹部外傷；腹部打撲も含む。胸部外傷；胸部打撲も含む。

術後監視；予定手術の入室，予定のPTCA後入室。

その他；CAPDの腹膜炎，一般的腹膜炎，急性アルコール中毒，下肢急性動脈閉塞，アナフィラキシーショック，悪性症候群，マムシ咬傷，意識不明瞭な溺水等。

処置別分類の基準

PTCA；緊急PTCA，PTCRをさす。開心術；胸部の解離性大動脈瘤，CABG，穿頭術；穿頭ドレナージ。

血管造影；心カテ，脳angiオ等検査のみで治療できなかったもの。呼吸器装着；心不全，呼吸不全等で呼吸器装着の必要となったもの。

蘇生；CPAOA，呼吸停止，脳挫傷，脳出血等，意識レベルIII—200～300で救命のために手術，呼吸器装着に至ったもの。

または，救命のために何らかの処置を行うが数日後に死に至ったもの。

その他；急性アルコール中毒，薬物中毒，高血糖，低血糖などセンターに入室を要する疾患であるが，点滴，モニター監視で様子観察したもの。

および，心嚢ドレナージ，血栓除去，虫垂切除，一時ページング等。

救命救急入院料

	2022		2023		2024	
	延日数	人数	延日数	人数	延日数	人数
1月	210	99	169	83	261	102
2月	160	91	161	71	212	77
3月	144	71	206	75	183	79
4月	130	83	197	83	180	80
5月	132	80	185	86	243	100
6月	109	66	192	89	196	84
7月	164	94	214	88	244	92
8月	110	59	247	115	201	85
9月	137	58	174	81	175	77
10月	160	66	195	95	209	88
11月	119	63	230	93	212	91
12月	154	68	202	87	268	114
年間	1,729	898	2,372	1,046	2,584	1,069
月平均	144.1	74.8	197.7	87.2	215.3	89.1

月別患者数

月	総 数	救急外来より	一般外来より
1	103	100	3
2	78	78	
3	83	82	1
4	83	82	1
5	103	98	5
6	86	86	

7	100	97	3
8	88	86	2
9	79	75	4
10	91	89	2
11	95	90	5
12	117	115	2
合 計	1,106	1,078	28

診療科別患者数

診 療 科	総 数	救急外来より	一般外来より
総合内科	17	17	
消化器内科	25	25	
呼吸器内科	30	28	2
血液内科	4	4	
糖尿病・内分泌・代謝内科	5	5	
腫瘍内科			
心臓内科	196	180	16
脳神経内科	48	47	1
精神科			
小児科	72	72	
放射線科	1	1	
外科（小児外科を含む）	38	36	2
心臓血管外科／呼吸器・乳腺・内分泌外科	15	15	
脳神経外科	208	203	5
整形外科	15	15	
泌尿器科			
耳鼻咽喉科	2	2	
形成外科			
皮膚科	1	1	
眼科			
産婦人科	8	8	
歯科口腔外科	1	1	
麻酔科			
腎臓内科	5	5	
リウマチ・膠原病内科	6	6	
救急集中治療科	409	407	2
合 計	1,106	1,078	28

周産期母子センター

産科部門

		2022	2023	2024
分娩件数	399	326	311	
	单胎	366	316	297
	双胎（内品胎）	33	10	14
分娩児数	432	336	325	
	生産児数	426	335	321
	死産児数	6	1	4
(22週以上) 早産児数		80	35	52
産科手術	選択帝王切開	140	95	89
	緊急帝王切開	70	53	58
	産後または妊娠子宮全摘術		1	
	帝切率	52.6	45.4	47.3
	骨盤位娩出術			
	吸引娩出術	29	26	18
	鉗子娩出術			1
	頸管縫縮術	7	4	7
	羊水穿刺術	3	2	2
中期流産（12～21週）		3	8	9
流産手術		13	16	14
緊急母体搬送	受入	99	86	73
	搬出	8	5	4
臨床遺伝外来	出生前遺伝カウンセリング（症例数）	56	58	68
	NIPT（新型出生前検査）検査数	44	47	58
	クアトロ検査数		3	5

新生児集中治療室（NICU）

		2022	2023	2024
入院	入院数	350	288	292
	院内出生	284	215	211
	院外出生	66	73	81
	転院入院	8	7	9
	超低出生体重児（1000g未満）	5	5	6
	極低出生体重児（1500g未満）	12	8	8
	多胎児	65	21	32
	分娩立会	271	190	197
	迎え搬送	8	7	
治療	人工換気	35	29	31
	経鼻陽圧呼吸	70	61	60
	一酸化窒素吸入治療	1	1	2

	手術	2	1	2
	網膜光凝固	2		3
転帰	転院	5	1	1
	死亡		2	
	剖検			
	AI			

血液浄化室

術式別延患者数

		2022		2023		2024	
		人数	件数	人数	件数	人数	件数
血液透析		171		157	1,375	218	1,749
LDL 吸着						1	3
自己血採血			4				
顆粒球除去療法				3	30	1	5
血漿交換						1	9
ECUM		1	12	7	46	2	3

新規透析導入患者

	2022	2023	2024
血液透析	42	36	41

合併症を有する血液透析

	2022	2023	2024
心カテ、PCI 後	9	10	9
弁置換 + CABG	3	1	
CABG 術後	5	2	4
弁置換	2	4	
整形手術	11	8	5
外科手術	3	2	9
眼科手術	4	1	5
脳神経外科手術	2		1
ペースメーカー植え込み	2	4	1
泌尿器手術	3	3	8
シャントトラブル	2	4	4
ESD (内科的手術)			1
AAA		2	
アブレーション	1	6	4
肺炎	5	6	6
ASO バイパス	3	1	1
心不全	5	1	5

感染症		2	15
溢水	2	2	4
高 K	1		
消化管出血	1	5	6
脳梗塞	6	3	7
脳出血		4	1
敗血症	1	3	3
血管疾患		2	5
尿毒症（導入）	42	36	44
消化器内科		5	5
COVID	11	8	2
その他		32	63

血漿交換症例数

	2022	2023	2024
急性肝不全			
血栓性血小板減少症			
血管炎性肉芽腫			
視神経脊髄炎			
重症筋無力症			
その他			1

薬剤部

処方箋枚数

	2022	2023	2024
院外（外来）	89,828	90,314	91,972
院内（外来）	9,709	9,694	9,427
入院	87,695	87,499	90,515

麻薬使用量

	2022	2023	2024
フェンタニル注 0.1mg2ml (アンプル)	8,942	9,147	9,309
フェンタニル注 0.5mg10ml (アンプル)	3,850	3,783	3,743
レミフェンタニル静注用 2mg (バイアル)	2,369	2,455	2,480
レミフェンタニル静注用 5mg (バイアル)	149	140	148
ケタラール静注用 50mg (アンプル)	894	357	470
ケタラール筋注用 500mg (バイアル)	22	1	4
アンペック坐剤 10mg (個)	81	183	
塩酸モルヒネ注射液 1% 1ml (アンプル)	678	625	782
塩酸モルヒネ注射液 1% 5ml (アンプル)	837	593	682
塩酸モルヒネ注射液 4% 5ml (アンプル)	397	89	149

MS コンチン錠 10mg	(錠)	908	758	718
MS コンチン錠 30mg	(錠)	297	100	35
MS コンチン錠 60mg	(錠)	432	49	
オキファスト注 10mg	(アンプル)	139	161	43
オキファスト注 50mg	(アンプル)	172	1,094	507
デュロテップMTパッチ 2.1mg	(枚)	8	5	
デュロテップMTパッチ 4.2mg	(枚)	13		5
オキシコドン徐放錠 5mg (NX 錠含む)	(錠)	3,868	2,662	2,543
オキシコドン徐放錠 10mg (NX 錠含む)	(錠)	4,276	2,254	2,010
オキシコドン徐放錠 20mg (NX 錠含む)	(錠)	1,927	1,271	554
オキシコドン徐放錠 40mg (NX 錠含む)	(錠)	1,196	499	1,067
オキノーム散 2.5mg	(包)	2,178	1,726	1,755
オキノーム散 5mg	(包)	1,262	1,487	1,016
オキノーム散 10mg	(包)	1,031	1,034	548
オキノーム散 20mg	(包)	744	218	485
オプソ内服液 5mg	(包)	1,028	449	947
オプソ内服液 10mg	(包)	1,252	257	435
フェントステープ 0.5mg	(枚)	613	539	345
フェントステープ 1mg	(枚)	938	789	796
フェントステープ 2mg	(枚)	279	370	380
フェントステープ 4mg	(枚)	97	88	38
フェントステープ 6mg	(枚)	49	28	26
フェントステープ 8mg	(枚)	55		14
イーフェンバッカル錠 50 μ g	(錠)	71	158	114
イーフェンバッカル錠 100 μ g	(錠)	130	51	149
イーフェンバッカル錠 200 μ g	(錠)	78	20	20
イーフェンバッカル錠 400 μ g	(錠)	10	60	
イーフェンバッカル錠 600 μ g	(錠)		34	
ナルサス錠 2mg	(錠)	1,244	1,765	2,056
ナルサス錠 6mg	(錠)	749	684	800
ナルサス錠 12mg	(錠)	728	322	259
ナルラピド錠 1mg	(錠)	1,437	1,510	1,861
ナルラピド錠 2mg	(錠)	710	479	827
ナルラピド錠 4mg	(錠)	642	185	1,014
ナルベイン注 2mg1ml	(アンプル)	903	556	818
ナルベイン注 20mg2ml	(アンプル)	232	84	72
メサペイン錠 5 mg	(錠)			850

2022 – 2024 月別

処方箋枚数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
院外	7,388	7,387	7,832	7,911	7,718	7,599	8,201	7,824	7,269	7,269	7,528	8,046	91,972
院内	830	721	717	748	784	708	901	851	791	729	729	918	9,427
入院	7,077	7,277	7,580	7,297	7,802	7,489	8,010	7,264	7,219	7,873	7,679	7,948	90,515

院外処方箋発行率 (%)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
2022	89.1	89.5	91.1	90.9	89.8	90.7	89.4	90.2	90.7	90.2	90.1	91.0	90.2
2023	89.5	90.7	91.4	91.1	90.4	91.1	89.8	89.2	89.7	90.5	90.1	90.4	90.3
2024	89.9	91.1	91.6	91.4	90.8	91.5	90.1	90.2	90.2	90.9	91.2	89.8	90.7

薬剤管理指導（入院服薬指導）件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
2022	284	384	504	296	257	244	182	250	262	320	256	209	3,448
2023	354	406	409	343	359	383	535	628	563	595	516	544	5,635
2024	651	569	557	528	529	504	500	480	361	420	361	341	5,801

無菌製剤処理件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
2022	750	763	878	803	787	980	841	891	759	732	713	763	9,660
2023	711	630	754	729	778	816	724	779	736	842	859	785	9,143
2024	811	752	789	844	857	846	847	834	812	894	835	888	10,009

在宅中心静脈栄養管理料

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
2022	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
2023	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
2024	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24

薬剤情報提供件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
2022	566	499	457	433	498	450	549	552	462	492	454	458	5,870
2023	510	423	430	416	513	441	574	633	551	489	525	555	6,060
2024	564	461	458	454	497	448	593	576	517	441	456	645	6,110

中央放射線室

		2022	2023	2024
一般撮影		53,072	53,449	55,172
透視撮影		3,050	2,899	2,947
血管撮影		1,495	1,503	1,817
治療	ライナック	3,610	4,418	4,552
	治療計画	213	251	271
	血液照射			
C T 検査		25,631	25,873	27,471
M R I 検査		6,777	6,838	6,990
R I 検査		1,457	1,504	1,553
骨塩定量		851	977	1,012
合 計		96,156	97,712	101,785

中央検査室

1. 生化学検査

		2022	2023	2024
血清	TP	75,881	77,461	83,752
	Alb (A/G)	79,065	80,577	86,594
	RF	1,133	1,067	1,016
	CRP	82,384	83,619	88,756
	Hp	1,222	1,247	1,038
	T-Bil	84,097	83,742	88,813
	D-Bil	25,352	24,274	25,111
	Ch-E	24,206	21,923	22,235
	AST (GOT)	96,484	97,196	102,695
	ALT (GPT)	96,358	97,041	102,568
	ALP	83,426	84,783	90,409
	γ-GTP	79,988	81,991	88,051
	LDH	84,228	83,675	88,894
	CK	52,361	51,053	55,718
	CK-MB	3,719	3,925	4,378
	T-Chol	19,313	17,890	18,543
	HDL-Chol	16,406	15,504	16,294
	LDL-Chol	17,710	17,716	18,908
	TG	20,349	21,656	22,761
	AMY	31,392	28,722	31,560
	リパーゼ	5,432	5,074	5,316
	BUN	96,876	96,721	102,069
	CRE	98,944	98,749	104,078

	UA	44,743	45,303	46,063
	Ca	44,172	45,463	49,335
	IP	19,024	18,767	20,566
	Mg	18,158	17,218	18,326
	Fe	4,478	4,576	4,781
	UIBC	3,142	3,238	3,381
	Na,K,Cl	92,047	91,869	98,513
	IgG	3,944	4,084	4,362
	IgM	2,997	3,127	3,379
	IgA	2,655	2,835	3,098
	C3	1,893	2,067	2,120
	C4	1,891	2,067	2,120
	β 2-MG	1,681	1,089	1,057
	α 1-AG	739	688	581
	CH50	730	843	799
	フェリチン	4,350	4,442	4,475
	プレアルブミン	124	323	384
	グリコアルブミン	1,038	930	987
	浸透圧（血清）	1,368	390	121
	アンバウンドビリルビン	53	37	89
	亜鉛	1,615	1654	2,709
血漿	GLU	63,257	64,825	68,341
	浸透圧（血漿）	69	79	90
尿	尿 AMY	14	21	6
	尿 BUN	6,402	7,231	7,986
	尿 CRE	9,484	10,289	10,904
	尿 UA	2,906	3,182	3,672
	尿 Ca	760	536	506
	尿 IP	1,981	1,524	1,906
	尿 Mg	110	67	90
	尿 Na	6,422	6,704	7,578
	尿 K	3,785	4,315	4,820
	尿 Cl	1,843	2,305	2,390
	尿糖定量	956	933	953
	尿蛋白定量	7,328	7,967	8,683
	尿 β 2-MG	2,316	2,467	2,570
	尿 Alb	1,647	1,642	1,651
	尿 NAG	1,984	2,095	2,160
クリアランス	浸透圧（尿）	314	288	309
	CC r	40	12	5
	ICG	33	26	35
	U-NGAL	93	81	372

薬物血中濃度	フェノバルビタール	54	58	53
	フェニトイント	10	4	13
	カルバマゼピン	90	84	88
	バルプロ酸	284	276	273
	バンコマイシン	234	234	409
	ジゴキシン	82	54	46
	メソトレキセート	31	37	22
	タクロリムス	297	277	329
その他	HbA1c	24,824	24,031	24,389
	血液ガス	2,010	2,384	2,818
	血沈	2,141	2,091	2,593
	NH3	1,680	1,649	1,619
尿中薬物スクリーニング	尿中乱用薬物検査	16	32	38

2. 血清検査

		2022	2023	2024
肝炎ウイルス検査	HBs-Ag	9,214	9,204	9,216
	HBs-Ab	2,147	2,046	2,129
	HB c 抗体	1,119	1,105	1,150
	HBc-Ab	1,119	1,105	1,150
	HCV 抗体	9,045	8,978	9,013
梅毒検査	RPR	5,575	5,590	5,665
	TP 抗体	5,183	5,132	5,228
HIV 抗体	HIV	555	541	755
	HIV Ag/Ab	555	541	755
甲状腺ホルモン検査	TSH	7,639	7,032	6,650
	FT4	7,414	6,870	6,521
	FT3	1,152	958	811
婦人科ホルモン検査	Prog	1,175	1,306	1,458
	E2	1,279	1,410	1,555
	HCG	206	261	291
	LH	536	656	1,019
	FSH	337	393	516
成長ホルモン	GH	172	273	191
腫瘍マーカー、その他	CEA	11,785	11,479	12,754
	AFP	3,909	3,852	3,812
	CA19-9	7,977	8,040	8,306
	PSA	3,215	3,265	3,310
	NSE	449	501	530
	ProGRP	738	859	817
	PIVKA II	1,550	1,599	1,567
	KL-6	2,000	2,194	2,490

プロカルシトニン	2,394	2,198	1,958
トロポニンT	2,109	1,741	1,812
BNP	11,057	8,831	9,406
β-D-グルカン	729	727	680
ACTH	525	666	2,084
コルチゾール	537	715	2,254
IL-6	114	469	528
COVID-19 検査	コロナ抗原定量	2,457	3,995
			3,721

3. 輸血検査

		2022	2023	2024
血液型検査	ABO式血液型	8,480	8,384	8,793
	Rho(D)式血液型	8,480	8,384	8,793
	血液型亜型検査		1	3
	Rh・その他の血液型	156	119	120
不規則抗体検査	(件数)	6,811	6,813	7,311
交差適合試験(検査数)	(本数)	4,426	4,325	4,646
	内(コンピュータークロスマッチ)	2,658	2,518	2,722
直接クームステスト(DAT)		593	464	353
間接クームステスト(IAT)		56	47	40
輸血精密検査		3,984	3,932	3,983
血液製剤使用量	赤血球製剤(単位)	7,084	6,772	7,088
	新鮮凍結血漿(単位)	2,996	2,400	3,118
	濃厚血小板(単位)	13,370	14,260	19,900
	自己血(単位)	57	32	34
	クリオプレビシテート	68	93	120
	アルブミン製剤(g)	15,500	11,537.5	18,000.0
血液製剤廃棄量	赤血球製剤	46	38.0	2
	凍結血漿	36	68.0	50
	血小板	10	50.0	60
	クリオプレビシテート	12	6.0	
	自己血	22	32.0	6
	アルブミン	3		

4. 血液検査

		2022	2023	2024
血液形態・機能検査	血液一般検査(CBC)	108,086	106,772	112,312
	末梢血液像(機器分類)	86,386	86,486	92,358
	末梢血液像(目視)	23,586	23,632	25,762
	網状赤血球数	5,957	6,105	6,386
骨髄検査	骨髄像	303	298	321
特殊染色		866	914	959

フローサイトメトリー	CD 合計	414	351	363
	$\kappa \lambda$	213	191	218
	免疫グロブリン	148	41	63
	T/B 比	390	338	327
骨髓移植	PBSCH	8	9	9
凝固・線溶検査	出血時間	80	85	54
	PT	21,623	18,752	17,858
	APTT	16,791	15,269	15,197
	フィブリノーゲン	6,836	15,269	5,605
	ヘパプラスチンテスト		5,624	
	ATIII	1,050		
	アンチトロンビン		1,011	1,034
	FDP	3,580	3,329	3,065
	Dダイマー	9,246	8,814	8,940
	FMテスト	1	4	3
	血小板凝集能	12	10	55
CAPD 液中白血球数			2	53
APTT クロスマキシング試験			7	4
PIC			342	460
TAT			362	497

5. 一般検査

		2022	2023	2024
検尿検査	定性一般検査	39,179	39,283	41,019
	尿沈渣	22,440	22,156	24,016
妊娠反応	hCG 定性	130	151	163
	尿中 hCG 半定量		1	
尿 Alb/ クレアチニン指数		98	129	107
便検査	寄生虫検査	2		6
	潜血	4,735	4,739	4,434
鼻汁染色		56	50	52

6. 細菌検査

		2022	2023	2024
一般菌	顕微鏡検査	11,581	11,304	12,156
	培養	12,002	11,718	12,591
	同定	4,752	4,846	5,160
	嫌気性培養	6,389	5,906	6,135
	尿中菌数定量	2,154	2,058	2,394
	感受性試験	3,220	3,031	3,515
抗酸菌	顕微鏡検査（チール染色）	661	818	869
	顕微鏡検査（蛍光染色）	603	773	822

	培養	653	822	881
精液検査		43	50	28
髄液	一般検査	234	223	362
	蛋白定量	227	200	313
	糖定量	214	203	310
	クロール	139	105	145
穿刺液	一般検査	253	213	209
給食検便		429	373	393
感染症迅速検査	インフルエンザ	21	785	1,017
	RS ウィルス	16	15	28
	A 群 β 溶連菌迅速検査	140	197	246
	アデノウイルス	20	26	30
	CD トキシン	306	233	260
	便ロタ・アデノウイルス	74	129	182
	ノロウィルス	49	67	71
	尿中肺炎球菌莢膜抗原	193	252	276
	尿中レジオネラ抗原	189	244	265
	結核菌 DNA (LAMP)	23	31	22
	マイコプラズマ (LAMP)			
	マイコプラズマ抗原	6	2	18
	マイコプラズマ IgM 抗体	11	14	21
ヒトメタニューモウィルス		9	16	8
髄膜炎起炎菌抗原検出 (パストレックス)		17	2	
FilmArray 呼吸器セット		976	1636	2,327
FilmArray 髄膜炎・脳炎セット			73	107
コロナ LAMP	コロナ LAMP (鼻咽頭)	2,465	4	1
	コロナ LAMP (喀痰)	62		
	コロナ LAMP (その他)	2		1
新型コロナ抗原定性		2,406	3416	1,557
院内新型コロナ ウィルス PCR	院内新型コロナ PCR (鼻咽頭)	6,738	2486	245

7. 生理検査

		2022	2023	2024
心電図検査	心電図 12 誘導	13,589	12,485	13,170
	負荷心電図	629	394	294
	ホルター心電図	485	317	295
	イベントレコード	3		
	トレッドミル心電図	12	11	14
	自律神経検査 (R-R 間隔)	350	259	325
	レートポテンシャル	11	17	19
脈波検査		2		

脳波検査	脳波	170	218	191
	脳波（睡眠）	311	323	325
筋電図検査		16	21	21
神経伝導速度		1,472	1,353	1,561
大脳誘発電位		144	121	87
呼吸機能検査	肺活量（VC）	3,034	2,959	3,132
	努力性肺活量（FVC）	3,034	2,959	3,132
	最大換気量（MVV）	21	6	24
	機能的残気量（FRC）	257	245	249
	D L c o	193	230	224
	気道可逆性試験（メプチン）	194	182	245
超音波検査	超音波検査（ドック）	2,012	1,974	1,998
	腹部超音波検査	1,529	1,452	1,404
	頸部動脈超音波検査	801	731	770
	甲状腺超音波検査	849	904	1,025
	その他表在超音波検査	635	650	482
	乳腺超音波検査	1,157	1,220	1,375
	心臓超音波	5,809	5,339	5,668
	末梢血管超音波検査	1,225	1,149	1,138
一酸化窒素ガス分析（NO）		159	157	242
皮膚灌流圧（SPP）		76	53	70
眼底写真		1,971	1,999	1,965
眼圧		519	582	580
平衡機能		61	47	36
音声機能		16	22	12
重心動搖検査		57	46	35
ABI		782	621	748
MMEP		2	1	
新生児聴力検査		491	445	399
ラジオ波		8	10	5
心カテ		445	471	508
アブレーション		212	265	262
術中モニタリング		35	64	
皮下連続式グルコース測定			149	128
SAP療法のCGMデータ解析		38	54	62
耳鼻科検査	標準純音聴力検査	438	366	359
	簡易聴力検査	340	281	224
	標準語音検査	94	88	39
	SISI（内耳機能検査）	5	7	2
	ベケシー（一過性閾値変動検査）	12	10	4
	ティンパノメトリー	362	306	308
	SR（耳小骨筋反射）	48	27	23

OAE (耳音響放射検査)		90	86	46
遊戲聴力検査		38	55	42
耳鳴検査		51	32	30
音声機能検査		16	22	12
耳管機能検査		21	17	5
鼻腔通気度		105	77	88
味覚検査	ディスク法	24	15	15
	電気刺激法	26	16	14
嗅覚検査		27	19	13
In Body		1,320	1,181	1,378
PSG 取り付け		6	6	7
FGM 導入及びデータ解析		342	318	332
G6 データ解析			141	176

8. 病理検査

		2022	2023	2024
組織診	件数	5,488	5,449	5,647
	検体数	36,617	36,217	42,971
	ブロック数	16,511	16,473	17,693
	迅速診断	125	105	100
	免疫染色	8,308	7,174	7,189
	特殊染色 (染色枚数 2021 ~)	2,860	2,357	2,257
	蛍光抗体法	102	116	96
	他機関標本診断	142	130	145
細胞診	件数	5,160	4,968	4,906
	総枚数	10,051	9,371	9,364
US 介助		386	422	408
CT 介助		87	90	85
EBUS 介助		26	33	35
大量体腔液処理		69	71	56
ESD 寒天法		105	116	127
外来介助		18	18	12
解剖		11	4	5
免疫染色 4 種類以上加算		405	413	452
がん遺伝子パネル検査対応	*Foundation One	27	27	35
	*NCC オンコパネル			

9. その他

		2022	2023	2024
体外授精	IVF	126	194	248
	AIH	87	59	58
	授精卵凍結	58	103	96

	授精卵融解	83	133	125
	顎微授精	98	162	208
採血業務 ☆		245	247	244
SMBG 指導		21	11	11

☆午前 1 名 中央処置室に採血に出た日数

10. 細菌検査詳細統計

分離株件数

		2022	2023	2024
Aspergillus sp.		7	11	12
Bordetella pertussis				
Candida albicans		708	751	835
Candida sp.		413	326	432
Citrobacter freundii		25	21	33
Enterobacter cloacae		106	102	87
Escherichia coli		621	509	586
Escherichia coli-ESBL		143	143	207
Klebsiella aerogenes		39	83	62
Klebsiella oxytoca		139	107	133
Klebsiella oxytoca-ESBL		32	16	20
Klebsiella pneumoniae		336	307	325
Klebsiella pneumoniae-ESBL		26	36	39
Proteus mirabilis		81	52	68
Proteus mirabilis-ESBL				
Proteus vulgaris		16	16	10
Serratia marcescens		37	37	54
Salmonella sp.		5	13	6
Campylobacter jejuni		14	6	10
Pseudomonas aeruginosa		246	256	258
Pseudomonas aeruginosa (MDRP)				
Stenotrophomonas maltophilia		45	18	28
Moraxella catarrhalis		108	164	116
Neisseria gonorrhoeae				
Haemophilus influenzae		28	113	74
Haemophilus influenzae (BLNAR)		19	14	10
Staphylococcus aureus (MSSA)		301	299	312
Staphylococcus aureus (MRSA)		288	237	360
MRCNS		127	97	120
Enterococcus faecalis		183	179	226
Enterococcus faecium		57	72	56
Streptococcus agalactiae		193	155	183

Streptococcus pneumoniae (PSSP)	108	100	88
Streptococcus pneumoniae (PRSP)			1
Streptococcus pneumoniae (PISP)	7	8	7
Streptococcus pyogenes	3	19	36

検体別検査件数

	2022	2023	2024
喀痰	981	1150	1,395
鼻腔	965	963	993
咽頭分泌物	53	43	36
気管支洗浄液	114	124	109
胃液	2	2	5
尿	2,154	2058	2,394
糞便	421	414	435
膿（開放性）	188	181	176
膿（非開放性）	221	190	209
静脈血	4,877	4,714	4,910
動脈血	274	266	260
膿分泌物	823	734	736
子宮分泌物	10	14	11
耳漏	40	42	42
口腔内	35	67	52
眼脂	26	22	25
髄液	110	114	160
胆汁	79	88	87
胸水	162	137	127
腹水	84	62	54
関節液	45	44	59
カテ先端	29	35	35
IVH 先端	28	12	25
大腸生検	15	19	12
その他	266	223	244
合 計	12,002	11,718	12,591

11. 病理診断科・臨床検査科

	2022	2023	2024
超音波検査	227	253	211
穿刺吸引細胞診	245	267	229
針生検	44	33	16
その他検体採取			
ゲノム検査用 FFPE 評価	40	40	43

リハビリテーション科

科別新患者数

	2022	2023	2024
整形外科	955	1,036	1,089
脳外科	483	346	453
神経内科	403	499	443
内科	1,278	942	989
呼吸器外科・心臓血管外科	330	453	478
形成外科	6	1	
心臓内科	175	112	161
救急集中治療科	409	563	606
小児科	58	71	85
外科	312	340	407
耳鼻いんこう科	58	68	47
その他	115	135	100
合 計	4,582	4,566	4,858

科別患者数（件数 / 単位数）

	2022		2023		2024	
	件数	単位数	件数	単位数	件数	単位数
整形外科	13,752	22,890	16,311	26,362	16,618	26,313
脳神経外科	9,153	14,681	7,695	12,053	8,487	12,853
神経内科	9,704	15,439	9,460	14,631	9,594	14,661
内科	18,489	25,616	14,757	20,228	15,633	20,751
呼吸器外科・心臓血管外科	4,085	6,227	4,875	7,485	4,368	6,222
形成外科	262	352	54	89	17	18
心臓内科	3,277	5,044	3,057	4,866	3,044	4,493
救急集中治療科	7,855	12,090	9,173	13,516	10,709	15,610
小児科	861	1,239	823	1,212	898	1,363
外科	3,570	4,673	3,941	5,225	4,156	5,279
口腔外科	183	262	112	146	63	85
耳鼻いんこう科	215	322	401	589	296	408
その他	1,940	2,764	2,241	3,061	1,926	2,625
合 計	73,346	111,599	72,900	109,463	75,809	110,681
	2022		2023		2024	
運動器リハビリテーション	30,629		27,838		27,509	
脳血管等リハビリテーション	48,264		37,808		39,632	
呼吸器リハビリテーション	13,335		12,408		13,113	
心大血管リハビリテーション	11,110		9,856		8,502	
がん患者リハビリテーション	6,528		4,770		4,872	
廃用症候群リハビリテーション	19,625		16,714		17,012	
摂食機能療法	78		51		27	

心肺運動負荷試験	12	11	19
----------	----	----	----

栄養管理室

個別栄養指導

	2022	2023	2024
糖尿病	1,500	1,183	906
腎臓病	146	226	261
血液透析	14	14	26
その他	1,896	1,864	1,588
合 計	3,556	3,287	2,781

集団栄養指導

	2022	2023	2024
糖尿病教室	66	33	53
両親学級		14	18

NST 介入者数

	2022	2023	2024
延べ人数	207	428	547

手術センター

診療科	2022	2023	2024
総合内科		1	
消化器内科	19	22	27
心臓内科	53	32	36
小児科			
外科	511	516	538
小児外科	85	88	95
整形外科	905	895	886
脳神経外科	248	279	307
呼吸器・心臓血管外科			
☆乳腺・呼吸器・内分泌外科	268	266	280
☆心臓血管外科	390	367	375
皮膚科	142	128	118
産婦人科	518	507	505
耳鼻咽喉科	97	124	99
泌尿器科	287	277	316
形成外科	241	109	107
眼科	751	847	805
歯科・口腔外科	192	225	251

麻酔科	8	6	6
脳神経内科	3	3	6
救急集中治療科	147	134	140
合 計	4,865	4,692	4,897

☆ 2022 より診療科名詳細

患者支援センター 医事（公的医療の状況）

国の治療研究事業

旧番号	番号	疾 患 名	2022	2023	新規	削除*	2024
48	001	球脊髄性筋萎縮症					
8	002	筋萎縮性側索硬化症 (ALS)	3	3	4		7
47	003	脊髄性筋萎縮症	3	2			2
	004	原発性側索硬化症	1	1			1
	005	進行性核上性麻痺	4	6		2	4
20	006	パーキンソン病	35	32	8	5	35
	007	大脳皮質基底核変性症	1				
23	008	ハンチントン病					
	009	神經有棘赤血球症					
	010	シャルコー・マリー・トゥース病			1		1
3	011	重症筋無力症	21	23	1	2	22
	012	先天性筋無力症候群					
2	013	多発性硬化症／視神経脊髄炎	19	22	4	1	25
49	014	慢性炎症性脱髓性多発神経炎／多巣性運動ニューロパシー	12	10		1	9
	015	封入体筋炎	1	1	1		2
	016	クロウ・深瀬症候群					
27	017	多系統萎縮症	2	3	2	2	3
16	018	脊髄小脳変性症（多系統萎縮症を除く。）	2	4	4		8
44	019	ライソゾーム病					
45	020	副腎白質ジストロフィー					
52	021	ミトコンドリア病		1			1
24	022	もやもや病	7	8	1		9
38	023	プリオン病			1		1
41	024	亜急性硬化性全脳炎					
	025	進行性多巣性白質脳症					
	026	HTLV-1 関連脊髄症					
	027	特発性基底核石灰化症					
21	028	全身性アミロイドーシス	11	12	4	3	13
	029	ウルリッヒ病					
	030	遠位型ミオパシー					
	031	ベスレムミオパシー					
	032	自己貪食空胞性ミオパシー					

	033	シュワルツ・ヤンペル症候群					
40	034	神経線維腫症	2	3	1		4
15	035	天疱瘡	6	5			5
28	036	表皮水疱症	3	3			3
29	037	膿疱性乾癥（汎発型）	7	7	1		8
54	038	スティーヴンス・ジョンソン症候群					
	039	中毒性表皮壞死症					
13	040	高安動脈炎	2	2			2
	041	巨細胞性動脈炎	3	3	1	2	2
11	042	結節性多発動脈炎	2	2			2
	043	顕微鏡的多発血管炎	13	17	9	4	22
25	044	多発血管炎性肉芽腫症	3	3			3
	045	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	4	5		1	4
19	046	悪性関節リウマチ	1				
14	047	バージャー病	2	1		1	
	048	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	2			2
4	049	全身性エリテマトーデス（SLE）	55	63	4	3	64
9	050	皮膚筋炎／多発性筋炎	25	28	9	2	35
9	051	全身性強皮症	30	34	4		38
34	052	混合性結合組織病	4	7	1		8
	053	シェーグレン症候群	25	21	7	2	26
	054	成人発症スチル病	10	9		3	6
	055	再発性多発軟骨炎	1	1	1		2
1	056	ペーチェット病	9	10	2	1	11
26	057	特発性拡張型心筋症	22	16	1		17
50	058	肥大型心筋症	7	5			5
51	059	拘束型心筋症					
6	060	再生不良性貧血	16	14	1	3	12
	061	自己免疫性溶血性貧血	1	1			1
	062	発作性夜間ヘモグロビン尿症					
10	063	特発性血小板減少性紫斑病	21	19	7	6	20
	064	血栓性血小板減少性紫斑病					
35	065	原発性免疫不全症候群	1	1			1
	066	Ig A 腎症	41	33	11	8	36
	067	多発性囊胞腎	8	12	3	2	13
55	068	黄色靭帯骨化症	8	11		3	8
22	069	後縦靭帯骨化症	17	21	3	3	21
30	070	広範脊柱管狭窄症	23	26	17	6	37
33	071	特発性大腿骨頭壞死症	3	5	4		9
56	072	下垂体性 ADH 分泌異常症					
56	073	下垂体性 TSH 分泌亢進症					
56	074	下垂体性 PRL 分泌亢進症					

56	075	クッシング病					
56	076	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症					
56	077	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	1	1			1
56	078	下垂体前葉機能低下症	12	11			11
46	079	家族性高コレステロール血症（ホモ接合体）					
	080	甲状腺ホルモン不応症					
	081	先天性副腎皮質酵素欠損症					
	082	先天性副腎低形成症					
	083	アジソン病					
7	084	サルコイドーシス	21	16	1	1	16
36	085	特発性間質性肺炎	8	8	6		14
39	086	肺動脈性肺高血圧症	7	5	1		6
	087	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症					
43	088	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	5	6		1	5
53	089	リンパ脈管筋腫症	2	2			2
37	090	網膜色素変性症	2	3			3
42	091	バッド・キアリ症候群					
	092	特発性門脈圧亢進症					
31	093	原発性胆汁性胆管炎	5	5		2	3
	094	原発性硬化性胆管炎	1	1			1
	095	自己免疫性肝炎	3	4	2	1	5
17	096	クローン病	25	25	1	2	24
12	097	潰瘍性大腸炎	51	59	6	4	61
	098	好酸球性消化管疾患		1			1
	099	慢性特発性偽性腸閉塞症					
	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症					
	101	腸管神経節細胞僅少症					
	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群					
	103	CFC 症候群					
	104	コステロ症候群					
	105	チャージ症候群					
	106	クリオピリン関連周期熱症候群	1	1			1
	107	若年性特発性関節炎	1				
	108	TNF 受容体関連周期性症候群					
	109	非典型溶血性尿毒症症候群					
	110	プラウ症候群					
	111	先天性ミオパチー					
	112	マリネスコ・シェーグレン症候群					
	113	筋ジストロフィー	3	3	1	1	3
	114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群					
	115	遺伝性周期性四肢麻痺					
	116	アトピー性脊髄炎					

	117	脊髄空洞症					
	118	脊髄髓膜瘤					
	119	アイザックス症候群					
	120	遺伝性ジストニア					
	121	脳内鉄沈着神経変性症（旧：神経フェリチン症）					
	122	脳表ヘモジデリン沈着症					
	123	HTRAI関連脳小血管病（旧：禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症）					
	124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症					
	125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症					
	126	ペリー病（旧：ペリー症候群）					
	127	前頭側頭葉変性症			1		1
	128	ビッカーススタッフ脳幹脳炎					
	129	痙攣重積型（二相性）急性脳症					
	130	先天性無痛無汗症					
	131	アレキサンダー病					
	132	先天性核上性球麻痺					
	133	メビウス症候群					
	134	中隔視神経形成異常症 / ドモルシア症候群					
	135	アイカルディ症候群					
	136	片側巨脳症					
	137	限局性皮質異形成					
	138	神経細胞移動異常症		1			1
	139	先天性大脳白質形成不全症					
	140	ドラベ症候群		1			1
	141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	1	1			1
	142	ミオクロニ一欠神てんかん					
	143	ミオクロニ一脱力発作を伴うてんかん					
	144	レノックス・ガストー症候群			1		1
	145	ウエスト症候群					
	146	大田原症候群					
	147	早期ミオクロニ一脳症					
	148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん					
	149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群			1		1
	150	環状20番染色体症候群					
	151	ラスマッセン脳炎					
	152	P C D H 19関連症候群					
	153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎					
	154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症					
	155	ランドウ・クレフナー症候群	1	1			1
	156	レット症候群				1	1
	157	スタージ・ウェーバー症候群					
	158	結節性硬化症	1	1			1

	159	色素性乾皮症						
	160	先天性魚鱗癬						
	161	家族性良性慢性天疱瘡	1	1				1
	162	類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む。）	14	16	1	8	9	
	163	特発性後天性全身性無汗症						
	164	眼皮膚白皮症						
	165	肥厚性皮膚骨膜症						
	166	弾性線維性仮性黄色腫						
	167	マルファン症候群 / ロイス・ディーツ症候群(旧:マルファン症候群)	2	2				2
	168	エーラス・ダンロス症候群						
	169	メンケス病						
	170	オクシピタル・ホーン症候群						
	171	ウィルソン病						
	172	低ホスファターゼ症						
	173	VATER症候群						
	174	那須・ハコラ病						
	175	ウィーバー症候群						
	176	コフィン・ローリー症候群						
	177	ジュベール症候群関連疾患（有馬症候群）	1					1
	178	モワット・ウィルソン症候群						
	179	ウィリアムズ症候群						
	180	A T R-X症候群						
	181	クルーソン症候群						
	182	アペール症候群						
	183	ファイファー症候群						
	184	アントレー・ビクスラー症候群						
	185	コフィン・シリス症候群						
	186	ロスマンド・トムソン症候群						
	187	歌舞伎症候群						
	188	多脾症候群						
	189	無脾症候群	1	1				1
	190	鰓耳腎症候群						
	191	ウェルナー症候群						
	192	コケイン症候群						
	193	プラダー・ウィリ症候群						
	194	ソトス症候群						
	195	ヌーナン症候群						
	196	ヤング・シンプソン症候群						
	197	1p36 欠失症候群						
	198	4p 欠失症候群						
	199	5p 欠失症候群						
	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群						

201	アンジェルマン症候群					
202	スミス・マギニス症候群					
203	22q11.2 欠失症候群					
204	エマヌエル症候群					
205	脆弱X症候群関連疾患					
206	脆弱X症候群					
207	総動脈幹遺残症					
208	修正大血管転位症					
209	完全大血管転位症					
210	単心室症					
211	左心低形成症候群					
212	三尖弁閉鎖症	1	2			2
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	1	1	1	1	1
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症					
215	ファロー四徴症					
216	両大血管右室起始症	1	1			1
217	エプスタイン病					
218	アルポート症候群	1	1		1	
219	ギャロウェイ・モワト症候群					
220	急速進行性糸球体腎炎	7	8		2	6
221	抗糸球体基底膜腎炎					
222	一次性ネフローゼ症候群	24	23	12	4	31
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	1			1
224	紫斑病性腎炎	8	5	4		9
225	先天性腎性尿崩症					
226	間質性膀胱炎（ハンナ型）		1		1	
227	オスラー病					
228	閉塞性細気管支炎					
229	肺胞蛋白症（自己免疫性又は先天性）					
230	肺胞低換気症候群					
231	α 1-アンチトリプシン欠乏症					
232	カーニー複合					
233	ウォルフラム症候群					
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)					
235	副甲状腺機能低下症					
236	偽性副甲状腺機能低下症					
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症					
238	ビタミンD抵抗性くる病／骨軟化症					
239	ビタミンD依存性くる病／骨軟化症					
240	フェニルケトン尿症					
241	高チロシン血症1型					
242	高チロシン血症2型					

	243	高チロシン血症 3型					
	244	メープルシロップ尿症					
	245	プロピオン酸血症					
	246	メチルマロン酸血症					
	247	イソ吉草酸血症					
	248	グルコーストランスポーター1欠損症					
	249	グルタル酸血症1型					
	250	グルタル酸血症2型					
	251	尿素サイクル異常症					
	252	リジン尿性蛋白不耐症					
	253	先天性葉酸吸收不全					
	254	ポルフィリン症					
	255	複合カルボキシラーゼ欠損症					
	256	筋型糖原病					
	257	肝型糖原病					
	258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症					
	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症					
	260	シトステロール血症					
	261	タンジール病					
	262	原発性高カイロミクロン血症					
	263	脳膜黄色腫症					
	264	無βリポタンパク血症					
	265	脂肪萎縮症					
	266	家族性地中海熱			2		2
	267	高IgD症候群					
	268	中條・西村症候群					
	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群					
	270	慢性再発性多発性骨髄炎					
	271	強直性脊椎炎	3	3			3
	272	進行性骨化性線維異形成症					
	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症					
	274	骨形成不全症					
	275	タナトフォリック骨異形成症					
	276	軟骨無形成症					
	277	リンパ管腫症 / ゴーハム病					
	278	巨大リンパ管奇形（頸部顔面病変）					
	279	巨大静脈奇形（頸部口腔咽頭びまん性病変）					
	280	巨大動静脈奇形（頸部顔面又は四肢病変）					
	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群					
	282	先天性赤血球形成異常性貧血					
	283	後天性赤芽球瘻	2	2			2
	284	ダイアモンド・ブラックファン貧血					

	285	ファンコニ貧血						
	286	遺伝性鉄芽球性貧血						
	287	エプスタイン症候群						
	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	1					
	289	クロンカイト・カナダ症候群	1					
	290	非特異性多発性小腸潰瘍症						
	291	ヒルシュスブルング病（全結腸型又は小腸型）						
	292	総排泄腔外反症						
	293	総排泄腔遺残						
	294	先天性横隔膜ヘルニア						
	295	乳幼児肝巨大血管腫						
	296	胆道閉鎖症						
	297	アラジール症候群						
	298	遺伝性膀胱炎						
	299	囊胞性線維症						
0	300	I g G 4 関連疾患	2	4				4
	301	黄斑ジストロフィー						
	302	レーベル遺伝性視神経症						
	303	アッシャー症候群						
	304	若年発症型両側性感音難聴						
	305	遅発性内リンパ水腫						
	306	好酸球性副鼻腔炎	5	11	4	2	13	
	307	カナバン病						
	308	進行性白質脳症						
	309	進行性ミオクローヌスてんかん						
	310	先天性異常症候群						
	311	先天性三尖弁狭窄症						
	312	先天性僧帽弁狭窄症						
	313	先天性肺静脈狭窄症						
	314	左肺動脈右肺動脈起始症						
	315	ネイルバテラ症候群（爪膝蓋骨症候群）/LMX1B 関連腎症						
	316	カルニチン回路異常症						
	317	三頭酵素欠損症						
	318	シトリン欠損症						
	319	セピアプロテリン還元酵素(SR)欠損症						
	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症						
	321	非ケトーシス型高グリシン血症						
	322	β-ケトチオラーゼ欠損症						
	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症						
	324	メチルグルタコン酸尿症						
	325	遺伝性自己炎症疾患						
	326	大理石骨病						

	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性要因によるものに限る)					
	328	前眼部形成異常					
	329	無虹彩症					
	330	先天性気管狭窄症 / 先天性声門下狭窄症					
	331	特発性多中心性キャッスルマン病	1	2		1	1
	332	膠様敵状角膜ジストロフィー					
	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群					
	334	脳クレアチン欠乏症候群					
	335	ネフロン癆					
	336	家族性低βリポタンパク血症1(ホモ接合体)					
	337	ホモシスチン尿症					
	338	進行性家族性肝内胆汁うっ滯症					
	339	MECP2重複症候群					
	340	線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群を含む)					
	341	TRPV4異常症					
合 計			728	760	164	100	824

* 死亡を含む

小児慢性特定疾患治療研究事業

番号	疾 患 名	2022	2023	新規	削除*	2024
1	悪性新生物	5	6		3	3
2	慢性腎疾患	15	18	4		22
3	慢性呼吸器疾患	4	4			4
4	慢性心疾患	49	47	3	9	41
5	内分泌疾患	11	12	1	3	10
6	膠原病	3	4	2		6
7	糖尿病	4	4	1		5
8	先天性代謝異常	4	3	1	1	3
9	血液疾患	1	1			1
10	免疫疾患					
11	神経・筋疾患	31	28	2	4	26
12	慢性消化器疾患	6	5		1	4
13	染色体または遺伝子に変化を伴う症候群	14	15		1	14
14	皮膚疾患		1			1
15	骨系統疾患		1			1
16	脈管系疾患					
合 計			147	149	14	22
						141

* 死亡を含む

医療費公費負担申請状況

	2022	2023	新規	削除*	2024
難病	728	760	164	100	824

小児慢性特定疾患	147	149	14	22	141
身体障害者手帳	235	214	247	214	247
更生医療（心臓・透析等）	43	48	115	68	95
育成医療	1	1	1	1	1
養育医療	4		33	29	4
精神保健福祉法	101	108	20	2	126
結核予防法	1	6	11	15	2
合 計	1,260	1,287	605	451	1,440

* 死亡を含む

・身体障害者手帳については、更新手続きの把握が難しいため、新規で申請された数字のみ報告。

健診センター

1. 年令別受診者数、要精検者数、要治療者数

年 齢	男 性			女 性			合 計		
	受診者	要精検	要治療	受診者	要精検	要治療	受診者	要精検	要治療
- 29	3			2			5		
30 - 39	62	17	3	69	32	2	131	49	5
40 - 49	180	55	4	218	97	4	398	152	8
50 - 59	236	92	3	210	83	3	446	175	6
60 -	554	281	12	442	208	8	996	489	20
合 計	1,035	445	22	941	420	17	1,976	865	39
割 合		43.0%	2.1%		44.6%	1.8%		43.8%	2.0%

当院で総合健診後最終診断された癌症例

判定項目	最終診断	病理診断	治療
腹部超音波	右腎細胞癌	c T1aNOMO	手術
腹部超音波 AFP	濾胞性リンパ腫	stage III a	化学療法
腹部超音波	子宮平滑筋肉腫	p T1 b NXMO	手術
腹部超音波 CA19-9	胆のう癌	p T2apNXpMX	手術
AFP	子宮頸部異型腺癌	p T1 b 3NXMX	鳥取大学病院へ紹介
CEA	慢性骨髓性白血病	CML-CT	化学療法
血液一般			
便	S 状結腸癌	T2NOMO	手術
便	盲腸癌	T3N2aMO	手術
婦人科	子宮頸癌	C1N3/HS1L	手術
マンモグラフィー	右乳癌	c T2NIMO	手術
マンモグラフィー	左乳癌	p T1 c NOMO	手術
胃内視鏡	早期胃癌	p T1a p NXcMX	ESD
胃内視鏡	早期胃癌	p T1a p NXcMX	ESD

胃内視鏡	早期胃癌	p T1a p NXcMX	ESD
胃内視鏡	早期食道癌	p T1a p NXcMX	ESD
胸部 X 線	左上葉肺癌	c T1 b NOMO	手術

病理解剖症例一覧（2023年1月～12月）

剖検番号	年齢	性	診療科	臨床診断	病理解剖診断
1000	85	男	腎臓内科	敗血症性ショック、尿路感染症の疑い、膀胱癌の疑い、急性腎障害	膀胱癌（未分化癌）転；あり 1. カンジダ症 ②. 肺水腫・肺うつ血 3. 肺出血・気道出血 4. 婦縮腎・腎硬化症 5. 尿路疾患 6. 脂肪肝 7. 胸水（左300/右100mL）8. 腹水貯留（900mL）9. 膀胱疾患
1001	51	女	呼吸器内科	COVID-19 潛在後、肺塞栓の疑い	肺水腫・肺うつ血 1. びまん性肺胞障害（DAD）（左630g/右1020g）2. 急性心内膜炎+心外膜炎（425g）3. 敗血症 4. 左腎梗塞 5. 急性尿細管壞死+両側微小腎臓瘻 6. 脂肪肝 7. 胸水（左700/右400mL）
1002	65	男	救急集中治療科	急性心筋梗塞	肺水腫・肺うつ血（左1000g/右1080g）1. 急性尿細管壞死（左180g/右220g）2. 右腎囊胞
1003	80	男	院外	右下葉肺癌の疑い、右優位の胸水貯留、多発転移（副腎、脾体部など）、上行結腸壁肥厚、左硬膜下腫瘍影、左前額部腫瘍	肺癌（小細胞癌）転；あり（左副腎、上行結腸、脾癌、左前頭部皮下、左前頭葉硬膜、右壁側胸膜、リンパ節）1. 胸水（左400/右2500mL）
1004	69	男	総合内科	急性大動脈解離、不明熱	二重癌 1) 前立腺癌（腺癌）転；なし 2) 甲状腺癌（乳糖腺癌）転；なし ①. 解離性大動脈瘤（含破裂）2. 左肺内穿破、左胸腔出血 3. 慢性心外膜炎（238g）4. 急性・慢性腎孟腎炎（118:105g）5. 胆嚢結石、胆嚢腺筋症 6. 胸水（左2000/右500mL）7. 腹水（400mL）
1005	77	女	救急集中治療科	敗血症性ショック、右腎臓瘻、肺塞栓症	MDS/MPN-U 転；なし ①. 敗血症 2. 小葉中心性壞死 3. 右腎臓瘻 4. 膀胱・感染脾 5. 副腎萎縮

医療安全対策室

インシデントアクシデントレポート（医療安全対策室）

レベル別

事故レベル	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
ヒヤリ・ハット	19	9	15	22	31	29	12	19	21	27	25	26	255
レベル 1	89	102	84	107	146	156	151	130	141	164	132	137	1,539
レベル 2	48	48	45	28	32	31	44	27	20	22	21	28	394
小計	156	159	144	157	209	216	207	176	182	213	178	191	2,188
レベル 3a	10	8	7	2	7	7	7	13	10	10	4	19	104
レベル 3b	2	3	1	3	3	1	3	1	9	4	2	5	37
レベル 4											2		2
レベル 5													0

小計	12	11	8	5	10	8	10	14	19	14	8	24	143
合計	168	170	152	162	219	224	217	190	201	227	186	215	2,331

職種別

職種	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
医師（歯科医含む）	19	9	6	4	14	11	8	12	19	5	10	15	132
医療アシスタント	1	1	3	2	3		1	1	1	1	1	3	18
小計	20	10	9	6	17	11	9	13	20	6	11	18	150
助産師・看護師	125	140	111	135	178	195	188	153	151	198	136	175	1,885
看護助手									1				1
小計	125	140	111	135	178	195	188	153	152	198	136	175	1,886
薬剤師	11	6	14	4		8	2	7	7	8	13	7	87
栄養士	2			1	3	1	3	2	2		4	1	19
調理従事者									1				1
診療放射線技師	2	6	5	7	11	1	9	8	9	4	6	3	71
臨床検査技師	3	4	10	3	6	4	5	4	6	4	7	8	64
理学療法士	1		1	3	2	1	1	1		1	5	2	18
歯科衛生士													0
診療情報管理士													0
MSW													0
臨床工学技士	1	1		1		1		2	2	1	2	1	12
医療助手	1			1									2
小計	21	17	30	20	22	16	20	24	27	18	37	22	274
事務職員			1	2	1		2			1	1		8
小計			1	2	1		2			1	1		8
合計	166	168	152	162	217	224	217	190	199	223	185	215	2,318

発生場面別

発生場面		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
指示・情報伝達	1 オーダー・指示出し													0
	2 情報伝達課程	2	4	2	5	3	3	5	2	3	4	8	5	46
	小計	2	4	2	5	3	3	5	2	3	4	8	5	46
薬剤・輸液	3 与薬準備	7	5	5	9	7	7	5	6	7	15	8	5	86
	4 処方・与薬	45	65	38	43	58	90	66	53	71	68	35	63	695
	5 調剤・製剤管理等	19	10	19	14	6	12	5	23	12	14	17	9	160
	6 輸血	1	3	2	1	3	2	6	2		1		1	22
	小計	72	83	64	67	74	111	82	84	90	98	60	78	963
治療・処置	7 手術	2	4	5	3	7	4	4	3	2	7	4	5	50
	8 麻酔	3	1		1	4		3	1	6	1		1	21
	9 出産・人工流産								1		1			2
	10 その他の治療	4	2	1	2	2	1	1		3	3	7	3	29
	11 処置	8	2	4	4	10	4	5	5	5	9	10	7	73
	12 診察	1			1	1				1				4
小計		18	9	10	11	24	9	13	10	17	21	21	16	179
医療用具、チューブ類の使用管理	13 医療用具（機器）の使用・管理	3	3	2	3	1	5	2	6	3	4	5	9	46
	14 ドレーン・チューブ類の使用・管理	22	20	20	18	37	34	22	24	19	28	18	29	291
	小計	25	23	22	21	38	39	24	30	22	32	23	38	337
検査	15 検査	18	20	22	25	43	22	25	24	25	23	25	21	293
	小計	18	20	22	25	43	22	25	24	25	23	25	21	293
療養上の場面	16 療養上の世話	23	13	20	17	15	21	37	16	20	23	22	25	252
	17 給食・栄養	3	3	1	2	2	10	7	4	6	1	7	7	53

	18 その他の療養生活の場面		2	4	2	7		3	3	6	8	8	4	47
	小計	26	18	25	21	24	31	47	23	32	32	37	36	352
その他の場面	19 物品搬送													0
	20 放射線管理													0
	21 診療情報管理	3	3		1	4	2	4	2	1	3		2	25
	22 患者・家族への説明	1	2	3	3	4		2	1		3			19
	23 施設・設備		1		2						1			4
	24 その他	9	13	9	16	12	11	15	14	14	15	13	21	162
	小計	13	19	12	22	20	13	21	17	15	22	13	23	210
	合計	174	176	157	172	226	228	217	190	204	232	187	217	2,380

感染防止対策室

針刺し件数

		2022	2023	2024
職種	医師	7	7	8
	研修医	2		1
	看護師	14	17	24
	検査技師		1	2
	その他	1	5	
経験年数	1年未満	6	6	5
	1～5年	9	8	11
	6～10年	4	8	5
	11年以上	5	8	14
発生場所	病室	6	9	13
	スタッフステーション			3
	I C U ・ N I C U		1	3
	手術室	6	3	5
	救急外来	3	2	3
	中央処置室		2	3
	検査室		1	1
	中央放射線室	3	1	1
創傷部位	その他	6	11	3
	左手・指	8	13	11
	右手・指	16	14	21
使用器材	その他		3	3
	採血針	1	3	8
	注射針	5	5	4
	インスリン針	4	1	4
	留置針		7	3
	C V ポート針	1		3
	縫合針	2	0	4
	メス	5	2	4
	電気メス			

	ワイヤー			
	その他	6	12	5
発生場面・理由等	患者使用中	3	10	3
	縫合時・介助時			3
	リキヤップ時	2	2	3
	抜針時	1		3
	安全機能作動時			4
	廃棄時	5	4	7
	他者が持っていた針等	3		1
	分注時			
	その他	9	12	8
	☆未使用	1	2	3
感染症	H B V		1	
	H C V		2	2
	H I V			
	不明	1	4	2
	なし	23	23	31
手袋	あり	21	25	31
	なし	3	5	4
針刺し発生率		2.0%	2.5%	※ 2.8%

※ (針刺し 35 件 ÷ 2024 年常勤換算職員数 1239) × 100

外来治療室

疾患別	2022	2023	2024
肺がん	943	1,042	1,125
乳がん	518	519	617
食道がん	51	104	53
胃がん	404	388	367
大腸がん	535	452	413
肝がん	41	49	89
胆管・胆のうがん	56	38	55
膵がん	203	173	203
上咽頭がん	11	16	8
前立腺がん	264	270	305
卵巣・卵管がん	143	206	216
子宮（体・頸）がん	44	60	101
慢性骨髄性白血病	27	6	2
急性リンパ性白血病	13	10	3
骨髓腫	348	435	420
悪性リンパ腫	230	168	182

肺がん・膵がん	5	16	5
ランゲルハンス組織球症			
骨髄異型性症候群	105	118	54
がん以外の治療	44	27	49
その他	101	216	156
合 計	4,086	4,313	4,423

2024 月別

疾患別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
肺がん	99	101	98	93	84	74	87	112	78	106	98	95	1,125
乳がん	41	52	43	54	53	51	57	58	57	67	42	42	617
食道がん	3	5	2	3	3	3	3	4	2	6	8	11	53
胃がん	43	37	31	27	23	19	27	28	25	47	28	32	367
大腸がん	33	32	31	35	36	35	34	32	40	40	34	31	413
肝がん	7	7	8	7	11	8	6	9	6	6	9	5	89
胆管・胆のうがん	1	3	4	5	6	7	8	4	2	4	7	4	55
膵がん	13	14	18	17	16	15	17	15	14	25	21	18	203
上咽頭がん	0	0	0	0	0	1	1	0	1	2	1	2	8
前立腺がん	20	23	31	29	35	30	26	25	26	18	25	17	305
卵巣・卵管がん	13	17	17	15	21	15	18	19	22	21	18	20	216
子宮(体・頸)がん	16	8	8	10	10	7	8	7	5	7	8	7	101
慢性骨髓性白血病	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2
急性リンパ性白血病	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	3
骨髄腫	30	32	29	25	23	32	41	39	40	51	42	36	420
悪性リンパ腫	18	17	11	20	23	21	17	10	11	6	13	15	182
肺がん・膵がん	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	2	0	5
ランゲルハンス組織球症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨髄異型性症候群	10	6	9	10	10	4	5	0	0	0	0	0	54
がん以外の治療	4	7	8	5	7	0	3	1	3	2	5	4	49
その他	13	18	16	15	12	19	12	12	11	12	8	8	156
合 計	364	379	364	371	375	341	371	376	344	420	370	348	4,423

院内がん登録

1. 経年変化(部位別)

部 位	2022	2023	2024
1 頭	10	17	14
2 眼			
3 耳, 鼻, 副鼻腔	6	4	4
4 口唇, 口腔, 舌	12	16	11
5 咽頭, 喉頭	16	19	9
6 甲状腺	16	26	19
7 気管, 気管支, 肺	182	190	183

8 胸腺		10	10	3
9 縦隔		1	1	1
10 乳房		73	72	99
11 食道		42	38	50
12 胃		106	107	115
13 小腸, 十二指腸		3	2	7
14 大腸, 虫垂, 肛門		148	155	168
15 肝, 肝内胆管		21	34	27
16 胆囊, 肝外胆管		21	16	22
17 脾		41	36	29
18 腎, 副腎		22	36	27
19 腎孟, 尿管		9	12	13
20 膀胱		40	36	54
21 前立腺		85	92	106
22 その他男性生殖器		3	4	
23 子宮 (頸部, 体部)		78	75	84
24 卵巣, 卵管		19	18	36
25 その他女性生殖器		3	3	2
26 皮膚		76	81	45
27 結合織, 軟部組織		3	7	11
28 骨, 関節, 軟骨			3	
29 リンパ, 造血組織 (白血病を除く)		59	60	77
30 白血病		56	75	81
31 神経 (頭蓋外)		1	2	
32 その他の部位				
33 分類不能		5	7	6
合 計		1,167	1,254	1,303

2. 性・年齢・住所別 (2024 年 1 月～12 月) 院内がん登録集計

疾病分類 (ICD-O 第 3 版)	総数	性別		年 齡								登録時住所						
		男	女	0 ～ 19	20 ～ 29	30 ～ 39	40 ～ 49	50 ～ 59	60 ～ 69	70 ～ 79	80 以上	鳥 取 市	八 頭 郡	岩 美 郡	東 伯 郡	倉 吉 市	米 子 市	兵 庫 県
C00 口唇	1	1						1				1						
C01 舌根部																		
C02 その他および部位不明の舌	5	4	1					3		1	1	3	1					1
C03 歯肉	3	1	2						2		1	3						
C04 口腔底	1	1						1				1						
C05 口蓋	1	1								1		1						
C06 その他及び部位不明の口腔	1	1							1			1						
C07 耳下腺	1	1							1			1						
C08 その他及び詳細不明の大唾液腺																		
C09 扁桃	1	1							1			1						
C10 中咽頭																		
C11 鼻咽頭																		

C12	梨状陥凹	4	3	1						3		1	2	1	1						
C13	下咽頭																				
C14	その他及び部位不明確の口唇、口腔及び咽頭																				
C15	食道	50	41	9				1	3	18	18	10	38	5	3		1		3		
C16	胃	115	84	31				1	2	3	28	46	35	75	11	12	2	2		12	1
C17	小腸	7	2	5				1		1	4	1	7								
C18	結腸	118	70	48				1	5	6	32	42	32	76	13	11	2			16	
C19	直腸 S 状結腸移行部	12	8	4					3	3	1	5	7	1	1					3	
C20	直腸	36	25	11				2	2	3	14	10	5	26	3	1	1	2		3	
C21	肛門および肛門管	2		2					1				1	1		1					
C22	肝および肝内胆管	27	17	10				2		5	8	12	16	4	5	1				1	
C23	胆のう（嚢）	10	5	5						3	3	4	7	2						1	
C24	その他及び部位不明の胆道	12	5	7						2	5	5	7	2	1					2	
C25	脾	29	14	15						2	16	11	20	5	2		1		1		
C26	その他及び部位不明確の消化器																				
C30	鼻腔及び中耳	1	1							1			1								
C31	副鼻腔	2	1	1						2			1		1						
C32	喉頭	3	3							2	1		1							2	
C33	気管																				
C34	気管支および肺	183	133	50				1	14	44	86	38	117	19	16	4	1		26		
C37	胸腺	3	1	2							2	1	1							2	
C38	心臓、縦隔および胸膜	1	1					1					1								
C39	その他及び部位不明確の呼吸器系、胸腔内臓器																				
C40	(四) 肢の骨および関節軟骨																				
C41	その他及び部位不明の骨及び関節軟骨																				
C42	造血系及び細網内皮系	81	50	31	2	2	2	6	4	10	30	25	48	10	5	5	6		5	2	
C44	皮膚	45	22	23				1	2	3	3	7	29	33	2	4				6	
C47	末梢神経及び自律神経系																				
C48	後腹膜および腹膜	5	3	2						1	3	1	5								
C49	結合組織、皮下組織及びその他の軟部組織	6	4	2	1					1	2	2	4	1						1	
C50	乳房	99		99				5	17	24	15	26	12	74	7	4	1			13	
C51	外陰	2		2					1			1	2								
C52	脛																				
C53	子宮頸（部）	52		52			1	17	13	10	3	3	5	43	3	3				3	
C54	子宮体部	32		32				6	9	10	4	3	24	6						2	
C55	子宮、N O S																				
C56	卵巣	31		31			2	2	4	11	4	4	4	22	3	2				2	2
C57	その他及び部位不明の女性性器	5		5					2	2	1		5								
C58	胎盤																				
C60	陰茎																				
C61	前立腺	106	106						4	20	55	27	67	8	2	12	8		8	1	
C62	精巣（睾丸）																				
C63	その他及び部位不明の男性性器																				
C64	腎（腎盂を除く）	27	16	11				1	4	3	6	11	2	22	1	1		1		2	
C65	腎孟	10	8	2					2	2	4	2	7		1				1	1	

C66	尿管	3	3						1	2					2		1	
C67	膀胱	54	44	10				1	1	3	13	23	13	27	4	6	7	4
C68	その他及び部位不明の泌尿器																	
C69	眼および付属器																	
C70	髄膜	5	3	2					1	4				2	2	1		
C71	脳	9	3	6	1		1		2	1	2	2	9					
C72	脊椎、脳神経系のその他の中 枢神経系																	
C73	甲状腺	19	9	10		1	1	3	1	5	6	2	13	1		1	1	3
C74	副腎																	
C75	その他の内分泌腺及び関連組織																	
C76	その他および不明確な部位																	
C77	リンパ節	77	40	37		1		5	11	17	27	16	47	6	5	3	3	10
C80	分類不能	6	3	3				1	2		3	4		1			1	
合 計		1,303	737	566	4	7	35	76	129	278	462	312	873	122	90	38	32	1 136 11

院内研究会・CPC

(2024年1月～12月)

緩和ケア内科

月 日	講演会・研修・勉強会	講 師	対 象	場 所	参加人数
2月 4日	緩和ケア概論 オピオイドについて	浦川	研修医	カンファレンス室	7名
2月 19日	コミュニケーション 意思決定支援 ACP, 臨床倫理	浦川	研修医	カンファレンス室	7名
7月 1日	緩和ケア概論 オピオイドについて	浦川	研修医	カンファレンス室	4名
7月 8日	コミュニケーション 意思決定支援 ACP, 臨床倫理	浦川	研修医	カンファレンス室	4名

小児科

月 日	講演・研修・勉強会	講 師	対 象	場 所	参加人数
2月 19日	小児のてんかん	鳥大 前垣教授	研修医、小児科医、ほか医師、看護師	別館中会議室	複数名
7月 1日	成長ホルモン分泌刺激試験について	倉信	5 北病棟看護師	スタッフステーション	複数名
7月 29日	代表的な先天性心疾患における酸素投与の注意点	倉信	NICU 看護師	NICU カンファレンスルーム	複数名
8月 26日	熱性発作（熱性けいれん）	鳥大 前垣教授	研修医、小児科医、ほか医師、看護師	別館大会議室	複数名
8月 31日	PEARS プロバイダーコース	倉信	5 北病棟看護師	トレーニングラボ	3名

歯科口腔外科

月 日	内 容	講 師	対 象	場 所
2月 8日	移植患者さんへの口腔ケア	谷口歯科衛生士	看護師	11 南病棟
4月 23日, 24日	新人看護研修	谷口歯科衛生士 山本歯科衛生士	新人看護師	院内
8月 20日	口腔ケアの重要性	八尾知亞紀	嚥下口腔サポートチーム	院内

看護局

日付	研修名	講師	対象者	参加人数
2024年 6月	放射線療法と看護	橋本瑞樹	新人看護師	
2024年 8月	がん看護基礎研修	池田 牧, 濱野由紀子, 樹下和江, 橋本瑞樹, 木下敦子, 中山優樹, 蘆田啓吾(外科医師), 中村一彦(放射線科医師)	看護師	29名
2024年 11月	がん看護アドバンスト研修	池田 牧, 濱野由紀子, 樹下和江, 橋本瑞樹, 木下敦子, 中山優樹, 藤松義人(臨床心理士)	看護師	13名
毎月	ニューマン理論実践学習会	池田 牧, 樹下和江, 赤坂靖子, 宮脇 工, 浦林多恵, 藤原 紗	看護師	延べ261名

感染防止対策室

1. 感染対策チーム・感染防止管理委員会主催 院内研修会

月 日	講演・研修・勉強会	講 師	対 象	場 所	参 加 人 数
1月 12日	エイドアシスタントオーリエンテーション ※当院の感染管理体制・標準予防策・職業感染対策について	朽木	エイドアシスタント	カンファレンス室4	2名
1月 18日	外来感染対策勉強会 30ブース ※手指衛生	入江	看護師	30ブースの診察室	7名
1月 19日	外来感染対策勉強会 31ブース ※手指衛生	入江	外来看護師	麻酔科診察室	9名
1月 23日	6北感染対策勉強会 ※手指衛生	入江	6北看護師	スタッフステーション	13名
1月 30日	外来感染対策勉強会 小児科外来 ※手指衛生	入江	小児科看護師	スタッフステーション	4名
2月 6日	外来感染対策勉強会 32ブース ※手指衛生	入江	看護師	緩和ケア診察室	9名
2月 14日	令和5年度第2回抗菌薬適正使用支援研修会 ※確実な診断でこんなに明解な感染症診療	鳥取大学医学部付属病院 感染制御部 椋田権吾先生	医師・薬剤師・看護師・検査技師など	多目的ホール	71名

3月 1日	中途（看護師・看護補助者）追加研修 ※当院の感染管理体制・標準予防策・職業感染対策について	朽本	看護師 看護補助者	カンファレンス室 4	3名
4月 1日	新規採用（転入）職員の研修オリエンテーション ※当院の感染管理体制・標準予防策・職業感染対策について	朽本	全職種	多目的ホール	複数名
4月 3日	既卒新採用者・看護補助者・エイドアシスタント ※当院の感染管理体制・標準予防策・職業感染対策について	朽本	看護師 看護補助者 エイドアシスタント	カンファレンス室 2	6名
4月 3日	研修医オリエンテーション ※当院の感染管理体制・標準予防策・職業感染対策について	朽本	研修医	会議室 1	11名
4月 3日	新人看護師研修 ※感染対策研修（基本編）	入江	新人看護師	中会議室	43名
5月 1日	中途（看護師・看護補助者）追加研修 ※当院の感染管理体制・標準予防策・職業感染対策について	朽本	看護師 看護補助者	カンファレンス室 4	3名
5月 7日	エイドアシスタント オリエンテーション ※当院の感染管理体制・標準予防策・職業感染対策について	朽本	エイドアシスタント	カンファレンス室 5	1名
5月 10日	新人看護師研修 ※感染対策研修（実践編）	入江	新人看護師	中会議室	39名
5月 22日	委託清掃業者 ※N95マスク装着方法指導	朽本	委託清掃業者	清掃業者控室	複数名
5月 23日	リハビリ室感染対策勉強会 ※手指衛生	入江	リハビリスタッフ	リハビリ室	28名
5月 25日	吸引時の感染対策	朽本	医療技術局	リハビリ室	1名
6月 17日	中央処置室・外治治療室 感染対策勉強会 ※手指衛生	入江	中央処置室 外治治療室 看護師	中央処置室	16名
7月 2日	ラダーⅡ研修 ※感染対策	入江	ラダーⅡ 受講者	多目的ホール	32名
7月 9日	中央処置室・外治治療室 感染対策勉強会 ※手指衛生	入江	中央処置室 外治治療室 看護師	外来治療室	6名
7月 17日	感染管理コース研修① ※標準予防策と感染経路別予防策について①	朽本	感染管理コース 研修受講看護師	中会議室	26名

8月 9日	1日看護師体験 ※手指衛生・個人防護具	朽本入江	鳥取県内の高校生	シミュレーションセンター	13名
8月 19日	看護補助者研修 2 ※感染防止	入江	看護補助者	シミュレーションセンター	17名
8月 21日	感染管理コース研修② ※標準予防策と感染経路別予防策について②	朽本	感染管理コース研修受講看護師	中会議室	28名
8月 26日	看護補助者研修 2 ※感染防止	入江	看護補助者	シミュレーションセンター	11名
9月 9日 , 10日,11日 , 12日,13日 , 17日,18日	令和6年度第1回全職員対象 感染対策研修会 ※本当の手指衛生してます か？リーダーと一緒に let's 手指衛生	感染対策推進担当者 研修医	全職員 ※委託業者含む	多目的ホール e-learning	982名 145名
9月 11日	中途（看護補助者）追加研修 ※当院の感染管理体制・標準 予防策・職業感染対策につ いて	朽本	看護補助者	カンファレンス室 4	1名
10月 1日	中途（看護補助者）追加研修 ※当院の感染管理体制・標準 予防策・職業感染対策につ いて	朽本	看護補助者	カンファレンス室 5	1名
10月 4日	新人看護師研修 ※感染対策研修（応用編）	入江	新人看護師	多目的ホール	38名
10月 16日	感染管理コース研修③ ※医療関連感染対策について	朽本	感染管理コース 研修受講看護師	中会議室	25名
10月 21日	エイドアシスタント オリエンテーション ※当院の感染管理体制・標準 予防策・職業感染対策につ いて	朽本	エイドアシスタント	カンファレンス室 4	1名
10月 22日	NICU 感染対策勉強会 ※手指衛生・清拭	入江	NICU 看護師	スタッフステーション	10名
10月 29日	5北感染対策勉強会 ※手指衛生・オムツ交換	入江	5北看護師	スタッフステーション	13名
11月 1日	中途（看護補助者）追加研修 ※当院の感染管理体制・標準 予防策・職業感染対策につ いて	朽本	看護補助者	カンファレンス室 4	1名
11月 20日	感染管理コース研修④ ※微生物検査検体について	朽本	感染管理コース 研修受講看護師	中会議室	26名

11月 22日	令和6年度第2回全職員対象 感染対策研修会+第1回抗菌薬適正使用支援研修会 ※感染症危機管理 ～次なるパンデミックに備えて地方の基幹病院ができること～ 専門医共通講習に該当	厚生労働省 感染症対策部 感染症対策課 松平慶先生	全職員 ※委託業者含む	多目的ホール e-learning	101名 1024名
11月 27日	中途（看護補助者）追加研修 ※当院の感染管理体制・標準予防策・職業感染対策について	朽本	看護補助者	カンファレンス室3	1名
12月 2日	エイドアシスタント オリエンテーション ※当院の感染管理体制・標準予防策・職業感染対策について	朽本	エイドアシスタント	カンファレンス室3	1名
12月 13日	外来 感染対策勉強会 ※手指衛生・オムツ交換	入江	外来看護師	外来33ブース	12名
12月 16日	8北感染対策勉強会 ※手指衛生・オムツ交換	入江	8北看護師 看護学生	8北スタッフステーション	20名
12月 18日	感染管理コース研修⑤ ※抗菌薬適正使用について	朽本	感染管理コース研修受講看護師	中会議室	27名
12月 19日	9南感染対策勉強会 ※手指衛生・オムツ交換	入江	9南看護師	9南スタッフステーション	15名
12月 27日	10北感染対策勉強会 2回目 ※手指衛生・オムツ交換	入江	10北看護師	10北スタッフステーション	13名

中央放射線室

月 日	講演・研修・勉強会	講 師	対 象	場 所	参加人数
1月 31日	中央放射線室 月例勉強会 *整形Dr.が本当に見た い膝画像	坂口	中央放射線室	中央放射線室 技師室	20名
2月 28日	中央放射線室 月例勉強会 *腹部ダイナミックCT 検査再考	松本	中央放射線室	中央放射線室 技師室	11名
3月 4日	中央放射線室 月例勉強会 *診療報酬改定について	小谷	中央放射線室	中央放射線室 技師室	13名
4月 25日	中央放射線室 月例勉強会 *金融リテラシー	赤島	中央放射線室	中央放射線室 技師室	18名
5月 30日	中央放射線室 月例勉強会 *個性との向き合い方	小山	中央放射線室	中央放射線室 技師室	9名

7月 29日	中央放射線室 月例勉強会 *アミロイド PET	川上	中央放射線室	中央放射線室 技師室	15名
9月 19日	中央放射線室 月例勉強会 *資産形成と資産運用	福本	中央放射線室	中央放射線室 技師室	10名
9月 25日	診療放射線技師による頭部領域 CT/MRI 画像の基礎	小山	救急外来	救急外来 会議室	15名
12月 12日	中央放射線室 月例勉強会 *決算書類と読み方	木原	中央放射線室	中央放射線室 技師室	15名
12月 19日	胸部領域の画像について	上山	救急外来	救急外来 会議室	15名

中央検査室

1. 中央検査室勉強会

月 日	講演・研修・勉強会	講師	対 象	場 所	参加人数	後日学習 人数
2024年 1月 17日	中央検査室勉強会 AMHについて	堀 智恵	臨床検査技師 病理診断科医師 医療助手事務員	中央検査室	17名	23名
2月 21日	中央検査室勉強会 ペースメーカーの基礎	小柴 鷹	臨床検査技師 病理診断科医師 医療助手事務員	中央検査室	16名	24名
3月 27日	中央検査室勉強会 下肢静脈瘤と治療について	前田沙紀	臨床検査技師 病理診断科医師 医療助手事務員	中央検査室	13名	19名
4月 17日	中央検査室勉強会 PIC・TAT	橋本佳子	臨床検査技師 病理診断科医師 医療助手事務員	中央検査室	18名	18名
5月 8日	中央検査室勉強会 梅毒検査について	森谷菜々子	臨床検査技師 病理診断科医師 医療助手事務員	中央検査室	17名	19名

5月22日	中央検査室勉強会 HLA抗体について	山元拓也	臨床検査技師 病理診断科 医師 医療助手事務員	中央検査室	15名	21名
6月12日	中央検査室勉強会 キャンピロバクター 感染症	林 智子	臨床検査技師 病理診断科 医師 医療助手事務員	中央検査室	13名	23名
6月26日	中央検査室勉強会 膀胱癌について	田中恭子	臨床検査技師 病理診断科 医師 医療助手事務員	中央検査室	17名	20名
7月10日	中央検査室勉強会 学会発表予行	川上智史	臨床検査技師 病理診断科 医師 医療助手事務員	中央検査室	25名	名
7月24日	中央検査室勉強会 ギラン・バレー症候群	宮脇可奈子	臨床検査技師 病理診断科 医師 医療助手事務員	中央検査室	20名	17名
8月28日	中央検査室勉強会 マイコプラズマ肺炎 について	遠藤美弥	臨床検査技師 病理診断科 医師 医療助手事務員	中央検査室	16名	21名
9月11日	中央検査室勉強会 異種移植	小田晋輔	臨床検査技師 病理診断科 医師 医療助手事務員	中央検査室	17名	21名
9月25日	中央検査室勉強会 試薬申請について	田中さゆり	臨床検査技師 病理診断科 医師 医療助手事務員	中央検査室	13名	24名
10月16日	中央検査室勉強会学会 発表予行	遠藤美弥	臨床検査技師 病理診断科 医師 医療助手事務員	中央検査室	25名	名

10月23日	中央検査室勉強会 学会発表予行	前田沙紀 浜本祐子	臨床検査技師 病理診断科医師 医療助手事務員	中央検査室	20名	名
10月24日	中央検査室勉強会 学会発表予行	谷上和弥 橋本佳子	臨床検査技師 病理診断科医師 医療助手事務員	中央検査室	25名	名
10月30日	中央検査室勉強会 学会発表予行	川上智史 福田水貴	臨床検査技師 病理診断科医師 医療助手事務員	中央検査室	23名	名
11月20日	中央検査室勉強会 学会発表予行	小柴 鷹	臨床検査技師 病理診断科医師 医療助手事務員	中央検査室	25名	名
11月27日	中央検査室勉強会 CAPD 廃液検査について	前田麻衣子	臨床検査技師 病理診断科医師 医療助手事務員	中央検査室	14名	23名
12月11日	中央検査室勉強会 輸血機能評価 I & A 認定について	佐々木崇雄	臨床検査技師 病理診断科医師 医療助手事務員	中央検査室	22名	16名
12月25日	中央検査室勉強会 WATCHMANについて	甲斐遙華	臨床検査技師 病理診断科医師 医療助手事務員	中央検査室	24名	13名

栄養管理室

NST勉強会

月 日	講演会・研修・勉強会	講 師	対 象	場 所	参加人数
1月 10日	アイソカルクリア（ジンジャー風味）について	ネスレ日本株式会社	NSTメンバ一	中会議室	18名
2月 7日	経腸マニュアルについて	岡本管理栄養士	NSTメンバ一	中会議室	16名

3月 6日	気管カニューレと嚥下について	松田言語聴覚士	NSTメンバー	中会議室	14名
4月 10日	昨年のNST介入者のまとめ	岡本管理栄養士	NSTメンバー	小会議室	19名
5月 1日	NST活動について	木村管理栄養士	NSTメンバー	中会議室	22名
6月 5日	栄養補助食品の試飲会	木村管理栄養士	NSTメンバー	中会議室	21名
7月 3日	GLIM基準について	アボットジャパン	NSTメンバー	中会議室	26名
8月 7日	エドルミズについて	小野薬品工業(株)	NSTメンバー	中会議室	22名
9月 4日	褥瘡・慢性創傷と栄養について	皮膚・排泄ケア認定看護師 下山看護師	NSTメンバー	中会議室	18名
10月 2日	入院から在宅栄養療法へ	森次MSW	NSTメンバー	中会議室	20名
11月 13日	NSTの光と影	ヨナハ丘の上病院 名譽院長 東口 高志	全職員	多目的ホール	110名
12月 4日	リハビリ栄養について	松田言語聴覚士 間庭理学療法士	NSTメンバー	中会議室	19名

薬剤部

開催日	研修・勉強会	講師等	対象	場所	参加人数
1月 31日	痛み止めについて	濱崎薬剤師	9北病棟看護師		11名
3月 13日	麻薬の保管・管理 Q & A	小松薬剤師	全職員	多目的ホール	29名
3月 18日	新人MA研修	西垣薬剤師	新規採用医療アシスタント	カンファレンス室4	
10月 23日	褥瘡に関連する外用薬 褥瘡対策委員会コース研修	小谷薬剤師	看護師	多目的ホール	30名

薬剤部内勉強会

開催日	研修・勉強会	講師等	対象	場所	参加人数
1月 10日	静脈栄養輸液について	中村薬剤師	薬剤部員	別館小会議室	15名

2月 7日	麻薬の取り扱い等に関する勉強会	浅井薬剤師	薬剤部員	別館大会議室	14名
2月 15日	褥瘡の評価（DESIGN-R2020）陰圧閉鎖療法（NPWT）について	小谷薬剤師	薬剤部員	別館中会議室	14名
2月 21日	感染症と抗菌薬①	西垣薬剤師	薬剤部員	別館中会議室	
3月 6日	がん薬物療法の情報収集について	渡邊薬剤師	薬剤部員	別館小会議室1	
3月 28日	SHOCKとその対応	濱崎薬剤師	薬剤部員	別館中会議室	16名
4月 24日	エンスプリング皮下注	中外製薬	薬剤部員	別館小会議室1	11名
5月 15日	レケンビ注	エーザイ株式会社	薬剤部員	別館小会議室1	17名
5月 22日	レブロジル	ブリストル・マイヤーズ・スクイブ株式会社	薬剤部員	薬剤部指導室	7名
5月 22日	ビロイ	アストラ製薬株式会社	薬剤部員	別館小会議室1	11名
5月 23日	サルプレップ	富士製薬工業株式会社	薬剤部員	別館小会議室1	15名
5月 29日	川崎病について	熊中薬剤師	薬剤部員	別館中会議室	16名
6月 12日	ピヴラツツ	ブリストル・マイヤーズ・スクイブ株式会社	薬剤部員	別館小会議室1	15名
6月 26日	急性期の脳梗塞治療について	福島奈菜薬剤師	薬剤部員	別館大会議室	11名
7月 10日	ベイフォータス	サノフィー	薬剤部員	別館大会議室	13名
7月 24日	糖尿病について	山根真弥薬剤師	薬剤部員	別館大会議室	12名
8月 7日	ビキセオス	日本新薬株式会社	薬剤部員	別館小会議室1	14名
8月 28日	大腿骨骨折患者に対する骨粗鬆症チームおよび薬剤師の活動	清水理央薬剤師	薬剤部員	別館大会議室	14名
9月 18日	アレセンサ	中外製薬	薬剤部員	別館小会議室1	10名
10月 2日	プレベナー20	ファイザー	薬剤部員	別館小会議室1	13名
10月 9日	TDMについて	田中宏樹薬剤師	薬剤部員	別館大会議室	14名
10月 16日	オラビ	久光	薬剤部員	別館中会議室	15名

10月30日	当院で使用される生殖補助医療の薬について（採卵まで）	義仲薬剤師	薬剤部員	別館中会議室	11名
11月12日	中央業務スリム化と病棟業務開始によるインシデントへの影響	田中恭平薬剤師	薬剤部員	別館中会議室	11名
11月20日	経腸栄養について	秋山薬剤師	薬剤部員	別館大会議室	13名
12月18日	ベクティビックスの副作用対策	福島雄太郎薬剤師	薬剤部員	別館中会議室	12名

がん相談支援センター

1. 主催 院内研修会

月 日	講演・研修・勉強会	講師	対 象	場 所	参加人数
毎月開催	ニューマン理論実践学習会	池田	看護師、医師、栄養士	麻酔科外来、8階カンファレンス室、多目的ホール	延べ261名

2. がん関連コース研修

月 日	内 容	講師	対 象	場 所	参加人数
8月24日	がん看護基礎研修 ※腫瘍学概論、がん手術療法概論、がん放射線療法概論、がん薬物療法概論、緩和ケア概論、事例検討	池田、濱野、中村、蘆田、橋本、樹下、木下、中山	看護師	多目的ホール	29名
11月16日	がん看護アドバンスト研修	池田、濱野、藤松、橋本、樹下、木下、中山	看護師	多目的ホール	13名

3. 他部局主催 院内研修会

月 日	内 容	講師	対 象	場 所	参加人数
1月25日	10北病棟勉強会「がん相談支援センターの活用」	池田	看護師	10階北病棟スタッフステーション	
4月 2日	新入職員オリエンテーション 「がん相談支援センターの活動について」	藤松	新入職員	多目的ホール	
5月 10日	部署別看護研究事前研修会	池田	看護師	多目的ホール	39名
8月 6日	看護局新人研修 麻薬と看護	濱野	看護師	多目的ホール	42名
8月 8日	リハビリテーション室勉強会「医療用麻薬について」	濱野	PT, OT, ST	リハビリテーション室	12名
8月 19日	8南病棟勉強会「がん疼痛マネジメント医療用麻薬の使い方」	濱野	看護師	8南カンファレンス室	

9月 4日	看護局新人研修 看取りの看護	濱野	看護師	多目的ホール	42名
9月 25日	外来勉強会「外来通院するがん患者への支援」	池田	看護師	麻酔科外来	
10月 29日	看護局ラダー研修Ⅲ 看護倫理研修	池田	看護師	多目的ホール	18名
12月 20日	10 南病棟勉強会「グリーフケア」	濱野	看護師	10 南病棟スタッフステーション	

臨床心理士室

がん関連コース研修

月 日	内 容	講 師	対 象	場 所	参加人数
11月 16日	がん看護アドバンスト研修	池田, 濱野, 藤松, 橋本, 樹下, 木下, 中山	看護師	多目的ホール	13名

他部局主催 院内研修会

月 日	内 容	講 師	対 象	場 所
4月 2日	新入職員オリエンテーション 「がん相談支援センターの活動について」	藤松	新入職員	多目的ホール

CPC レポート（第 158 回 中央病院 CPC）

研修医氏名：山根尚真，野口陽平，谷田 貴

CPC 年月日：2024 年 2 月 20 日

解剖番号：A1001

診療科：呼吸器内科 主治医・臨床指導医氏名：澄川 崇 病理解剖医：徳安祐輔

1. 臨床経過および検査所見と臨床診断

【症例】51 歳女性

【主訴】発熱・呼吸困難

【現病歴】

20XX/6/27 に発熱、呼吸困難が出現した。6/30 近医で COVID19 と診断され、対症療法を行っていたが、7/2 呼吸困難増悪したため A 病院救急外来受診し入院となった。

受診時 SpO2 80%台で、胸部単純 CT では両側末梢側優位のすりガラス影を認め、酸素、レムデシビル、デキサメタゾンが投与開始となった。酸素マスク 6L 投与でも PaO2 40mmHg と酸素化改善しなかつたため同日転院依頼があり当院に救急搬送された。

【既往歴・併存症】うつ病、不眠症、糖尿病'（入院後診断）

【アレルギー歴】なし

【家族歴】詳細不明

【生活歴】

喫煙：past smoker 20 本 / 日 22 年間

飲酒：なし

新型コロナワクチン未接種

【内服薬】

L-カルボシステイン錠 500mg 3T, トラネキサム酸錠 250mg 3T, コデインリン酸塩錠 5mg 3T, 口キソプロフェン Na 水和物錠 60mg 1T, ラモトリギン錠 100mg 2T, ベンラファキシン塩酸塩徐放力プセル 3C, アリピプラゾール錠 6mg 1T, アマンタジン塩酸塩錠 50mg 1T, アメジニウムメチル硫酸塩錠 10mg 2T, エスシタロプラムシュウ酸塩錠 10mg 2T, フルニトラゼパム錠 2mg 1T, ラメルテオン錠 8mg 1T, スボレキサント錠 20mg 1T

【搬送時現症・身体所見】

身長：160cm、体重：79kg、BT：36.2°C、BP：111/69mmHg、HR：87/min

RR：24/min、SpO2：88%（酸素マスク 10L）、GCS：15（E4V5M6）

胸郭挙上左右差なし、橈骨動脈触知可、末梢湿潤冷感なし、四肢末端冷感あり

【検査所見】

〈血算〉 WBC 7.17 × 10³/ μL, RBC 4.58 × 10⁶/ μL, HGB 13.8g/dL, PLT 223 × 10³/ μL 〈生化学〉 PCT 0.41ng/mL, ALB 2.9g/dL, CRP 16.65mg/dL, T-bil 0.4mg/dL, AST 47U/L, ALT 31U/L, ALP 106U/L, γ-GT 82U/L, LD 704U/L, CK 111U/L, AMY 42U/L, BUN 15.5mg/dL, CRE 1.10mg/dL, eGFR 41.79mL/min/1.73m², UA 8.4mg/dL, Ca 8.2mg/dL, IP 3.1mg/dL, Mg 2.0mg/dL, エリチン 513.1ng/mL, Na 135mmol/L, K 4.2mmol/L, Cl 96mmol/L, IL-6 189.4pg/mL 〈糖関連〉 Glu 171mg/dL, HbA1c 7.8% 〈凝固〉 PT 10sec, PT-INR 0.88, APTT 31.8sec D-dimer 1.2 μg/mL 〈静脈血ガス〉 pH 7.415, pCO₂ 43.7mmHg, cHCO₃- 25.7mmol/L, SBE 3.2 mmol/L, cLac 1.6 mmol/L

〈頭部 CT〉

頭蓋内に急性期出血指摘なし. 占拠性病変なし. 脳溝, 脳室拡大なし.

〈胸部～骨盤部単純 CT〉

入院時

肺動脈塞栓の指摘なし. 撮像範囲の下肢静脈に, 血栓を疑う造影欠損は指摘なし. 両肺末梢側を中心に広範囲に網状影, すりガラス影, consolidation が広がり, 肺炎の疑い. 胸水なし. 高度脂肪肝あり. 胆, 膵, 脾, 腎, 副腎に特記すべき所見は認めず. 膀胱壁肥厚なし. 子宮底部～後壁に膨隆, 濃染を認め, 筋腫の可能性あり. 腹水なし. リンパ節腫大なし.

第 15 病日

両側少量（左>右）胸水が出現し, 両下葉に（圧排性）無気肺が疑われる.

また, 両肺末梢側を中心に広がる網状影, すりガラス影, consolidation は, 左上葉では軽減. 右肺尖部や, 上中下葉肺門側有意にすりガラス影増強. 右肺底部では小葉間隔壁肥厚や肺血管影増強も疑われる. 心拡大は目立たず. 高度脂肪肝はあるが軽減している.

【入院時プロブレムリスト】

- #. 重症 COVID-19
- #. ワクチン未接種
- #. 肥満
- #. ARDS
- # 糖尿病

【入院後経過】

EC 入院後, HFNC, 腹臥位療法による呼吸療法, COVID-19 に対する特異的治療として抗ウイルス薬・免疫抑制薬・抗凝固薬投与（ベクルリー, アクテムラ, デカドロン, ヘパリン）が開始された.

上記治療により炎症反応, 酸素化共に改善を認めた.

Day5 には酸素投与もハイフローから鼻カニュラに変更でき, 抗ウイルス薬が終了. Day6 に一般病棟へ転棟となった. 解熱薬内服なしで発熱無く経過していたが, 白血球は増加傾向にあった. 一般病棟転棟後, Day9 より 39°Cまでの発熱と白血球増加を認めた.

血液・尿培養を提出し, 尿路感染疑いとしてセフメタゾールによる抗生素加療が開始された.

その後 Day12 に血液培養で黄色ブドウ球菌が陽性となり, 翌日より抗生素はセフェピムに変更となった. 同時期に両手掌の発赤が指摘されていた. また Day13 には血小板の低下もみられた. 発熱の経過中には CRP の上昇は認められなかった. 抗生素変更後, 大きな熱発無く, 白血球数・炎症反応も横ばいであったが, Day15 に酸素化不良・呼吸状態悪化にてハイフロー再開し, 再び HCU 管理となった.

その後徐々に酸素投与漸減に向かえていたが, Day18 に突然心静止状態となり, 蘇生を試みたがその後死亡が確認された.

入院中の胸部レントゲン

入院時に見られていたすりガラス影は Day8 まで改善傾向であったが Day13 にすりガラス影増悪・胸水貯留と, その後も悪化の一途をたどった. この時呼吸状態悪化の原因として, 新規肺炎や遅発性の器質化肺炎増悪などが疑われた.

経過まとめ

新型コロナワクチン未接種、肥満、喫煙歴、未治療の糖尿病のある50代女性が発熱、呼吸困難を主訴に入院。酸素療法、抗ウイルス薬、免疫抑制・調節薬、抗凝固薬で救急科にて加療開始した。Day6 HFNCからNC3Lとなり呼吸器内科転科となった。Day10 発熱あり尿路感染疑いとしてCMZ開始となった。Day12 尿培でE.coli陽性、血培でS.aureus(MRSA-)陽性となった。Day13 WBC低下乏しくCMZ→CFPMに変更した。Day15 COVID陰性化し発熱もないが呼吸状態・画像所見が悪化したためNCからHFNCへ戻した。その後酸素投与漸減向かえていたが、Day18 昼食後に突然CPAとなった。

2. 病理解剖診断と主な所見

1. 高度肺うつ血、Diffuse alveolar damage pattern（浸出期～器質化期）（左630g/右1020g）
2. 感染性心内膜炎（大動脈弁疣贅）・心外膜炎・心筋炎（425g）
3. 敗血症
 - a. 左腎梗塞および両腎多発性微小膿瘍
 - b. 感染性心内膜炎・心外膜炎・心筋炎
 - c. 甲状腺微小膿瘍
4. 高度脂肪肝

3. 臨床的疑問点とその回答

- ①二度目の呼吸不全の原因は何か：急性心不全、肺塞栓症
- ②突然死の原因は何か：弁疣贅による大動脈塞栓

4. CPCにおける討議内容、考察

- ①いつから感染性心内膜炎(IE)を発症していたのか
- ②感染源はどこか
- ③COVID19感染とIEとの関係性
- ④IEで突然死はあるのか
- ⑤血小板低下の原因は何だったのか

①いつから感染性心内膜炎(IE)を発症していたのか

まず、IEのリスク因子としては先天性心疾患や弁膜症、IEの既往、歯科治療歴、心血管手術歴、静注薬物常用歴、血液透析やカテーテルなどがリスク因子としてあげられる。本症例ではリスク因子はあげられなかった。次にIEの診断基準について、大基準、小基準があり、それぞれの組み合わせで確定診断または疑い診断を付けることが出来る。大基準は血液培養陽性、疣贅や弁膜症など心内膜が侵されている所見の2つ。小基準はIE発症の素因、発熱、血管現象、免疫学的現象、微生物学的所見の5つがあげられる。これらの基準を本症例に時系列順に当てはめると、Day1からの抗COVID薬静注、Day9に発熱、Day12にJaneway病変用の手掌発赤、血液培養陽性、そして病理解剖で疣贅の指摘があった。小基準①の静注薬常用に本症例が当てはまるか調べてみるとIE発症のリスクになる静注薬常用は薬物を乱用する程度のもので、今回のような数回の静注程度ではリスクとはならず。また、静注薬物常用者は右心系に疣贅を作りやすい事が知られており、今回の症例には当てはまらなかった。本症例では小基準①は入れないこととした。以上を踏まえる

と、本症例では血液培養陽性、発熱、Janeway 発疹（+）を認め、Day12 には感染性心内膜炎の疑い診断がついた事が分かった。そして病理解剖で左心室内に疣状が指摘され、はじめて IE の確定診断がついた。黄色ぶどう球菌による IE は基礎心疾患のない患者でも感染し、急激に症状が悪化することが知られており、入院時の血液培養は 2 セット陰性であったが、2 セットでの陽性検出率は 90% であり、偽陰性であった可能性は低い。また、来院時の救急外来での心エコー所見に弁疣状など特記記載はないため、入院後の急速発症と考えた。以上から、考察①に対する回答として、IE リスクのない 50 代の女性が入院後から Day9-12 の間に黄色ブドウ球菌による感染性心内膜炎を急速に発症したと考察した。

② 感染源はどこか

まず、もう一度 HCU に戻った後の症状や採血データ、デバイスなどについて整理すると、症状については発熱（Day10-）、頻脈、関節痛手掌発赤（Day12）があった。血液検査項目は本症例では白血球上昇、CRP 高値が認められた。デバイスは静脈ライン 2 本と A ライン 1 本（A ラインは Day5 抜去）。いずれも感染徵候はなかった。基本的に黄色ブドウ球菌が感染症を起こす臓器は、皮膚・軟部組織、粘膜組織、血管・血流、人工デバイス関連、骨髄（骨組織）、関節などといわれている。血液培養から MSSA/MRSA が分離された時にまず確認するべきは人工デバイス、静脈カテーテル（中心静脈も末梢静脈も）であり鑑別としては、感染性心内膜炎、皮膚・軟部組織（褥瘡を含む）、骨髄炎・化膿性脊椎炎、化膿性関節炎、腸腰筋膿瘍などの深部膿瘍を考える。本症例では皮膚・血管か肺経由での感染を疑った。血管だとカテーテル感染がうたがわしく、（Day2-）両足足底の落屑がみられた。肺だと COVID 感染に併発した細菌性肺炎の可能性も考えられた。デバイスは静脈ライン 2 本と A ライン 1 本（A ラインは 7/6 抜去）。いずれも感染徵候はなかったが、感度が低くデバイス挿入部に症状無くても否定はできないことと、そもそも S.aureus は特殊な状況に無い限りは下気道に感染を起こしにくく、純粋に呼吸器感染症を発症するのはまれであることから肺よりも皮膚・血管からの感染が考えられた。カテーテル感染血流感染症について、診断は少なくとも 1 つの経皮的に採取された血液培養とカテーテル先端培養が陽性であること、または経皮的血液採取とカテーテルから採取された血液培養陽性であることが条件となっている。発生素因としては挿入部位の皮膚微生物が皮下のカテーテル経路に侵入したり、カテーテルの表面に沿って入り込んだりして、カテ先端でコロニー形成されること、手指や汚染された輸液剤または器具の接触によるカテーテルまたはカテーテルハブの直接的な汚染、発症頻度は不明であるが、他の感染病巣からカテーテルに血行性の播種が起こる場合、輸液汚染があげられる。リスク因子としては慢性疾患、低栄養、血流感染の既往、高カロリー静脈栄養投与、免疫抑制患者、高齢、皮膚障害があるが、本症例では免疫抑制、皮膚障害があげられた。一般的に留置期間短い場合は CRBSI のリスク低くなるがアトピー性皮膚炎や尋常性乾癬などにより慢性皮膚炎を有する場合や皮膚保清が不十分な患者ではブドウ球菌や *Bacillus* などの皮膚常在菌が増殖し末梢でも CRBSI のリスク高くなることがわかっている。本症例でも皮膚状態は悪く、末梢カテーテルでの感染リスクが高まったと推察された。以上のことから感染源は末梢静脈カテーテルまたは動脈カテーテルが疑わしいと考えた。

③ COVID19 感染と IE との関係性

COVID19 肺炎合併症としては静脈性血栓症、動脈性血栓症、細菌感染、心血管異常、多系統炎症性症候群（MIS）などがあげられる。凝固異常（様々な機序で静脈性血栓症、動脈性血栓症をきたしやすい）には未分化ヘパリンが有効であり、重傷例において比較的高率に血小板第 4 因子抗

体が陽性となることがわかっている。その他細菌感染を合併するが、どの程度かはバラツキが大きい。重傷例では1%程度で肺アスペルギルス症が確認されている。心血管異常については心不全17.6%，心筋障害16.3%，不整脈9.3%，急性冠症候群6.2%。60%で心筋の炎症を認めたという報告もある。COVID19感染症に罹患すると感染性心内膜炎の罹患リスクが有意に上昇するというデータは無い。以上のことからCOVID19感染自体がIEのリスクとなる可能性は低いと考えられた。

④ IEで突然死はあるのか

IEでの死因は疣状の肺・脳・冠動脈・大動脈塞栓による突然死のほか、心不全や全身状態不良による死亡があげられる。本症例でIEが突然死の原因とすると、病態としては肺塞栓、冠動脈塞栓、大動脈弁塞栓が考えられるが、病理解剖では冠動脈塞栓や、大きな肺塞栓がなかったこと、大動脈弁に15mm程度の疣状があることを考えると大動脈塞栓が一番疑わしいと考えられる。疣状の大動脈弁塞栓について調べたところ、人工弁患者による大動脈弁疣状が冠動脈に詰まり突然死を引き起こした症例は報告があったが、自然弁患者の大動脈弁疣状による突然死報告は調べた限りでは報告はなかった。IEによる突然死は疣状の塞栓が主であるが本症例では病理所見から大動脈弁塞栓による突然死が可能性として考えられた。

⑤ 血小板低下の原因は何だったのか

前述の通りCOVID19重傷例において比較的高率に血小板第4因子抗体が陽性となることがわかつておおり、本症例でも血小板が低下していたためヘパリン起因性血小板減少症（HIT）を疑った。HITとはヘパリン投与が原因となり免疫機序を介して血小板減少と血栓塞栓傾向を起こすことであり、HITにはI型とII型がある。臨床的HITはII型をさし、II型の特徴としてはヘパリン使用後5-14日後に発症し、動静脈血栓が生じ、ヘパリン中止で回復し、抗凝固療法が治療となる。HITは4Tsスコアを使用して臨床診断する。項目としては血小板減少、ヘパリン開始から血小板減少出現まで、血栓およびHITの皮膚症状、血小板減少の原因の以上4項目でスコアリングし、4点以上で治療開始されるべきである。本症例ではDay13に血小板が低下していることがわかった。4Tsスコアを用いると計6点でありHITとしてアルガトロバンでの治療開始が望ましい。DICについて、DICとは敗血症や外傷、悪性腫瘍などの基礎疾患の存在下に、持続性の凝固活性化を来たし微小循環内に血栓が多発する病態である、出血症状と臓器症状が出現すると死亡率が著しく上昇する。症状が出現する前に対応開始することが原則であり診断には急性期DIC診断基準を用いる。SIRS、血小板、PT比、FDP（Dダイマーで代替可）の項目で評価し、4点以上でDIC判定となる。本症例では合計3点であり、診断基準は満たさなかった。以上より、DICは否定的だが、HITは発症していた可能性が高いと考察された。

結語

重症COVD19肺炎治療経過中に感染性心内膜炎、ヘパリン起因性血小板減少症を併発し、全身状態悪化した後に大動脈弁疣状による大動脈塞栓により突然死した症例を経験した。

Take Home Message

感染性心内膜炎は症状が多彩なため診断が難しく、他の感染症と誤認されていることもある。感染巣を特定できない発熱患者、他の疾患で一元的に説明することができない多臓器の異常を示す患者を診察した際には鑑別にあげる必要がある。

【参考文献】

Res Pract Thromb Haemost 2020 ; 4 : 936-41

Proc Natl Acad Sci USA2022 ; 119

Okamoto's 目で見る HIT 2008 改変

Warkentin TE, J Thromb Haemostat 8 : 1483, 2010 改変

ICU 実践ハンドブック改訂版 病態ごとの治療・管理の進め方 2019 清水敬樹

Dr. 竜馬のやさしくわかる集中治療 循環・呼吸編 改訂版

総合内科病棟マニュアル 疾患ごとの管理 第2版 2022 筒井貴彦 p.780

感染症最新の治療 2022-2024 藤田次郎 p110

ICU 実践ハンドブック 根井 貴仁 p.453-455

総合内科病棟マニュアル 疾患ごとの管理 p.746

JAID/JSC 感染症治療ガイドライン 2017 -敗血症およびカテーテル関連血流感染-Lancet Microbe 2021 ; 2 ; e405-404

CPC レポート（第 159 回 中央病院 CPC）

研修医氏名：牧田大瑚，古川雅大，三田奈津実

CPC 年月日：2024 年 5 月 14 日

解剖番号：A1004

診療科：総合内科 主治医・臨床指導医氏名：有田和正 病理解剖医：小田晋輔

1. 臨床経過および検査所見と臨床診断

【症例】69 歳男性

【主訴】発熱

【現病歴】塞栓性脳梗塞を伴う急性大動脈解離に対して、保存的加療が行われていた。20XX/5/5 急性大動脈解離 StanfordB 発症、当院胸部外科入院。5/12 逆行性に伸展し StanfordA 発症、同時に右中大脳動脈に塞栓性脳梗塞発症、左不全麻痺となる。7/31 前医回復期リハビリ病棟に転院するも、動脈瘤破裂の不安からカリハビリに消極的だったよう。解離に対して改めての手術希望あり当院心臓血管外科受診したが、フレイル進行し適応なし。

20XX/9/10 発熱、尿路感染として加療（詳細不明）し解熱。9/25 38°C 前後の発熱あり。9/26 セファレキシン内服も解熱せず。9/28、CRP12、軽度肝機能障害あり、CT で胆嚢結石あるも腫大なし。その後セフトリアキソン投与も改善なし。10/1 ドリペネム使用も改善なし。10/3 热源精査目的に当院総合内科入院。

【既往歴】急性大動脈解離 Stanford A、高血圧（不定期通院）、腎疾患（詳細不明）

【アレルギー歴】なし

【家族歴】詳細不明

【生活歴】

ADL：急性大動脈解離以前は自立

仕事：何でも屋（ユンボ、トラックの運転、解体など）

喫煙：電子タバコ 何本かは不明

飲酒：ほぼ毎日 ビール 350mL1-2 本、ウイスキー 1 杯

【内服薬】

前医神経内科より

デエビゴ錠 5mg 1T 1日 1回寝る前

アレジオン錠 10mg 1日 1回寝る前

【入院時現症】

意識清明

BT : 39.9°C HR : 151bpm BP : 132/87mmHg SpO₂ : 96% (O₂ 3L)

【身体所見】

胸部：呼吸音清 ラ音なし

腹部：平坦 やや硬 腹部全体に圧痛あり

CVA 叩打痛 : +/++

四肢：浮腫なし 热感あり

肩、肘、手首、膝、足首の関節に腫脹や圧痛なし

【検査所見】

〈血液検査〉

プロカルシトニン 238.21ng/mL (CLIA), TP 5.5g/dL, ALB 2.4g/dL, CRP 17.41mg/dL, T-Bil 0.5mg/dL, AST 28U/L, ALT 44U/L, ALP (IFCC) 421U/L, γ-GT 147U/L, LD (IFCC) 165U/L, CK 13U/L, BUN 94.2mg/dL, CRE 4.42mg/dL, eGFR 11.32ml/min/1.73 m², UA 8.7mg/dL, Ca 9.9mg/dL, Fe 16 μ g/dL, UIBC 142 μ g/dL, フェリチン 1141.6ng/mL, Na 134mmol/L, K 5.0mmol/L, Cl 98mmol/L, WBC 6.89 10³/ μ L, RBC 2.22 10⁶/ μ L, HGB 6.9g/dL, MCV 95.5fL, PLT 58 10³/ μ L, NEUT # 機 6.58 10³/ μ L, LYMP # 機 0.18 10³/ μ L, PT-INR 1.15, APTT (秒) 34.8 秒, D ダイマ 52.6 g/mL

抗 DNA 抗体 (RIA) <=1.7IU/mL MPO-ANCA<0.2IU/mL

PR3-ANCA (C-ANCA) <0.6IU/mL 抗核抗体 (ANA) 抗核抗体抗体価 <40 倍

HOMOGENEOUS 型 <40 倍 SPECKLED 型 <40 倍 NUCLEOLAR 型 <40 倍

CENTROMERE 型 <40 倍 PERIPHERAL 型 <40 倍 核膜型 <40 倍

PCNA 型 <40 倍 PCNA 様型 <40 倍 GRANULAR 型 <40 倍 細胞質型 (-)

sIL-2R 3387U/mL

静脈血 2 セット 培養陰性

尿 培養陰性

〈胸部～骨盤部単純 CT〉

【所見】

2023/05/29 の CT、他院 10/02CT と比較しました。

胸部～骨盤部単純 CT

上行大動脈～SMA 分岐 level の腹部大動脈まで解離を認めた症例です。

5月の CTとの比較では、上行大動脈は 45 → 51mm、増大。大動脈弓部 53 → 69mm、頭尾方向 53 → 82mm、上方に凸、著明に増大。下行大動脈 42mm 不変。

腕頭動脈（14 → 15mm），右総頸動脈（8 → 8mm）に解離を認めましたが、単純CT上、径の増大なし。
少量心嚢水、濃度は26HU程、血性r/o。
左多量胸水は同程度、濃度は低いです。舌区、下葉無気肺を伴っています。
左上葉末梢に軽度の粒状影、軽度の炎症性変化s/o。
両側腋窩に石灰化リンパ節散見（+）、腫大（-）。炎症性肉芽腫疑い。

胆石（+）、胆嚢体部-底部に壁肥厚・括れ（+）。腺筋腫症s/o。
両腎萎縮、両腎囊胞（+）、肝・脾・脾・副腎に特記所見（-）。膀胱虚脱。
腹水貯留（-）。リンパ節腫大（-）。

【診断】

急性大動脈解離、再解離。Stanford type Aへの移行後：上行～弓部は増大し解離性動脈瘤となって
います。弓部は上方に凸で著明増大。左胸水、無気肺s/o：前回同様、血胸は見られません。少量
心嚢水：血性r/o

〈心エコー〉

傍胸骨、心尖部view描出poor。LA、LV拡大なし。LV明らかなasynergyなし。
EF=60.9% E/e' = 10.83mildAR
心嚢液右室側に少量あり。明らかな疣腫等は確認出来ませんでした。

【入院時プロブレムリスト】

- #発熱
- #炎症反応の上昇
- #細菌感染症の疑い
- #腎障害（腎前性+腎性の疑い）
- #高K血症
- #貧血
- #脳梗塞後
- #急性大動脈解離（Stanford A）

【入院後経過】

前医でドリペネム（カルバペネム系）、セファレキシン（第一世代セファロスボリン系）、CTXを投与されており、カバーされていない菌腫はMRSAおよび腸球菌であったため、ダプトマイシン（環状リポペプチド系）を併用した。発熱に伴う脱水をきたしており、腎前性の要因で腎障害を起
こしているとの診断のもと、輸液負荷を行った。熱源ははっきりせず、一旦抗菌薬フリーとして
数日経過観察し、各種培養を再評価の上、抗菌薬を再開する方針として入院2日目に抗菌薬を終了した。入院6日目発熱なく経過し、採血結果も改善傾向。培養再度提出、後日静脈血2セット
が陰性で返ってきていた。入院7日目は夕食も8割程度摂取しており、バイタルサインも大きな
変動はなかったが、8日目の午前0時頃より咳嗽が持続。吸引で大量の痰が回収された。0:30
頃SpO2が80%中盤に低下し経鼻カニューラ2Lで酸素投与を開始。酸素化は速やかに改善。血圧
は90～100程度で推移。1時頃から不穏あり、スタッフが傍を離れると大声を出す様な状態だつたところ、心拍数が急激に90前後から40台まで低下。急変時DNARとなっていたため胸骨圧迫
などの処置は行わず、30分ほどで心静止に至り、死亡確認となった。死後CTで大動脈解離の破裂の診断。

2. 臨床的疑問点

1. 発熱・炎症反応高値の原因
2. 死因：解離の破裂
3. 病理解剖診断と主な所見

【主病変】

胸部大動脈解離（Stanford A型），左肺内穿破，左胸腔内出血（胸水含む 2000mL）

前立腺癌（Gleason score 3+3=6）：apT2,NX,MX

甲状腺乳頭癌：apT1a,NX,MX

【副病変】

慢性心外膜炎（238g）

急性尿細管障害，急性／慢性腎盂腎炎，巣状分節性糸球体硬化症（左 118g：右 105g）

上行結腸 低異型度管状腺腫

胆囊腺筋症，胆囊結石

骨髓過形成

腔水症（右胸水 500mL，黄色透明；腹水 400mL，黄色透明）

4. 臨床的疑問点についての考察

①発熱・炎症反応高値の原因

発熱と炎症反応高値を示す感染症として，肺炎，膿胸，感染性心内膜炎，尿路感染，肝膿瘍，腹腔内膿瘍，EB・CMV・HIV 感染症，単純ヘルペス脳炎，歯根膿瘍，偽膜性腸炎が挙げられる。それぞれの感染症について，本症例は肺炎（CTで左上葉末梢に軽度粒状影，既知の左多量胸水），感染性心内膜炎（心エコーで疣贅指摘なし，病理で軽度慢性心外膜炎の所見），尿路感染（尿培（-），病理で尿細管に急性腎盂腎炎の所見）が該当すると考えられる。他の感染症については CT や病理で特に指摘がないか，検査未提出のために検討ができていない。

薬剤熱の可能性も考えられる。初発の発熱は前医入院中の 9/10 にあり，加療後解熱が得られている。9/25 に再度発熱し，以降は第一，第三世代セフェム系，カルバペネム系の各種抗生剤投与に反応性悪く解熱が得られないまま当院入院となつたが，入院初日メロペネム投与後すぐに解熱が得られ，死亡するまでの 8 日間は解熱状態を維持している。前医での加療詳細が一部不明だが，1 度目の発熱は加療で解熱得られており，薬剤熱は否定的である。2 度目の発熱は原因不明であるが前医抗生剤加療で解熱得られず，何らかの要因で発熱し，その後の抗生剤加療で薬剤熱が加わった可能性はある。

自己抗体，抗核抗体すべて陰性，発熱以外に膠原病を疑う症状（関節痛，筋肉痛，皮疹）なく，膠原病は否定的。

血液疾患についても検討した。sIL-2R 3387U/mL，フェリチン 1141.6ng/mL の高値，赤血球と血小板の 2 系統が減少，肝障害も認める。フェリチンと sIL-2R が高値となる疾患としては，成人 Still 病や悪性リンパ腫，自己免疫性疾患などが起点となった血球貪食症候群が代表的。

悪性リンパ腫について，発熱や体重減少，盗汗などの症状があり，無痛性リンパ節腫大が特徴。本症例では発熱に加え，約 2 ヶ月で 5kg の体重減少を認めており，血液検査の腫瘍マーカーなども合わせて血液内科コンサルトを予定していた。悪性リンパ腫は Hodgkin リンパ腫と非 Hodgkin リンパ腫があり，悪性リンパ腫の 95% が非 Hodgkin リンパ腫である。一方で Hodgkin リンパ腫は

若年者と高齢者の 2 峰性ピークを持ち、3-10 日発熱しては解熱し再び発熱を繰り返すペル・エプスタイン型の波状熱が特徴的である。本症例は 69 歳と高齢、発熱と解熱を繰り返している点で、悪性リンパ腫の破瓜では少数派である非 Hodgkin リンパ腫を積極的に考える。確定診断のためにリンパ節生検が必要であり、血液内科コンサルトの前に死亡したため検査は実施できていない。

病理にて過形成性骨髓の所見があつたことについては、骨髓異形成症候群の可能性を否定できない。骨髓異形成症候群は過剰な造血で骨髓過形成となり、無効造血のため 1 系統以上の汎血球減少を認める。白血球の減少があれば易感染性で発熱を認める。本症例では入院前に発熱した際 CRP が 17.41mg/dL まで上昇していたにも関わらず、白血球が正常範囲内であり血球減少とも考えられそうであった。しかしながら、入院後に白血球増加認め赤血球と血小板の 2 系統減少にとどまっている。確定診断のためには骨髓検査や末梢血での芽球や血球の異形成を同定する必要があり、本症例ではそこまで至っていない。

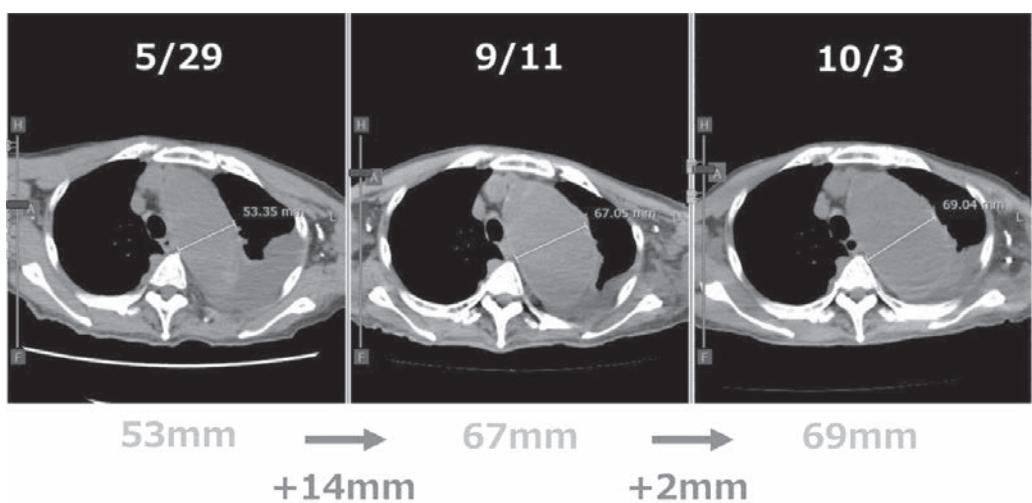
最後に、成人 Still 病は弛張熱 ($> 37^{\circ}\text{C}$) または間欠熱 (日内変動 $> 1^{\circ}\text{C}$)、サーモンピンク疹、関節炎、咽頭痛、リンパ節腫脹、肝脾腫、心外膜炎、リウマトイド因子陰性、抗核抗体陰性が代表的な症候であり、本症例は弛張熱や心外膜炎、抗核抗体陰性が該当する。診断基準によると大きく大項目と小項目に分けられ、大項目 2 つを含む合計 5 項目以上を認め、除外項目全てに該当しない場合に成人 Still 病と診断する。また、参考項目として血清フェリチンが正常上限の 5 倍以上に著増していることも挙げられる。大項目は 1. 39°C 以上の発熱が 1 週間以上持続 2. 関節痛が 2 週間以上持続 3. 定型的発疹 4. 80% 以上的好中球増加を伴う白血球増加。小項目は 1. 咽頭痛 2. リンパ節腫脹または脾腫 3. 肝機能異常 4. リウマトイド因子陰性および抗核抗体陰性。除外項目は 1. 感染 (特に敗血症、伝染性单核球症) 2. 悪性腫瘍 (特に悪性リンパ腫) 3. 膜原病 (特に結節性多発動脈炎、悪性関節リウマチ)。本症例では大項目 4. 80% 以上的好中球増加を伴う白血球増加、小項目 3. 肝機能異常、4. リウマトイド因子陰性および抗核抗体陰性の合計 3 項目のみ該当するにとどまる。また大項目 1. 39°C 以上の発熱が 1 週間以上持続について、日内変動が 2-3°C ありつつ 39°C の発熱が 5 日間持続するにとどまり、診断基準の 1 週間には至らなかった。参考項目は満たしていない。除外項目については 1. 感染は血培尿培共に陰性だが病理にて腎孟腎炎の所見あり、2. 悪性腫瘍は血液内科コンサルトの上精査予定としていたがその前に死亡、3. 膜原病は自己抗体陰性のため除外できる。以上より成人 Still 病の診断は完全に満たせず確定診断には至らなかった。

発熱・炎症反応高値の原因として、大動脈解離と瘤の可能性を考察する。発熱は亡くなる 1 ヶ月前から出現している。一度は尿路感染として抗生素治療され解熱している。その後は抗生素使用するも、発熱が 1 週間ほど持続している。当院転院後は入院初日に 39.0°C の発熱があつたが、それ以降解熱得られている。

入院前	8/30	9/11	9/20	9/26	9/28	10/2
WBC ($10^3/\mu\text{l}$)	6.4	4.2	6.0	6.6	7.8	4.2
NE% (%)	77.0	82.0	72.6	76.1	86.4	74.3
CRP (mg/dl)	5.70	8.84	2.71	5.25	12.43	17.09

入院後	10/3	10/4	10/6	10/8
WBC ($10^3/\mu\text{l}$)	6.89	15.20	12.23	10.23
NE% (%)	95.6	87.2	85.1	81.7
CRP (mg/dl)	17.41	20.31	7.70	4.79

上記は前医検査結果と転院後の検査結果を白血球数, 好中球割合, CRP に絞ってまとめたもの。前医での入院経過中は以前から CRP は 5 度までの上昇は認めていたよう。9/10 に発熱が認められ, CRP, 好中球割合の上昇がみられた。その後抗生素治療の後は解熱し, 血液検査上も改善している。9/25 から再発熱しており, 9/28 の血液検査では CRP の再上昇を認めている。転院後も炎症反応依然高値で 10/4 に白血球数の上昇を認めているが, 10/8 には炎症反応低下認めている。



上記は胸部 CT にて大動脈瘤の最大短径である大動脈弓部の径の変化を比較した図である。5/29 は前回当院入院中に最後に撮影された CT 画像で, 9/11 は前医で 1 回目の発熱を認めた際に撮影された CT 画像, 10/3 は当院転院後に撮影された CT 画像である。53mm, 67mm, 69mm と顕著に拡大を認めている。5/29 から 9/11 までは 14mm の拡大を認めている。9/11 から 10/3 まで 2mm の拡大を認めており、短期間ですでに大きい血管腔がより拡大していることが分かる。以上をまとめると、抗生素治療によっても所見の改善が得られなかったこと、以前の CT 画

像と比較し、大動脈径は著明に増加していること、病理で大動脈解離部に炎症があることから、大動脈解離・瘤による発熱の可能性が考えられる。大動脈解離による発熱について述べる。大動脈解離発症後に血管の炎症、凝固線溶系の活性化から全身の炎症が引き起こされ、約3割に38°Cを超える発熱を認める。発熱も大動脈解離の主訴となり得る。大動脈解離は無痛性、症状が判然としない症例も認められている。よって、発熱は大動脈解離の診断遅延因子になると報告されている。2回目の発熱（9/25）から再解離が進行し発熱した可能性は考えられる。9/28から10/3の間でCRP上昇、BUN上昇、腎障害の進行を認めている点からも解離の進行が推察される。1回目の発熱（9/10）は解熱、所見の改善が得られており、病理所見からも腎孟腎炎によるものである可能性は高い。

感染性大動脈瘤の可能性についても考察する。感染性大動脈瘤は全大動脈瘤の約1%であり、経過が早く高率に破裂しやすいとされている。今回も典型例と同様に初期の段階から抗生素治療がなされており、マスクされ、感染性の瘤を形成していた可能性はある。感染性大動脈瘤の検査には造影CTが有効とされる。囊状動脈瘤が9割で、動脈瘤周囲に軟部陰影や液体貯留、ガス像を認める。また急速な動脈瘤の進行に伴う動脈瘤周囲の脂肪織混濁も認める。FDG-PETもまた有効であるとされている。両者ともに撮影なく詳細な判断はできないが、画像上でも積極的に疑う所見はなかった。病理解剖でも積極的に感染瘤を疑う所見はなかった。

②死因：解離の破裂

当初、Stanford B型解離を発症した時点で疼痛のコントロールが難しく、手術適応となり得る状況であったが、保存的に経過をフォローしていた。

発症1週間後に逆行性に解離が進展しStanford A型となり右MCA領域の脳梗塞も併発。左不全麻痺が出現した。

大動脈解離に対する手術のリスクに関しては、本邦で多く用いられているJapan SCOREを用いて算出すると当初のB型解離の時点でも30日予測死亡率22.6%、30日予測死亡率+主要合併症発症率57.2%と相当に高リスクであったと考えられる。また、A型解離への進展後に神経学的異常も生じており、その時点で計算すると30日予測死亡率で34.6%、30日予測死亡率+主要合併症発症率で70.5%と非常にリスクが高く、外科的治療は困難な状況であったと考えられる。

Japan SCOREの算出項目を以下に示す

Height 173cm, BW 55.2kg

Smoking : Yes

DM : No

Therapy for DM : No

Preop. Cre : 2.18mg/dL

Chronic Resp. dysfunction : Missing

Neurologic dysfunction : Yes

Marfan Synd. : No

History of (T) EVAR : No

Anticoagulants : No

LMT disease : No

LV function : Good

Redo surgery : No
Surgery: Emergent
CABG : No
Unexpected CABG : No
Aortic aneurysm type : Dissection

欧洲からの報告を元に開発された周術期リスクスコアである Euro SCORE II では周術期予測死亡率が 5.64% であり Japan SCORE との乖離が大きいが、Euro SCORE には喫煙歴、神経学的異常など Japan SCORE で該当する項目が含まれていないことが要因として考えられる。

EuroSCORE II の算出項目を以下に示す

69y.o.

Male

Patient related factors

Chronic lung disease : No

Extracardiac arteriopathy : No

Poor morbidity : No

Previous cardiac surgery : No

Active endocarditis : No

Critical preoperative state : No

Renal impairment : Severe

Diabetes or Insulin : No

Cardiac related factors

CCS angina class4 : No

LV function : Good

Recent MI : No

NYHA class : I

Operation related factors

Surgery on thoracic aorta : Yes

Urgency of operation : Emergency

Weight of operation : Single non CABG

※これらのリスクスコアは日本、欧洲のデータベースをもとに作成され、HP で上記の項目を入力すると周術期リスクが算出できるが、その計算式については公表されていない。

【質疑応答】

Q. 発熱の原因として結核の可能性はないか。

A. 生前に結核関連の検査は行われていないため、熱源として結核の可能性も否定はできない。結核にしては発熱が高度であり、熱型からは可能性は低いと考えられる。また病理所見上、肺など

に結核を疑う乾酪性肉芽腫の所見もなく、結核を積極的に疑うには所見に乏しいと考える。

【参考文献】

Medicina Vol.60 No.10 2023-9

臨床画像 vol.37 No.9 2021

特集 地力が伸ばせる心臓・大血管の画像診断

CPC レポート（第 160 回 中央病院 CPC）

研修医指名：清水創太、加納成優

CPC 年月日：2024 年 8 月 20 日

解剖番号：A1006

診療科：神経内科 主治医：水滝智香 病理解剖医：徳安祐輔

1. 臨床経過および検査所見と臨床診断

【現病歴】

本症例は 76 歳男性であり、パーキンソン病を主疾患として長年 A 病院脳神経内科を受診していた。10 年以上の経過の中で、X-1 年ごろより食事量の減少と体重減少、さらにむくみが目立つようになつた。X 年 Y-2 月ごろまでは歩行可能であり、日常生活動作も自立していた。しかし、Y-1 月ごろから呂律が回らなくなり、自室内での歩行にも見守りや軽介助が必要となつた。Y 月に入ると、日中もほとんど寝て過ごすようになった。

Y 月 22 日には、さらに状態が悪化し、起き上がれなくなり、食事を摂取できなくなった。Y 月 24 日には薬の内服が困難となり、家族が介助を試みたが開口できず、内服不能の状態となつた。このため、同日に A 病院を受診し、点滴および経鼻胃管が挿入され、常用薬の投与が開始された。翌日、前医の神経内科を紹介受診し、診察時には開口障害、意識障害、四肢の筋緊張亢進、およびミオクローヌスを認めた。この時点で、破傷風や stiff-person 症候群が疑われ、当院へ紹介され入院となつた。

【既往歴および生活歴】

患者はパーキンソン病に加え、慢性腎不全および甲状腺癌の既往を有しており、甲状腺摘出後の管理を受けていた。生活歴としては、妻と二人暮らしであり、次男夫婦が隣に居住していた。喫煙歴は 20 歳から 50 歳までの 30 年間。飲酒は缶ビール 1 日 1 本程度だった。

【入院時身体所見】

入院時、患者は眼位正中であり、声をかけると目が合うものの、すぐに視線が逸れる状態であった。上下注視は可能であるが、左右の指示には反応しなかつた。顔面は左右対称であり、口腔失行は認められなかつたが、開口障害があり、口角の牽引は可能であった。挺舌は歯列を超えず、上肢の拳上は可能であったが、筋緊張は亢進していた。また、立位を指示すると、なんとか立ち上がろうと試みるもの、途中で体勢を崩す様子が観察された。

【検査所見】

血液検査では、炎症反応の上昇と腎機能低下、高ナトリウム血症を認めた。甲状腺機能に関しては TSH の上昇と Free T4 の低下がみられ、甲状腺機能低下症を認めた。

CT では、るい瘦のため画像の評価が困難な部分があつたが、誤嚥性肺炎が示唆された。

【診断および入院時のプロブレムリスト】

診断として、パーキンソン病、甲状腺機能低下症、および慢性腎不全が挙げられた。入院時のプロブレムリストは以下の通りである。

1. パーキンソン病
2. 体動困難
3. 脱水
4. 甲状腺機能低下症
5. 腎機能障害

【入院後経過】

入院後、患者の状態の悪化が見られたが、採血結果からパーキンソン病の進行のみでは説明がつかないと判断された。そのため、まずは脱水の補正を行いながら、全身状態の回復を図ることを目的に精査を進める方針とした。

入院 1 日目には 37.6°C の発熱を認め、尿検査では白血球反応陽性および多数の細菌が検出された。翌日、採血では CRP および WBC の上昇が認められたため、熱源を特定するために CT 撮影を実施した。その結果、両肺野背側に浸潤影が認められ、誤嚥性肺炎の疑いが強まった。これに対し、アンピシリン・スルバクタム (ABPC/SBT) を投与し、加療を開始した。

しかし、入院 5 日目の未明より徐々に酸素化が低下し、血圧の低下が進行した。その後、心停止に至り、死亡が確認された。

2. 臨床的疑問点

- ①パーキンソン症候群の診断
- ②腎機能障害の病態
- ③死因

3. 病理解剖の主な所見

肺では誤嚥性肺炎の所見と、重症な肺炎や急速進行性の呼吸不全を示唆する AFOP pattern がみられた。

腎臓では尿細管間質に好中球の浸潤がみられ、急性尿細管障害の所見を認めた。

膀胱内には膿尿が貯留しており膀胱炎を来していた可能性が伺えた。

下降結腸から S 状結腸にかけては高度拡張がみられたが、消化管穿孔はみられなかった。

4. 臨床的疑問点に対する考察

- ①パーキンソン症候群の診断

パーキンソン病は黒質のドパミン神経細胞が障害されることで発症し、運動緩慢、振戦、筋強剛、姿勢反射障害を中心としたパーキンソニズムと呼ばれる運動症状が前景となる神経変性疾患で

ある。一方でパーキンソン病の診断にはいくつかの条件を満たす必要があり、パーキンソニズムを呈するものの条件を満たさない者をパーキンソン症候群と呼称する。

本症例は除外条件に当てはまらず、L-dopa 内服で症状改善が認められていたこと、MIBG 心筋シンチグラフィで心筋交感神経期に脱髓を認めたことなどから臨床的にパーキンソン病と診断されていた。

入院 2 ヶ月前から急速に ADL の低下が進行したため、他の病態を疑い病理解剖を行った。大学にて脳病理解剖を行ったが、パーキンソン病に矛盾ない所見であり、これにより急速な ADL 低下は原病以外の要因があったことが覗える。

②腎機能障害の病態

入院前年より腎機能の悪化が進行し、入院時には eGFR が著しく低下していた。尿検査では尿潜血、膿尿、尿中 β 2MG の著増が認められた。病理所見では急性尿細管壞死が確認されたが、糸球体病変や腎硬化症の所見は見られなかった。急性尿細管壞死の原因としては、脱水による腎血流低下、腎排泄性薬剤の影響、敗血症による血圧低下などの複合的要因が関与したと考えられる。

③死因

本症例の死因は敗血症性ショックと考えられる。入院 2 ヶ月前より急速な ADL 低下が見られたが、内服中断の可能性は低く、高ナトリウム血症が症状悪化に関与していた可能性がある。

また、血液・喀痰・尿培養すべてから黄色ブドウ球菌が検出されており、感染源として肺炎が最も有力と考えられる。敗血症性ショックの原因菌として黄色ブドウ球菌は比較的頻度が高く、特に院内肺炎の起因菌として知られている。

尿路感染の可能性も考慮されたが、剖検所見で腎孟腎炎の所見はなく、尿路感染が敗血症の主要な感染源とは考えにくい。カテーテル感染も否定できないが、刺入部の発赤など明らかな感染兆候は認められなかった。

また、病理解剖では腸管の高度拡張が認められたが、黄色ブドウ球菌が Bacterial Translocation の原因菌となることは稀であり、今回の菌血症の原因としては可能性が低いと判断された。

5. 結論

本症例は、パーキンソン病治療中に急速な ADL 低下と全身状態の悪化を呈し、敗血症性ショックで死亡した一例である。病理解剖の結果、パーキンソン病の診断に矛盾はなく、死因としては肺炎による敗血症性ショックが最も有力と考えられる。敗血症の背景としては、全身状態の悪化、腎機能低下、経口摂取不良、パーキンソン病の進行などの複合的な要因が影響したと考えられる。

CPC レポート（第 161 回 中央病院 CPC）

研修医指名：二子石想、秋吉真衣、宇奈手咲子

CPC 年月日：2024 年 11 月 5 日

解剖番号：A1000

診療科：腎臓内科 主治医：寶意翔太郎 病理解剖医：小田晋輔

1. 臨床経過および検査所見と臨床診断

【症例】85歳男性

【主訴】排尿困難感 下腹部膨満感 食欲低下

【現病歴】

2023/1/11に頻尿・排尿時痛が出現し、その二日後、排尿障害のためかかりつけ医から前医に紹介受診となった。尿細胞診陽性で超音波では膀胱右壁に腫瘍の疑いがあった。また、膀胱炎の合併を認め、セフカペンピポキシルを投与され帰宅となった。

1/19の午前二時頃から排尿困難感、下腹部膨満感があり前医を救急受診し、食欲不振もあったことから同日前医入院となった。入院後、尿量少なく経過し、経口摂取状況悪く浮腫の増悪も認めていた。前医入院6日後の1/25に腎機能悪化傾向、持続する代謝性アシドーシス、白血球增多の精査加療目的に当院転院となった。

【既往歴】

前立腺癌（14年前 前立腺全摘術）

【併存症】

糖尿病、高血圧、高脂血症、高尿酸血症、膀胱内乳頭粘液性腫瘍

【アレルギー歴】

なし

【家族歴】

姉：胃癌

【生活歴】

飲酒：ビール350mL/日 喫煙：なし

【内服薬】

- ①ランソプラゾール 15mg 1錠
- ②アロプリノール 100mg 1錠
- ③テルミサルタン 40mg 1錠
- ④シタグリプチン 50mg 1錠
- ⑤ロスバスタチン 2.5mg 1錠
- ⑥センノシド 12mg 2錠
- ⑦アセトアミノフェン 500mg 3錠
- ⑧トラネキサム酸 3Cp
- ⑨ビベグロン 50mg 1錠
- ⑩ピコスルファートNa 10mL

【身体所見】

身長 158.0cm 体重 71.8kg BMI 28.8

BP 127/73mmHg PR 100回/分 RR 28回/分

SpO2 95% (r.a) BT 35.5°C

意識清明

胸部 ラ音なし 明らかな心雜音なし

腹部 膨満 軟 圧痛はっきりしない

全身浮腫 ++/++

【検査所見】

(血液検査)

プロカルシトニン 0.68ng/mL, プレセプシン 1147.5pg/mL,
ALB 2.6g/dL, CRP 3.94mg/dL, T-Bil 0.3mg/dL, D-Bil 0.1mg/dL, T-CHO 90mg/dL, HDL-CHO
47mg/dL,
LDL-CHO 22mg/dL, TG 143mg/dL, AST 54U/L, ALT 29U/L, ALP (IFCC) 103U/L, γ -GT 51U/L,
LD (IFCC) 1223U/L, CK 205U/L, アミラーゼ 46U/L, BUN 116mg/dL, CRE 6.0mg/dL, eGFR 7.62ml/
min/1.73m², UA 11.2mg/dL, Ca 7.7mg/dL, 無機リン 6.6mg/dL, マグネシウム 3.2mg/dL, Fe 29
 μ g/dL, フェリチン 1418.1ng/mL, Na 135mmol/L, K 5.8mmol/L, Cl 97mmol/L, IgG 765mg/dL,
IgM 24mg/dL, IgA 165mg/dL, C3 88mg/dL, C4 26mg/dL, CH50 52.3/mL, 血糖 159mg/dL, HbA1c
(NGSP) 8.8%, WBC 10³ 39.63/ μ L, RBC 10⁶ 4.24/ μ L, HGB 13.8g/dL, PLT 10³ 134/ μ L,
PT-INR 1.21, APTT (秒) 59.8 秒, フィブリノーゲン
248.5mg/dL, D ダイマー 3.6 μ g/mL, TSH 1.698 μ IU/mL (ECLIA), FT4 0.90ng/dL (ECLIA),
IL-6 817.4pg/mL, PSA 0.63ng/mL

(LD アイソザイム /IFCC)

LD1 11.5%

LD2 35%

LD3 21.2%

LD4 11.8%

LD5 20.5%

総活性値 1410U/L

LD1 定量 162U/L

LD2 定量 494U/L

LD3 定量 299U/L

LD4 定量 166U/L

LD5 定量 289U/L

(静脈血ガス)

pH 7.344

pCO₂ 28.8mmHg

pO₂ 32.4mmHg

HCO₃⁻ 16.6mmol/L

Lac 8.8mmol/L

(尿検査)

色調 赤色

比重 1.015

PH 6.0

尿蛋白 (4+)

尿糖 (-)

尿潜血 (3+)

亜硝酸塩 (-)

白血球反応 (3+)

沈渣 RBC \geq 100/HPF

沈渣 WBC 50 ~ 99/HPF

【単純 CT】

皮下浮腫あり.

胸部 : 両側少量胸水貯留.

両下葉, 肺底部に圧排性無気肺を疑います.

上縦隔右側に軟部濃度あり. 矢状断再構成像では脂肪織混濁のようにも見えます.

右心横隔膜角リンパ節に軽度腫大あり.

心拡大なし. 心嚢水貯留なし.

腹部 : 中等量腹水貯留.

腹腔内, 後腹膜腔, 膀胱直腸窩, 骨盤壁沿いに脂肪織混濁や軟部濃度を疑います.

膀胱内に balloon catheter が留置されています.

膀胱にびまん性の高度壁肥厚, ないし内腔にやや高吸収を呈する尿貯留（血性や膿性 r/o）を疑います. 壁肥厚とすると, 炎症や浸潤性に拡がる腫瘍性病変の除外を要します. 前述の腹腔内, 後腹膜腔, 骨盤壁沿いの脂肪織混濁や軟部濃度との関連も考慮されます.

前立腺癌術後のこと.

前立腺術部付近にも, 膀胱と一塊となる軟部濃度が疑われます.

水腎症なし. 腎腫大なし.

(黄○) 右外腸骨域リンパ節に軽度腫大あり. 炎症反応性変化や転移 鑑別.

肝実質はまだら状に低吸収を呈し, 脂肪肝や肝障害 s/o

(橙○) 膵頭部に囊胞状構造を疑います. 主胰管拡張なし.

胆, 脾, 副腎に特記すべき所見は認めません.

頸椎, 腰椎変性 s/o

【診断】

皮下浮腫, 胸腹水

腹腔内, 後腹膜腔, 骨盤壁沿い脂肪織混濁・軟部濃度

膀胱高度壁肥厚ないし高吸収内容

前立腺癌術後

【入院時プロブレムリスト】

1 急性腎障害

2 敗血症

3 脱水

4 膀胱炎

5 膀胱がん疑い

6 尿路損傷による尿整復水疑い

【入院後経過の概要】

1/26 に当院入院後, 感染に対してメロペネム投与, 腎機能悪化・代謝性アシドーシスに対して透析

が開始された。その後、後述する理由により透析中止され、CHDF 目的に EC 入院となった。大量の補液を行うも血圧保てず翌日には NAD が開始となったが全身状態悪化し入院翌日に永眠された。

1. 3について

1/19 には eGFR 41.7、クレアチニン 1.27 だった腎機能が 1/25 にかけて急激に悪化し、入院前には eGFR 8、クレアチニン 5.78 まで低下していた。

腎不全の原因としては腎孟拡張も目立たず腎後性か確証を得ることができなかった。また、糸球体腎炎かどうかの診断のため腎生検が考慮されたが全身状態悪く行うことができなかった。まずは尿毒症症状改善のため透析が開始されたが頻脈性心房細動、収縮期血圧 < 100 となり中止となり CHDF 施行のため EC 入院となった。その後、持続透析を行うも代謝性アシドーシス・Lac の改善なく状態悪化し、積極的な治療をせず看取りの方針となった。

2. 4について

1/13 に前医にて膀胱炎に対してセフカペンピポキシルの投与が開始されたが徐々に炎症反応は上昇していき、前医入院時から当院入院前にかけてさらに上昇していった。当院ではセフカペンピポキシルからメロペネムにエスカレーションされたが大きな改善は得られなかった。血圧の低下が止まらず、入院翌日からノルアドレナリンの投与が開始となったが改善は得られなかった。入院時には敗血症の状態になっており、カテーテル尿・静脈血による培養検査を行ったが、培養結果が出る前に永眠された。死後、カテーテル尿からは *Candida albicans* が陽性であり、静脈血からは培養陰性だった。

5. 6について

前医で行われた尿細胞診で陽性であり CT でも腹腔内・後腹膜・膀胱直腸窩に脂肪織混濁や軟部影を認め、膀胱腫瘍の疑いとなった。しかし、全身状態が悪く精密検査を行うことができなかった。膀胱癌疑いや尿量の低下、尿管周囲の混濁があったことから尿路損傷により尿が腹腔内へ漏れ出てしまっている尿性腹水の可能性を疑われた。また、尿路感染に関しては尿性腹水による後腹膜・腹腔内の汚染が感染巣になっているのではないかと考え、尿路損傷の精査のため造影 CT が撮影されたが、明らかな上部尿路損傷や膀胱破裂の所見は認められなかった。後腹膜ドレナージや腹腔穿刺など外科的処置も考慮されたが、全身状態悪く行うことができなかった。

【病理解剖診断】

(主病変)

膀胱未分化癌 : apT4b,N3,M1b,StageIVB

—領域外リンパ節（腹腔内）・遠隔転移（右鎖骨上窩）、癌性腹膜炎有り

(副病変)

カンジダ性膀胱炎、カンジダ血症

肺鬱血・水腫・出血（左 270g : 右 320g）

急性尿細管障害、腎硬化症（左 114g : 右 121g）

脾 Intraductal papillary mucinous neoplasm, gastric type

脂肪肝（869g）

直腸 低異型度管状腺腫

腔水症（左胸水 300mL : 右胸水 100mL : 腹水 900mL）

[前立腺摘出後（前立腺癌再発所見なし）]

【臨床的疑問点】

- ①急性腎障害の原因
- ②死因に寄与した病態

①急性腎障害の原因

急性腎障害とは腎臓の機能が低下することで、腎臓の主な機能である水分・老廃物の排泄や電解質のバランス調整、血圧のコントロール等が上手く働くかず、体内の恒常性が保てない状態のことを示す。急性腎障害の定義は、48時間以内に血清Cr値が0.3mg/dL上昇した場合、血清Cr値が7日以内に基準値から1.5倍の増加があった場合、尿量が6時間以上にわたって<0.5mL/kg/時に減少した場合のいずれかを満たすことである。本症例はY/19前医にて血性Cre値1.27、Y/25前医にて血清Cre値5.06と、血清Cr値が7日以内に基準値から1.5倍の増加を満たすため、急性腎障害の定義を満たしている。KDIGO診断基準より急性腎障害の病期としては病期3と考えられる。急性腎障害の原因は主に腎前性、腎性、腎後性に分けられ、腎前性では細胞外液量の低下や有効循環血液量の減少、末梢血管抵抗の低下等によって、腎血液量が低下し糸球体濾過量も低下し、急性腎障害となった状態。

腎性は腎血管性・糸球体性・急性尿細管壊死・間質性の腎疾患、腎後性は尿路閉塞の状態が考えられる。

今回の症例は、臨床面ではY/26の当院での単純CTより腎周囲に脂肪織混濁あるも液体の有無は分からず、また腎孟拡張も目立たず、水腎症の所見もなく、尿路閉塞の所見は見当たらなかった。尿検査結果より高度蛋白尿と顕微鏡的血尿がみられ、糸球体腎炎や膀胱炎・膀胱癌による出血が考えられた。Y/26の血液検査所見よりFENa=5.77%だった。

一般的にFENaが1%未満であれば、腎前性腎障害の可能性が高いが、CKDを基礎疾患とする症例や利尿薬を服用している症例では、腎前性腎障害であってもFENaが1%より大きくなることがある。前医からの紹介文より、前医に膀胱炎として受診する4ヶ月前から、eGFRの値が60を下回っており、少なくとも3ヶ月以上は腎機能低下状態であったことが伺え、本症例はCKDの状態であり、FENaが1%以上だからと言って腎前性でないと言い切れない状態だった。病理面に関し、膀胱では膀胱未分化癌が見られた。腎臓では急性尿細管障害がみられ、高血圧の影響あり腎硬化症が見られた。また免疫蛍光抗体法を行った際に、糸球体腎炎を疑うような陽性所見は見られず、顕微鏡的血尿や蛋白尿に関しては糸球体腎炎も可能性は低く、膀胱炎・膀胱癌による出血の可能性が高いと考えられた。

臨床面・病理面を踏まえ、脱水・ARB・敗血症・膀胱未分化癌が急性腎障害の要因として考えられる。

1) 脱水

病理解剖より進行した膀胱未分化癌が存在している中、Y/19より経口摂取不良あり水分が摂取出来ておらず、当院入院時の単純CTからも下大静脈の虚脱がみられ、本症例は血管内脱水が生じていた。

背景に進行した膀胱未分化癌が存在し、膀胱未分化癌による悪液質が脱水に関与していた可能性も考えられる。そもそも、悪液質とは種々の慢性消耗性疾患における栄養不良の週末像であり、栄養不良により全身が衰弱した状態であり、進行癌患者の50-80%に認められると言われ、

ステージによって前悪液質、悪液質、不応性悪液質に分けられる。これらの状態ではサイトカイン上昇による血管透過性亢進やタンパク合成能低下によるアルブミン低下によってサードスペースの増加や循環血液量の低下が引き起こされる。AWGCが発表したアジア人向け悪液質診断基準において、本症例では病因として進行した膀胱未分化癌が当てはまる。体重減少に関しては、詳しい経過が不明なため判断が出来ず。主観的症状として食欲不振もあり、バイオマーカーとしては膀胱炎の炎症もありますがCRPの上昇も認めた。副所見として全身性浮腫の亢進や腹水・胸水の増加を認めた。悪液質は進行癌において50-80%の有病率があることからも悪液質であった可能性は否定できず、少なからず脱水に寄与していたと考察される。

本症例の脱水の原因は、①進行した膀胱未分化癌の影響で経口摂取不良による脱水、②膀胱未分化癌によるサイトカイン産生亢進によって血管透過性も亢進し脱水が強く生じたという2つの要因で腎前性腎障害になったと考察した。

2) ARB

本症例は高血圧の既往あり、テルミサルタンを内服していた。腎動脈狭窄や脱水で腎血流量が低下している患者や血清クレアチニンが高い患者に通常量のACE阻害薬やARBを投与すると虚血性変化を起こし、腎前性急性腎不全になりうる。本症例は血清クレアチニンが高値の中でARBを服用し、急性腎障害が発症したことが考察される。

3) 敗血症

敗血症AKIは敗血症患者の10-67%に発症し、敗血症AKIの合併によって敗血症患者の死亡率は6-7倍高くなる。敗血症の急性腎障害の発症リスクとして発症前腎機能低下、加齢、レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系阻害薬の使用がリスク因子である。Y/19の時点でeGFR:41.7と腎機能が低下し、85歳と高齢であり、内服薬にARBがあったことから、敗血症性AKIになるリスク因子を持っていた。敗血症の場合、病理所見ではショックによる虚血性変化から肝臓では肝小葉中心部の壊死、腎臓では尿細管壊死が見られるが、本症例では肝臓の所見は脂肪肝のみで壊死性変化はなく、腎臓も軽度の尿細管障害のみで、敗血症の直接的所見としては弱いものであった。ただ副腎所見より左右ともに皮質の脂質が消失しており、ステロイドを產生し全身状態を維持しようとしていたことが伺え、敗血症の間接的所見はみられているため、敗血症も急性腎障害の要因として考察される。

4) 膀胱未分化癌

膀胱未分化癌は「癌腫であることは明らかであるが、癌細胞が未分化なため、いずれの組織型にも分類できないもの」と規定されている。未分化癌は症例数が少なく、小細胞癌と混同された報告が多いため詳細は不明だが、膀胱腫瘍の1%以下の発生頻度で非常に予後不良とされている。本症例は、病理解剖上では左右尿管は腫瘍内に巻き込まれていたが、臨床上は水腎症、尿路閉塞所見は見られていなかった。膀胱未分化癌による腎後性腎障害は生じていないと考察される。

1)～4)を踏まえ、本症例が急性腎障害に至った経緯として、背景に膀胱未分化癌が存在し、①膀胱未分化癌により経口摂取不良、それによる脱水からの急性腎障害という流れ、②経口摂取不良から免疫力低下が起きカジダ膀胱炎になり、カジダ膀胱炎からの敗血症が起き急性腎障害になったという流れ、③膀胱未分化癌が産生した炎症性サイトカインによる血管透過性亢進からの脱水による急性腎障害になったという3つの流れが考えられる。また内服薬であるARBも急性腎障害に影響していたと考察する。

②死因に寄与した病態

1) 尿路感染症による敗血症性ショック

敗血症とは、感染症に対する制御不能な宿主反応に起因した生命を脅かす臓器障害と定義されている。敗血症性ショックは、死亡率を増加させる可能性のある重篤な循環、細胞、代謝の異常を有する敗血症のサブセットと定義されており、重症の敗血症という位置づけとなっている。敗血症および敗血症性ショックの診断はフローチャートに沿って行われるが、そこで「qSOFAスコア2点以上」と「SOFAスコア2点以上の急上昇」の2つがポイントになる。実臨床では感染症があり循環不全があれば敗血症と判断して対応すべきであると言われている。乳酸値の評価も敗血症の判断では重要であり、乳酸値の上昇があれば循環不全として判断する。qSOFAスコアは呼吸回数22回以上、GCS15未満、収縮期血圧100以下の3項目で評価し、2つ以上を満たす場合に敗血症を疑う。本症例では入院時のqSOFAスコアは呼吸回数のみ該当しており、qSOFAスコアでは敗血症の疑いとはならなかった。しかし入院時の乳酸値が8.8もあったため、qSOFAスコアだけでなく、SOFAスコアでも評価した上で敗血症かどうか判断する必要がある。SOFAスコアは、P/F比、血小板数、ビリルビン値、平均血圧、GCS、Creまたは尿量の6つの指標で臓器障害を評価するものである。本症例は1/13、SOFAスコア1点（凝固能1点）、1/19、2点（凝固能1点、腎機能1点）、1/25、5点（凝固能1点、腎機能4点）という経過になっており、当院入院前日にはすでにSOFAスコア2点以上の急上昇を認め敗血症の診断基準を満たしていた。敗血症性ショックの診断については、乳酸値は入院前より2mmol/L以上あり、敗血症性ショックの診断基準の2つ目の条件を満たしていました。また、入院翌日の早朝より輸液負荷をしているにも関わらず血圧が低下し始め1つめの条件も満たすようになり臨床的に敗血症性ショックに至っていたと考えられる。まとめると臨床的には入院前日にすでに敗血症になってしまっており、入院8時間後には敗血症性ショックになっていたと考えられる。

敗血症の感染源には、感染性心内膜炎、肺炎、尿路感染、胆囊炎・胆管炎、末梢血管内カテーテル感染、中心静脈カテーテル感染、熱傷、髄膜炎などがある。本症例は頻尿・排尿時痛などの膀胱炎症状があり、さらに尿検査で膿尿・細菌尿を認めた。CTでは膀胱壁の強い浮腫性変化もあったため膀胱炎を発症していたと考えられる。膀胱炎の起因菌に関しては、入院時の尿培養からはCandida albicansが検出された。カンジダ性尿路感染症は、コンタミネーションやコロナイゼーションとの鑑別が必要だが、10万CFU/mL以上の真菌が検出された場合に有意なカンジダ尿症ととらえることができる。本症例は100万CFU/mLの真菌が検出され有意なカンジダ尿症があったと言うことができ、カンジダ性膀胱炎があったと考えられる。そのほかの感染源に関しては、症状、画像所見、血液検査所見からは髄膜炎、肺炎、胆管炎・胆囊炎、腎孟腎炎、感染性心内膜炎は否定的と考えられる。また、敗血症発症時には血管内にカテーテルも留置されていなかったためカテーテル関連血流感染もなかったといえます。以上から臨床的には敗血症に至った感染源として膀胱炎の可能性が最も高いと考えられる。ここまでをまとめると、臨床的に敗血症性ショックの診断ができ、感染源としては尿路感染症による敗血症性ショックがあつたと考えられる。

病理結果としては、死後の血液培養からCandida albicansが検出された。また、膀胱粘膜表面にCandidaを認め、そのほかの臓器にCandidaを認めなかつたことからカンジダ性膀胱炎からカンジダ菌血症をきたしたと考えることができる。臨床的には敗血症性ショックの診断となつたが、病理結果では肝臓の所見は脂肪肝のみで壊死はなく、腎臓の所見も軽い尿細管障害のみで

あり、敗血症性ショックを示唆する所見は弱かった。しかし、副腎皮質が消失しており間接的な敗血症性ショックの所見はあったため、敗血症性ショックはあったと考えられ、死亡に関与した可能性があると考えられる。

2) 急性腎障害

腎機能低下時の症候として高カリウム血症と代謝性アシドーシスが挙げられる。高K血症によって四肢の筋力低下や不整脈が生じる。本症例は急性腎障害に伴い経時的に血清K値が上昇していたため急性腎障害による高K血症があったと考えられるが、モニタリング上では致死性不整脈は生じていなかっただけでなく高K血症による不整脈が直接死亡に関与していた可能性は低いと考える。代謝性アシドーシスでは心筋の活動電位が低下し、血圧低下、ショックを引き起こし死亡することがある。本症例は急性腎障害に伴って代謝性アシドーシスが出現しており、急性腎障害による代謝性アシドーシスがあったと考えられる。心エコーでは浮腫が強く描出不良で壁運動の評価が困難であったが、胸部レントゲンでは亡くなる17時間前のCTRが55%、亡くなる12時間前のCTRが59%と経時的に心拡大を認め、心機能低下があったことが推測されます。したがって急性腎障害による代謝性アシドーシスが死亡に関与していた可能性が考えられる。

3) 膀胱癌疑い

臨床的には、画像検査や尿細胞診から膀胱癌が疑われていたが、全身状態が悪かったため精査を進められず、膀胱癌疑いにとどまっていた。また膀胱癌であった場合にどこまで癌が浸潤しているのか不明であった。しかし、病理解剖の結果、進行膀胱未分化癌があることが判明した。本症例の臨床面の問題点として、脱水、急性腎障害、膀胱炎、敗血症、腹腔内の液体貯留と脂肪織混濁の正体が不明、血圧低下・ショックが挙げられる。それぞれの膀胱癌の関与について考察していくこととする。

・脱水

本症例は1/19（亡くなる1週間前）より経口摂取不良であった。その時点では膀胱炎と進行膀胱癌があるのでこの両者が経口摂取不良に関与し、特に進行膀胱癌が強く関与し経口摂取不良による脱水があったと考えられる。また、経口摂取不良だけでなく、癌によって炎症性サイトカインの産生が亢進し血管透過性の亢進があったと考えられ、これら2つの点で膀胱癌が脱水に関与していたと考えられる。

・急性腎障害

腎後性腎障害に関しては、解剖所見では左右尿管は膀胱癌に巻き込まれているが臨床所見では尿閉所見を認めず膀胱癌の関与の可能性は低いと考える。腎性腎障害に関しては、病理所見が腎硬化症と軽い尿細管障害のみであったため膀胱癌の関与の可能性は低いと考える。腎前性腎障害に関しては、膀胱癌による食欲不振と膀胱癌による炎症性サイトカイン産生亢進による血管透過性亢進によって脱水が起き、脱水により腎前性腎障害が発症したと考えられ、これらの流れから膀胱癌が腎前性腎障害の発症に間接的に関与していたと考えられる。

・膀胱炎

膀胱炎は単純性と複雑性に分類される。単純性は若い女性に多く、複雑性は基礎疾患有する高齢者に多い。複雑性膀胱炎の基礎疾患としては、尿路の悪性腫瘍、神経因性膀胱、尿路結石、前立腺肥大症、糖尿病などがあり、本症例は尿路の悪性腫瘍と糖尿病が該当しており、膀胱癌が膀胱炎の発症に関与していたと考えられる。

・敗血症

敗血症のリスク因子として、以下のものが挙げられる。

全般：高齢、免疫抑制状態（担癌患者、糖尿病、アルコール多飲、ステロイドや免疫抑制薬の内服など）、患者の遺伝子（TNF- α や Toll 様受容体の遺伝子多型）など

血流感染：血管内留置カテーテルの長期留置、経静脈栄養

呼吸器感染：COPD の既往、長期の気管挿管、手術歴、誤嚥など

腹部感染：炎症性腸疾患の既往、手術歴など

尿路感染：尿道カテーテルの長期留置、長期臥床、女性

本症例は 85 歳と高齢であること、膀胱癌、糖尿病が該当し、膀胱癌が敗血症の発症に関与していたと考えられる。

・腹腔内の液体貯留と脂肪織混濁の正体が不明

本症例は CT 検査で腹腔内の液体貯留と脂肪織混濁がみられたが、尿性腹水なのか癌性腹水なのかその正体については不明のままであった。病理結果としては、腹水については調べられていないため成分は不明だったが、癌性腹膜炎の所見があり、尿性腹水の原因となるような膀胱穿破や上部尿路損傷の所見はなかったため、癌性腹水と癌の浸潤であった可能性が最も高く、こちらも膀胱癌が関与していると考えられる。

・血圧低下・ショック

進行膀胱癌から分泌される炎症性サイトカインによって全身の血管透過性が亢進していたと考えられる。また、腫瘍組織内の新生血管の脆弱性および透過性亢進もあったと考えられるところから膀胱癌は輸液療法に反応しない血圧低下・ショックに関与していたと考えられる。

以上より進行未分化膀胱癌が本症例のあらゆる病態に関与していたと考えられる。

1) ~ 3) を踏まえ本症例の死因に寄与した病態としては、背景に膀胱未分化癌の進行があつたことで経口摂取不良に陥り、脱水や免疫力低下が引き起こされた。それによりカンジダ膀胱炎に罹患し敗血症になったと考えられる。敗血症・脱水・ARB 内服歴が引き金となり急性腎障害となり、同時に敗血症や膀胱未分化癌からの炎症性サイトカインにより血管透過性が亢進しショックに陥り、最終的に循環不全、死亡へとつながったと考察する。

参考文献

- ・腎疾患・透析最新の治療 2023–2025
- ・AKI（急性腎障害）診療ガイドライン 2016
- ・膀胱癌診療ガイドライン 2019
- ・腎と透析 95 卷 7 号 特集 病因・病態生理から読み解く腎・泌尿器疾患のすべて
- ・腎と透析 96 卷 6 号 特集 感染症と腎疾患
- ・敗血症診療ガイドライン 2020
- ・日本内科学会雑誌 2014 急性腎障害と臓器関連
- ・臨床泌尿器科 vol71 増刊号 2017 カンジダ感染症
- ・日本集中治療医学会雑誌 2009 尿路感染症に起因する敗血症性ショックの臨床的特徴
- ・検査と技術 vol46 増刊号 2018 敗血症
- ・ホスピタリストのための内科診療フローチャート第 3 版
- ・がん悪液質ハンドブック

業績集規約

【業績目録】

1. 当院職員が当院在職中に発表した業績を対象とする。

2. 重複する目録は筆頭者の所属のみに掲載とする。

3. 〈誌上発表〉 〈学会・研究会発表〉 〈講演・講義・研修会〉 〈新聞・テレビ・ラジオ〉 〈学会・研究会の主催〉 を対象とする。

4. 書式・表記法

〈誌上発表〉 …論文：タイトル（改行）著者（改行）雑誌名、巻数：頁 - 頁、発表年（西暦）
著書：タイトル（改行）著者（改行）書籍名（出版社名）、巻数：頁 - 頁、発表年（西暦）

※雑誌名は医学中央雑誌に準ずる。

〈研究会・学会発表〉 …タイトル（改行）演者（改行）学会名、発表場所、発表年（西暦）、月

〈講演・講義・研修会〉 …タイトル（改行）演者（改行）講演名、発表場所、発表年（西暦）、月

〈新聞、テレビ、ラジオ〉 …タイトル（改行）演者（改行）メディア名、発表年（西暦）、月

〈学会・研究会の主催〉 …学会名（改行）主催者名、発表場所、発表年（西暦）、月

・著者・演者の数が多く省略するときは「〇〇、他」、「〇〇、et al.」と表記する。

・発表場所は、東京都、鳥取市、八頭町などと表記する。

・著者・演者名はその途中で改行されないようにする。

【臨床統計】

1. 手術統計は診療報酬点数表をもとにつくることを原則とする。

2. 点数表にない手術もしくは学術的に名称が妥当でないものについては各部署の責任者の判断とする。

3. 統計は3年分を時系列で掲載する。

【共通事項】

1. 校正は著者の責任においておこなうこととする。

2. 原稿の返却、訂正、掲載の適否、順序は委員会において決定する。

3. フォントはMSPゴシック、文字サイズは業績目録10.5pt、臨床統計10pt、見出し14pt。

4. ページ設定はA4、余白は上下左右いずれも25mm、40行/頁、45文字/行を原則とする。

5. ; : は全角とする。。、は使用しない。

6. その他の書式や表記法については本文参照。

研究業績集 第43集

発行 令和7年12月

発行者 鳥取県立中央病院長 千酌 浩樹

編集業績編集室

発行所 鳥取県立中央病院

鳥取市江津730番地

☎0857-26-2271

印刷所 有限会社 螢光社 ☎0857-22-5565

